

「授業に関するアンケート」
結果報告・授業改善計画書

2024 年度実施

国立音楽大学

はじめに

大学への進学率の高さ、多様な学生に対する大学教育の実態に対して、大学における教育の一層の充実が求められています。このような背景の中、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」いわゆるFD（Faculty Development／教員組織の教育力の向上）が各大学に義務付けられています。

本学では音楽学部並びに大学院において、教職員研修会を年に2回以上開催するとともに、授業公開の実施、授業アンケートの実施、授業改善計画書の作成等が定着し成果を上げています。

本書は、本学におけるFDに関する取り組みの一部をまとめたものです。2024年度に実施した授業アンケートの集計結果、授業公開や公開レッスンの一覧、アンケートを踏まえた各教員の授業改善計画書を掲載しています。

教育に関する問題・課題は常に絶えることはありません。これらの改善・充実のためには不断の対応や取り組みが求められます。今後も国立音楽大学は組織的に教育力を高めてまいります。

2025年8月

国立音楽大学 大学院委員会 委員長 梅本 実

学部教務委員会 委員長 足本 憲治

基礎ゼミ I アンケート (学生用)

①学年

②専攻・専修

③クラス

(あなた自身について)

④基礎ゼミ I では学習意欲を持ち積極的に参加しましたか。

⑤基礎ゼミ I を通して、学生間の交流は深まりましたか。

⑥基礎ゼミ I を通して、教員との交流は深まりましたか。

(オーケストラ・オペラコンサート／室内楽コンサートについて)

⑦内容に満足しましたか。

⑧音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

⑨自分の音楽や大学生活への興味・関心が広がりましたか。

(お話について)

⑩内容に満足しましたか。

⑪音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

⑫自分の音楽や大学生活への興味・関心が広がりましたか。

(施設体験について)

⑬内容に満足しましたか。

⑭体験は施設利用への理解と意欲を深めましたか。

(クラス授業について)

⑮クラス授業を受講するための自分なりの準備をして臨みましたか。

⑯レポート作成は、自分の考えをまとめるよい機会となりましたか。

⑰音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

⑱国立音大生として、学んでいく方向性を考えるのに役立ちましたか。

(基礎ゼミ I 全体について)

- ⑱教員の熱意を感じましたか。
- ⑳新しい知識や知的な刺激を受け、音楽的視野が広がりましたか。
- ㉑正規の授業を受講するための導入として、基礎ゼミ I は有効でしたか。
- ㉒基礎ゼミ I 全体の内容に対して満足しましたか。
- ㉓基礎ゼミ I を通して、国立音大に入学して良かったという実感を持ちましたか。
- ㉔基礎ゼミに関して、意見や要望などがあれば書いてください。(500 文字以内)

基礎ゼミⅡアンケート（学生用）

①学年

②専攻・専修

③クラス

（あなた自身について）

④基礎ゼミⅡでは学習意欲を持ち積極的に参加しましたか。

⑤基礎ゼミⅡを通して、学生間の交流が深まりましたか。

⑥基礎ゼミⅡを通して、教員との交流が深まりましたか。

（オーケストラ・オペラコンサート／室内楽コンサートについて）

⑦音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

（基礎ゼミⅡ受講者のためのお話について）

⑧自分の将来を考えるのに役立ちましたか。

（お話について）

⑨音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

（クラス授業について）

⑩レポート作成は、自分の考えをまとめるよい機会となりましたか。

⑪音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。

（基礎ゼミⅡ全体について）

⑫基礎ゼミⅡによって、自分の成長を自覚するきっかけになりましたか。

⑬基礎ゼミⅡは、自分のキャリアを考えるきっかけになりましたか。

⑭基礎ゼミⅡ全体の内容に対して満足しましたか。

⑮基礎ゼミⅡに関して、意見や要望などがあれば書いてください。（500文字以内）

1. 授業に関するアンケート集計結果

2025年度 授業「基礎ゼミ I」に関するアンケート結果(学生)

受講者数: 268名 回答者数: 240名 (回収率: 89.55%)

(2024年度回収率: 86.5%)

	1					無効 回答数 合計	有効 回答数 合計※	全体 平均
	2	3	4	5	回答数 (%)			
1 基礎ゼミ I では学習意欲を持ち積極的に参加しましたか。	0.4	0.0	1.0	46.0	192.0	0	240	4.78
2 基礎ゼミ I を通して、学生間の交流が深まりましたか。	0.4	1.7	3.3	23.8	70.8	0	240	4.63
3 基礎ゼミ I を通して、教員との交流が深まりましたか。	0.0	3.3	7.1	42.1	114.5	0	240	4.34
4 オーケストラ・オペラコンサート／室内楽コンサートについて：内容に満足しましたか。	0.0	0.4	1.3	5.8	22.5	0	240	4.90
5 オーケストラ・オペラコンサート／室内楽コンサートについて：音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。	0.4	0.4	2.5	16.7	80.0	0	240	4.75
6 オーケストラ・オペラコンサート／室内楽コンサートについて：自分の音楽や大学生活への興味・関心が広がりましたか。	0.4	0.4	2.5	13.8	82.9	0	240	4.78
7 お話について：内容に満足しましたか。	0.0	0.0	0.8	13.3	85.8	0	240	4.85
8 お話について：音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。	0.4	0.4	0.8	15.4	82.9	0	240	4.80
9 お話について：自分の音楽や大学生活への興味・関心が広がりましたか。	0.4	1.3	0.8	16.7	80.8	0	240	4.76
10 施設体験について：内容に満足しましたか。	0.4	0.8	2.9	22.1	73.8	0	240	4.68
11 施設体験について：体験は施設利用への理解と意欲を深めましたか。	0.0	0.0	2.1	23.8	74.2	0	240	4.72
12 クラス授業について：クラス授業を受講するための自分なりの準備をして臨みましたか。	0.8	6.3	10.4	34.6	47.9	0	240	4.23
13 レポートについて：レポート作成は、自分の考えをまとめるよい機会となりましたか。	0.0	1.3	4.6	27.1	67.1	0	240	4.60
14 レポートについて：音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。	0.4	0.8	0.4	23.8	74.6	0	240	4.71
15 レポートについて：国立音大生として、学んでいく方向性を考えるのに役立ちましたか。	0.4	1.3	3.3	25.0	70.0	0	240	4.63
16 基礎ゼミ I 全体について：教員の熱意を感じましたか。	0.0	0.0	1.3	10.4	88.3	0	240	4.87
17 基礎ゼミ I 全体について：新しい知識や刺激を受け、音楽的視野が広がりましたか。	0.4	0.4	2.1	12.1	85.0	0	240	4.81
18 基礎ゼミ I 全体について：正規の授業を受講するための導入として、基礎ゼミ I は有効でしたか。	0.0	2.9	2.5	17.5	77.1	0	240	4.69
19 基礎ゼミ I 全体について：基礎ゼミ I 全体の内容に満足しましたか。	0.0	0.8	0.8	11.7	86.7	0	240	4.84
20 基礎ゼミ I 全体について：基礎ゼミ I を通して、国立音大に入学して良かったという実感をもちましたか。	0.0	0.8	2.1	17.1	80.0	0	240	4.76

各設問の評価基準 1:まったく思わない、2:あまり思わない、3:どちらとも言えない、4:やや思う、5:とても思う

2025年度 授業「基礎ゼミⅡ」に関するアンケート結果(学生)

受講者数:314名 回答者数:197名 (回収率:62.7%)

(2024年度回収率:68.1%)

	1					2					3					4					5					無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	全体 平均
	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)							
1 基礎ゼミⅡでは学習意欲を持ち積極的に参加しましたか。						1	4	12	53	127	0	197	4.53															
	0.5	2.0	6.1	26.9	64.5																							
2 基礎ゼミⅡを通して、学生間の交流が深まりましたか。						8	21	20	70	78	0	197	3.96															
	4.1	10.7	10.2	35.5	39.6																							
3 基礎ゼミⅡを通して、教員との交流が深まりましたか。						4	21	39	70	63	0	197	3.85															
	2.0	10.7	19.8	35.5	32.0																							
4 (オーケストラ・オペラコンサート/室内楽コンサートについて)音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。						1	2	4	47	143	0	197	4.67															
	0.5	1.0	2.0	23.9	72.6																							
5 (基礎ゼミⅡ受講者のためのお話について)自分の将来を考えるのに役立ちましたか。						1	3	5	41	147	0	197	4.68															
	0.5	1.5	2.5	20.8	74.6																							
6 (お話について)音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。						0	2	8	36	151	0	197	4.71															
	0.0	1.0	4.1	18.3	76.6																							
7 (クラス授業について)レポート作成は、自分の考えをまとめるよい機会となりましたか。						3	7	16	76	95	0	197	4.28															
	1.5	3.6	8.1	38.6	48.2																							
8 音楽についての様々な課題を考えるきっかけとなりましたか。						2	2	12	51	130	0	197	4.55															
	1.0	1.0	6.1	25.9	66.0																							
9 (基礎ゼミⅡ全体について)基礎ゼミⅡによって、自分の成長を自覚するきっかけになりましたか。						3	5	23	53	113	0	197	4.36															
	1.5	2.5	11.7	26.9	57.4																							
10 基礎ゼミⅡは、自分のキャリアを考えるきっかけになりましたか。						4	2	11	44	136	0	197	4.55															
	2.0	1.0	5.6	22.3	69.0																							
11 基礎ゼミⅡ全体の内容に対して満足しましたか。						3	6	11	44	133	0	197	4.51															
	1.5	3.0	5.6	22.3	67.5																							

各設問の評価基準 1:まったく思わない、2:あまり思わない、3:どちらとも言えない、4:やや思う、5:とても思う

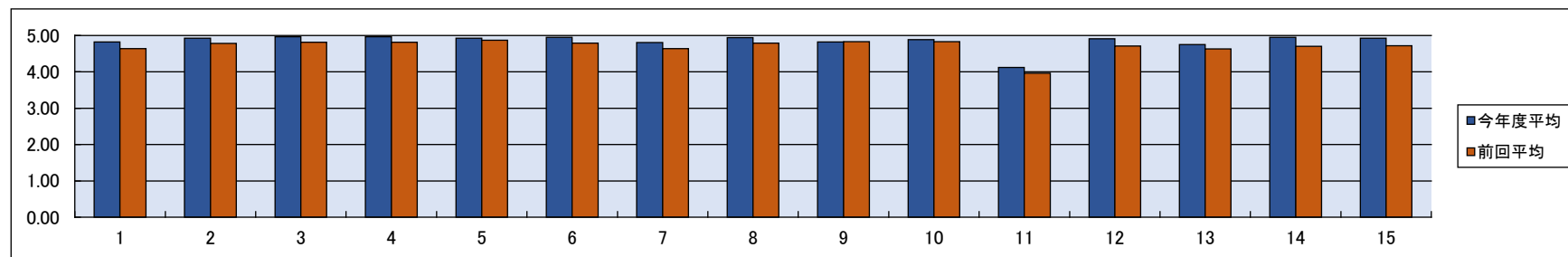
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(声楽) II IV VI VIII
学年	

受講者数：308名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	10 (11.8)	73 (85.9)	0	85	4.82	4.64
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (7.2)	77 (92.8)	2	83	4.93	4.78
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.6)	81 (96.4)	1	84	4.96	4.81
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.6)	81 (96.4)	1	84	4.96	4.81
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	2 (2.4)	80 (95.2)	1	84	4.93	4.87
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.7)	81 (95.3)	0	85	4.95	4.79
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	3	有効であった→	1 (1.2)	0 (0.0)	3 (3.7)	6 (7.4)	71 (87.7)	4	81	4.80	4.64
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.2)	81 (96.4)	1	84	4.94	4.79
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	11 (12.9)	72 (84.7)	0	85	4.82	4.83
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	6 (7.1)	77 (90.6)	0	85	4.88	4.83
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	十分行った→	1 (1.2)	3 (3.5)	22 (25.9)	18 (21.2)	41 (48.2)	0	85	4.12	3.96
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.5)	2 (2.4)	80 (94.1)	0	85	4.91	4.71
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.7)	13 (15.3)	68 (80.0)	0	85	4.75	4.63
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.7)	81 (95.3)	0	85	4.95	4.70
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	4 (4.8)	79 (94.0)	1	84	4.93	4.72

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



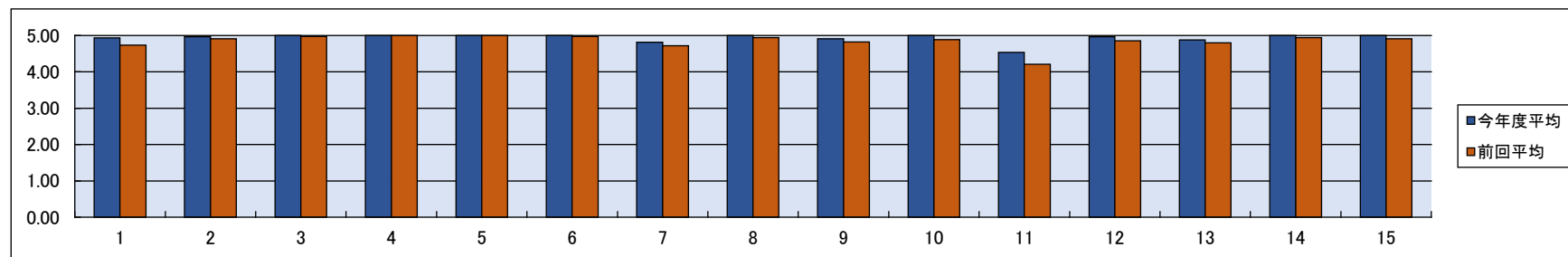
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(声楽)Ⅱ
学年	1

受講者数：86名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.3)	30 (93.8)	0	32	4.94	4.74
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.2)	30 (96.8)	1	31	4.97	4.91
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (100.0)	1	31	5.00	4.97
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0	32	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (100.0)	1	31	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった		5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0	32	5.00	4.97
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1 4	5	有効であった→	1 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.3)	29 (90.6)	0	32	4.81	4.72
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった		5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0	32	5.00	4.94
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.4)	29 (90.6)	0	32	4.91	4.82
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった		5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0	32	5.00	4.88
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.4)	9 (28.1)	20 (62.5)	0	32	4.53	4.21
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	31 (96.9)	0	32	4.97	4.85
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (12.5)	28 (87.5)	0	32	4.88	4.79
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない		5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0	32	5.00	4.94
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない		5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (100.0)	1	31	5.00	4.91

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



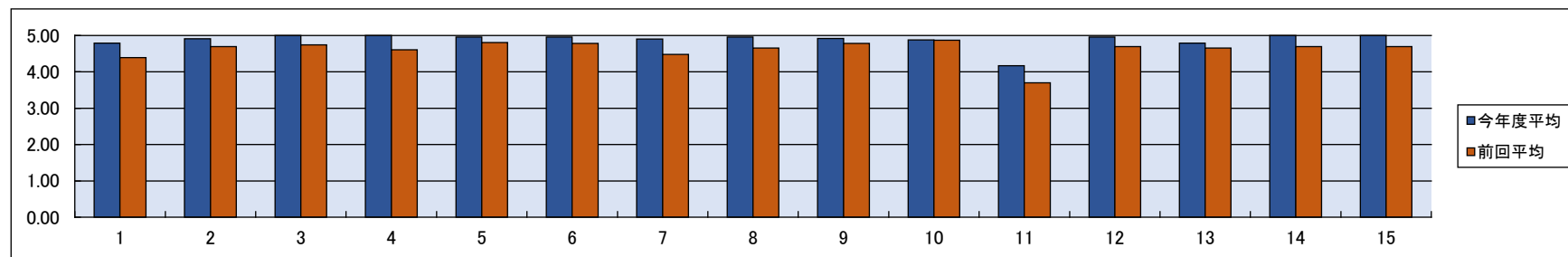
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(声楽)Ⅳ
学年	2

受講者数：77名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	2	4	5	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	21 (87.5)	0	24	4.79	4.39	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.7)	21 (91.3)	1	23	4.91	4.70	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0	24	5.00	4.74	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (100.0)	1	23	5.00	4.61	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	23 (95.8)	0	24	4.96	4.81	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	23 (95.8)	0	24	4.96	4.78	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (10.0)	18 (90.0)	4	20	4.90	4.48	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	1	23	4.96	4.65	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.3)	22 (91.7)	0	24	4.92	4.78	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	1 (4.2)	22 (91.7)	0	24	4.88	4.87	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	4	5	0 (0.0)	1 (4.2)	5 (20.8)	7 (29.2)	11 (45.8)	0	24	4.17	3.70
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	23 (95.8)	0	24	4.96	4.70	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	3 (12.5)	20 (83.3)	0	24	4.79	4.65	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0	24	5.00	4.70	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0	24	5.00	4.70	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



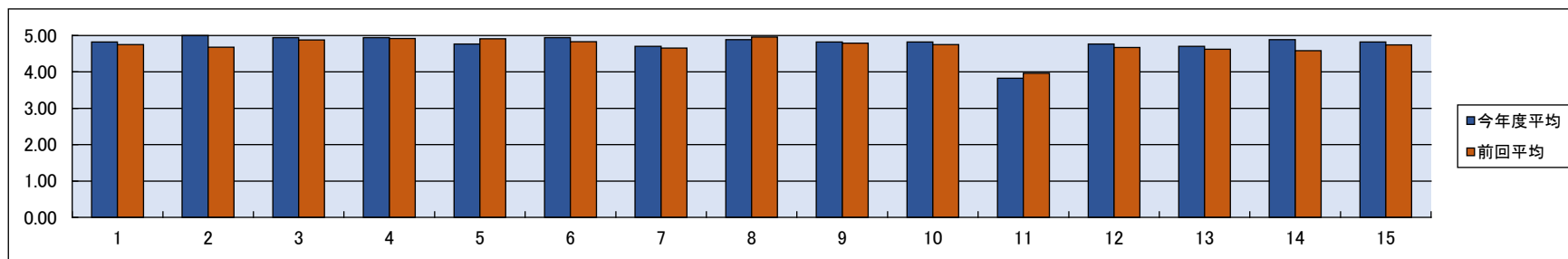
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(声楽) VI
学年	3

受講者数：70名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	14 (82.4)	0	17	4.82	4.75				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)	0	17	5.00	4.68				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	16 (94.1)	0	17	4.94	4.88				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	16 (94.1)	0	17	4.94	4.92				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	0 (0.0)	15 (88.2)	0	17	4.76	4.91				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	16 (94.1)	0	17	4.94	4.83				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	1 (5.9)	14 (82.4)	0	17	4.71	4.65			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	16 (94.1)	0	17	4.88	4.96				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	15 (88.2)	0	17	4.82	4.79			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	14 (82.4)	0	17	4.82	4.75				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	5	十分行った→	0 (0.0)	2 (11.8)	7 (41.2)	0 (0.0)	8 (47.1)	0	17	3.82	3.96			
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	0 (0.0)	15 (88.2)	0	17	4.76	4.67				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	1 (5.9)	14 (82.4)	0	17	4.71	4.63			
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	15 (88.2)	0	17	4.88	4.58				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	15 (88.2)	0	17	4.82	4.74			

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



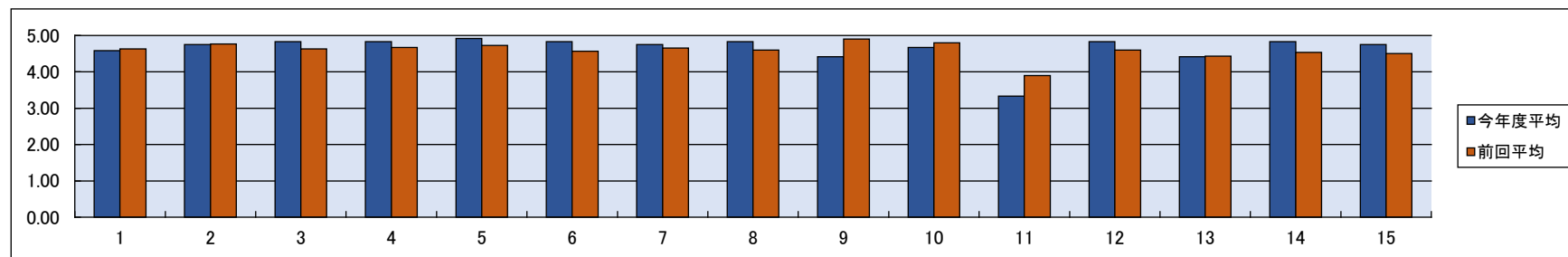
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(声楽)Ⅷ
学年	4

受講者数：75名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	8 (66.7)	0	12	4.58	4.63
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.77
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.63
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.67
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.72
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.57
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	10 (83.3)	0	12	4.75	4.66
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	11 (91.7)	0	12	4.83	4.60
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	5 (41.7)	6 (50.0)	0	12	4.42	4.90
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	2 (16.7)	9 (75.0)	0	12	4.67	4.80
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	1 (8.3)	0 (0.0)	7 (58.3)	2 (16.7)	2 (16.7)	0	12	3.33	3.90
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	11 (91.7)	0	12	4.83	4.60
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	5 (41.7)	6 (50.0)	0	12	4.42	4.43
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.53
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.50

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	イタリア語／ドイツ語／フランス語ディクシオンⅡ
学年	

受講者数：289名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 3 4 5 →守られた→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	5 (6.5)	71 (92.2)	0	77	4.91	4.94
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 3 4 5 →行われた→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	4 (5.2)	72 (93.5)	0	77	4.92	4.86
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 3 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	4 (5.3)	8 (10.5)	64 (84.2)	1	76	4.79	4.86
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 3 4 5 →接していた→				0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.9)	7 (9.1)	67 (87.0)	0	77	4.83	4.87
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 2 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	8 (10.4)	68 (88.3)	0	77	4.86	4.85
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 4 5 →分かりやすかった→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (15.6)	65 (84.4)	0	77	4.84	4.80
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 1 2 3 4 5 →有効であった→				1 (1.3)	3 (3.9)	1 (1.3)	9 (11.8)	62 (81.6)	1	76	4.68	4.77
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 3 4 5 →感じられた→				0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.6)	9 (11.7)	66 (85.7)	0	77	4.83	4.81
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 2 3 4 5 →良好であった→				0 (0.0)	1 (1.3)	1 (1.3)	16 (20.8)	59 (76.6)	0	77	4.73	4.68
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 2 4 5 →取り組んだ→				0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	12 (15.6)	64 (83.1)	0	77	4.81	4.71
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 1 2 3 4 5 →十分行った→				11 (14.3)	13 (16.9)	16 (20.8)	7 (9.1)	30 (39.0)	0	77	3.42	3.05
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 3 4 5 →広がった→				0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.6)	13 (16.9)	62 (80.5)	0	77	4.78	4.74
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 3 4 5 →習得できた→				0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.9)	19 (24.7)	55 (71.4)	0	77	4.68	4.61
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 3 4 5 →満足している→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	9 (11.7)	67 (87.0)	0	77	4.86	4.73
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 3 4 5 →勧める→				0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.9)	14 (18.2)	60 (77.9)	0	77	4.74	4.67

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



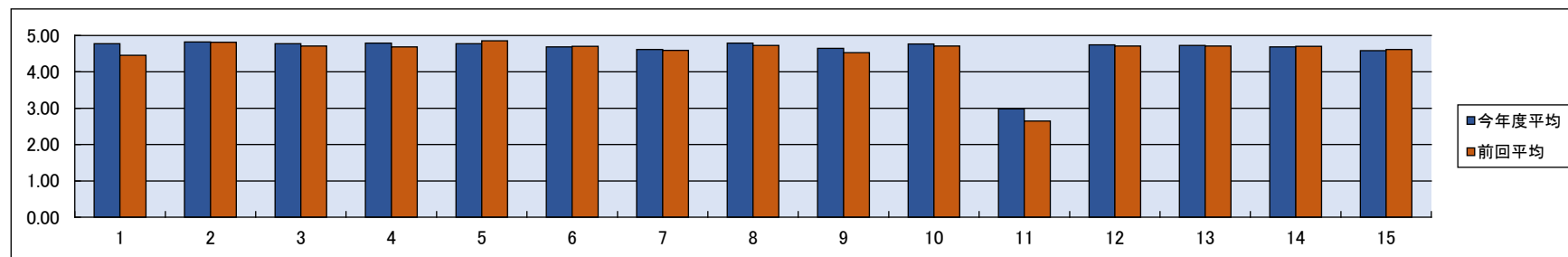
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	合唱ⅡⅣⅥ〔声楽専修〕	
学年		

受講者数：239名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	12 (19.4)	49 (79.0)	0	62	4.77	4.46
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	9 (14.5)	52 (83.9)	0	62	4.82	4.81
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.9)	8 (13.1)	50 (82.0)	1	61	4.77	4.71
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	2	3	4	0 (0.0)	1 (1.6)	3 (4.8)	4 (6.5)	54 (87.1)	0	62	4.79	4.69
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	2	3	4	0 (0.0)	1 (1.6)	2 (3.2)	7 (11.3)	52 (83.9)	0	62	4.77	4.86
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1	2	3	1 (1.6)	1 (1.6)	2 (3.3)	8 (13.1)	49 (80.3)	1	61	4.69	4.70
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	2	3	2 (3.3)	1 (1.7)	2 (3.3)	8 (13.3)	47 (78.3)	2	60	4.62	4.59
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1	3	4	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	7 (11.5)	52 (85.2)	1	61	4.79	4.73
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	1	3	4	1 (1.6)	0 (0.0)	3 (4.8)	12 (19.4)	46 (74.2)	0	62	4.65	4.53
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	1	3	4	1 (1.7)	0 (0.0)	1 (1.7)	8 (13.3)	50 (83.3)	2	60	4.77	4.71
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	14 (22.6)	12 (19.4)	14 (22.6)	5 (8.1)	17 (27.4)	0	62	2.98	2.64
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	1	3	4	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	10 (16.1)	50 (80.6)	0	62	4.74	4.71
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	1	2	3	1 (1.6)	1 (1.6)	2 (3.2)	6 (9.7)	52 (83.9)	0	62	4.73	4.71
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1	2	3	1 (1.6)	1 (1.6)	3 (4.9)	6 (9.8)	50 (82.0)	1	61	4.69	4.70
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	3	4	2 (3.2)	0 (0.0)	6 (9.7)	6 (9.7)	48 (77.4)	0	62	4.58	4.61

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



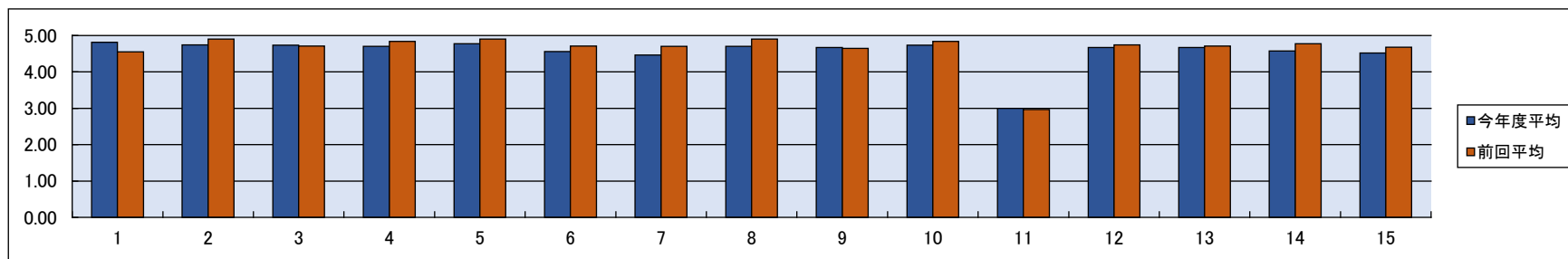
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	合唱Ⅱ〔声楽専修〕	
学年	1	

受講者数：86名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	5	22	0	27	4.81	4.55			
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	行われた→	0	0	1	5	21	0	27	4.74	4.90		
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	0	0	2	3	21	1	26	4.73	4.71		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	2	3	4	5	接していた→	0	1	2	1	23	0	27	4.70	4.84	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	0	0	2	2	23	0	27	4.78	4.90		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1	2	3	4	5	1	1	1	3	21	0	27	4.56	4.71	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	3	4	5	有効であった→	2	0	1	4	19	1	26	4.46	4.70	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1	3	4	5	感じられた→	1	0	1	2	23	0	27	4.70	4.90	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	1	4	5	良好であった→	1	0	0	5	21	0	27	4.67	4.65		
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	1	3	4	5	取り組んだ→	1	0	1	1	23	1	26	4.73	4.84	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	7	6	3	2	9	0	27	3.00	2.97
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	1	3	4	5	広がった→	1	0	1	3	22	0	27	4.67	4.74	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	1	2	4	5	習得できた→	1	1	0	2	23	0	27	4.67	4.71	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1	2	3	4	5	満足している→	1	1	1	2	21	1	26	4.58	4.77
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	3	4	5	勧める→	2	0	1	3	21	0	27	4.52	4.68	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



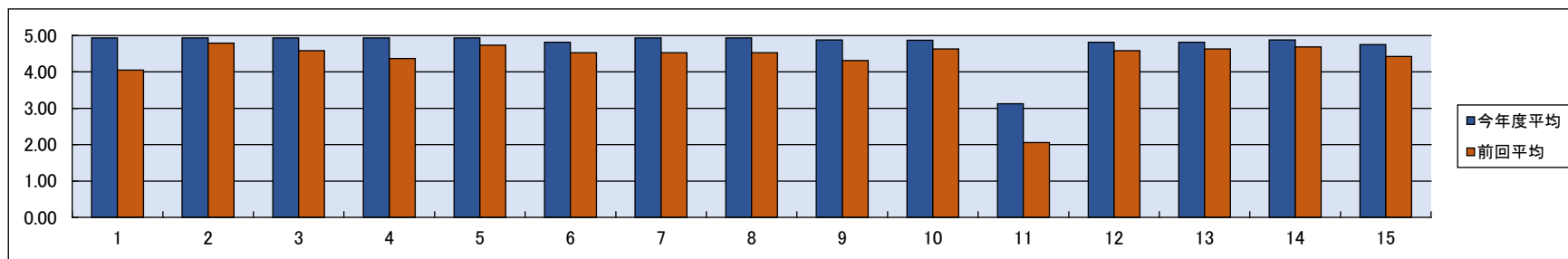
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	合唱Ⅳ[声楽専修]	
学年	2	

受講者数：77名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均			
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)							
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.05			
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.79			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.58			
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.37			
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.74			
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	14 (87.5)	0	16	4.81	4.53		
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	14 (93.3)	1	15	4.93	4.53			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.53			
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	15 (93.8)	0	16	4.88	4.32		
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (13.3)	13 (86.7)	1	15	4.87	4.63			
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	3 (18.8)	2 (12.5)	5 (31.3)	2 (12.5)	4 (25.0)	0	16	3.13	2.05
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (18.8)	13 (81.3)	0	16	4.81	4.58			
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	14 (87.5)	0	16	4.81	4.63		
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	15 (93.8)	0	16	4.88	4.68		
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (12.5)	0 (0.0)	14 (87.5)	0	16	4.75	4.42		

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



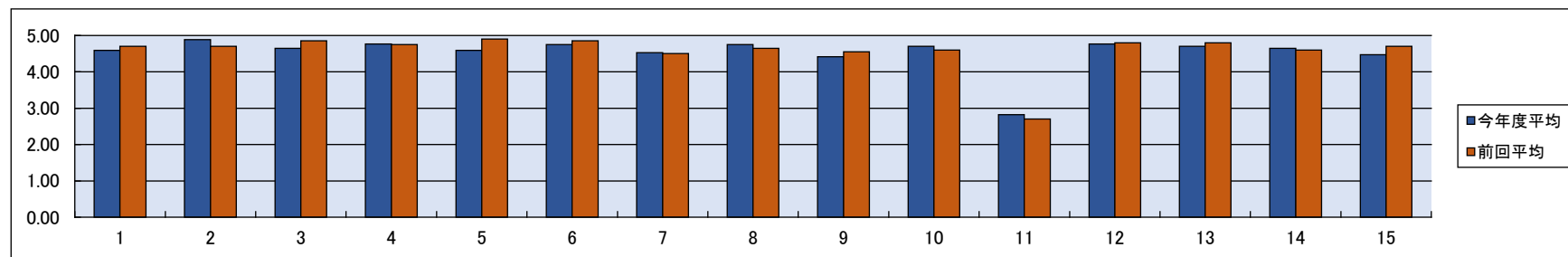
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	合唱VI[声楽専修]	
学年	3	

受講者数：67名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	→守られた→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	5 (29.4)	11 (64.7)	0	17	4.59	4.70
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	→行われた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	15 (88.2)	0	17	4.88	4.70
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	4 (23.5)	12 (70.6)	0	17	4.65	4.85
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	→接していた→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	2 (11.8)	14 (82.4)	0	17	4.76	4.75
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	2	4	5	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	4 (23.5)	12 (70.6)	0	17	4.59	4.90
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	→分かりやすかった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (25.0)	12 (75.0)	1	16	4.75	4.85
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	→有効であった→	2	3	4	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	3 (17.6)	12 (70.6)	0	17	4.53	4.50
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	→感じられた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (25.0)	12 (75.0)	1	16	4.75	4.65
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	→良好であった→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	6 (35.3)	9 (52.9)	0	17	4.41	4.55
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	→取り組んだ→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (29.4)	12 (70.6)	0	17	4.71	4.60
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	→十分行った→	1	2	3	3 (17.6)	4 (23.5)	6 (35.3)	1 (5.9)	3 (17.6)	0	17	2.82	2.70
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	→広がった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	4.80
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	→習得できた→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	3 (17.6)	13 (76.5)	0	17	4.71	4.80
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	→満足している→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	4 (23.5)	12 (70.6)	0	17	4.65	4.60
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	→勧める→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (17.6)	3 (17.6)	11 (64.7)	0	17	4.47	4.70

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



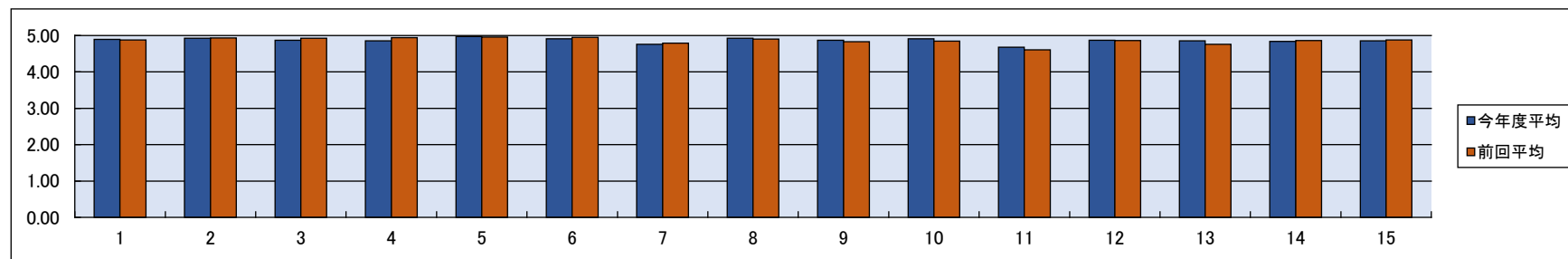
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ピアノ/オルガン/電子オルガン) II IV VI VIII
学年	

受講者数: 218名

No.	項目	←守られていない	←守られた→	1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
				回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	←守られた→	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (1.5)	2 (2.9)	64 (94.1)	0	68	4.90	4.88
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	←行われた→	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	2 (2.9)	65 (95.6)	0	68	4.93	4.94
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	1 (1.5)	2 (2.9)	2 (2.9)	63 (92.6)	0	68	4.87	4.93
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	←接していた→	0 (0.0)	2 (2.9)	1 (1.5)	2 (2.9)	63 (92.6)	0	68	4.85	4.94
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.0)	65 (97.0)	1	67	4.97	4.96
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	←分かりやすかった→	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (1.5)	1 (1.5)	65 (95.6)	0	68	4.91	4.95
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	←有効であった→	2 (3.0)	0 (0.0)	3 (4.5)	2 (3.0)	60 (89.6)	1	67	4.76	4.79
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	←感じられた→	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	2 (2.9)	65 (95.6)	0	68	4.93	4.90
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	←良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.9)	5 (7.4)	61 (89.7)	0	68	4.87	4.83
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	←取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (8.8)	62 (91.2)	0	68	4.91	4.85
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	←十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (8.8)	10 (14.7)	52 (76.5)	0	68	4.68	4.61
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	←広がった→	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (7.4)	62 (91.2)	0	68	4.87	4.86
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	←習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	8 (11.9)	58 (86.6)	1	67	4.85	4.76
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	←満足している→	1 (1.5)	0 (0.0)	2 (2.9)	3 (4.4)	62 (91.2)	0	68	4.84	4.86
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	←勧める→	1 (1.5)	1 (1.5)	0 (0.0)	3 (4.5)	62 (92.5)	1	67	4.85	4.88

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



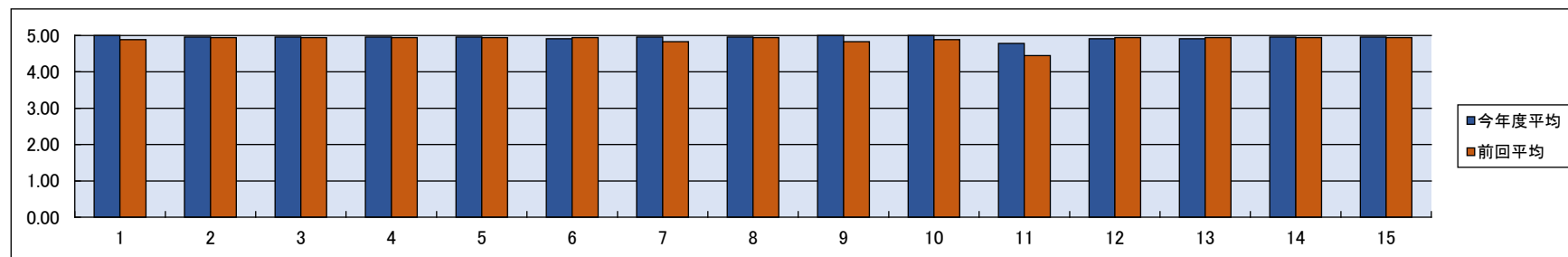
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ピアノ/オルガン/電子オルガン)Ⅱ
学年	1

受講者数：50名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (100.0)	0	23	5.00	4.89
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	行われた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	接していた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	分かりやすかった→		0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	22 (95.7)	0	23	4.91	4.94
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	有効であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	21 (95.5)	1	22	4.95	4.83
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	感じられた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (100.0)	0	23	5.00	4.83
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (100.0)	0	23	5.00	4.89
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	十分行った→		0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	3 (13.0)	19 (82.6)	0	23	4.78	4.44
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	広がった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.7)	21 (91.3)	0	23	4.91	4.94
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	習得できた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.7)	21 (91.3)	0	23	4.91	4.94
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	満足している→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	22 (95.7)	0	23	4.96	4.94
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	勧める→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	21 (95.5)	1	22	4.95	4.94

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



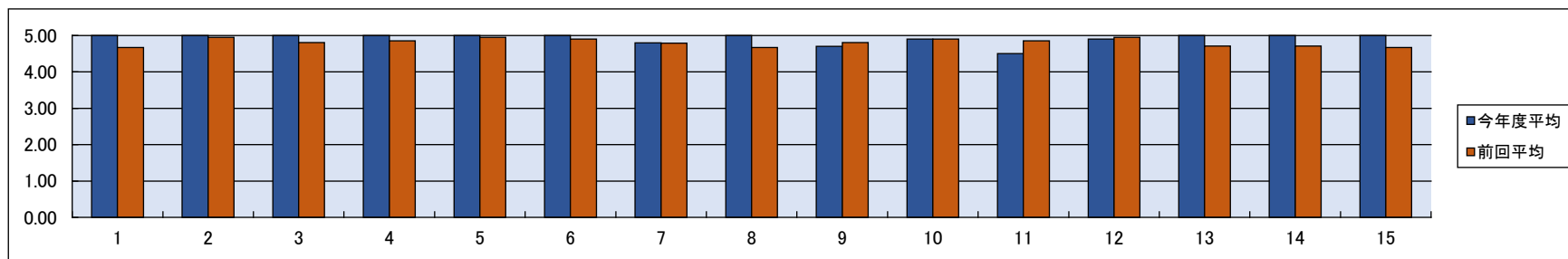
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ピアノ/オルガン/電子オルガン)Ⅳ
学年	2

受講者数: 52名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.67		
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.95		
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.81		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.86		
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.95		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.90		
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	5	有効であった→	0	0	1	0	9	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(90.0)	0	10	4.80	4.79		
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.67		
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0	0	1	1	8	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(10.0)	(80.0)	0	10	4.70	4.81
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	1	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(90.0)	0	10	4.90	4.90	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	十分行った→	0	0	2	1	7	(0.0)	(0.0)	(20.0)	(10.0)	(70.0)	0	10	4.50	4.86
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	1	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(10.0)	(90.0)	0	10	4.90	4.95	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	習得できた→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.71		
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.71		
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→	0	0	0	0	10	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	10	5.00	4.67		

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



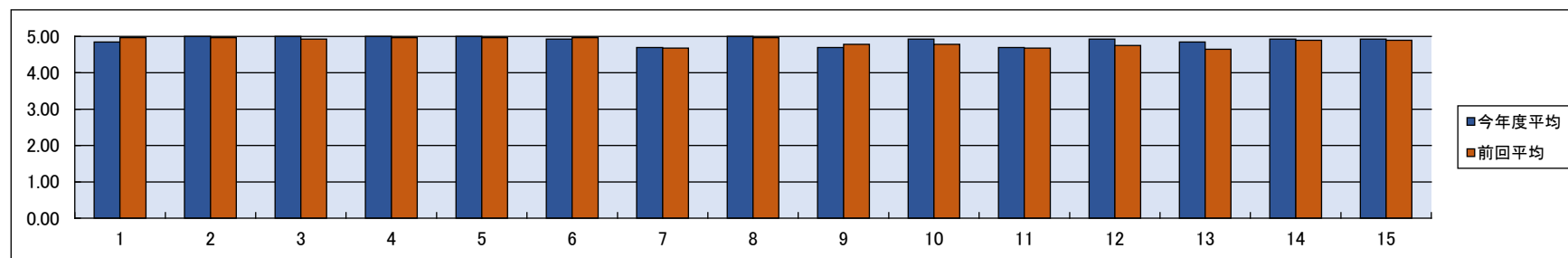
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ピアノ/オルガン/電子オルガン)VI
学年	3

受講者数: 56名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	12 (92.3)	0	13	4.85	4.96	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.96	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.93	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.96	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.96	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.96	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	0 (0.0)	11 (84.6)	0	13	4.69	4.68	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった		5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.96	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (15.4)	10 (76.9)	0	13	4.69	4.79
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.79	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (15.4)	10 (76.9)	0	13	4.69	4.68
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.75	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	11 (84.6)	0	13	4.85	4.64	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.89	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.89	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



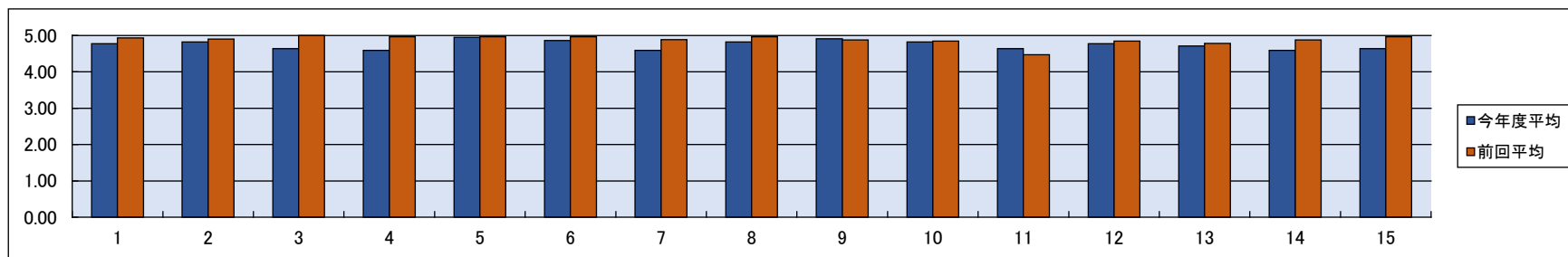
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ピアノ/オルガン/電子オルガン)Ⅷ
学年	4

受講者数：60名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 2 4	→守られた→ 5			0 (0.0)	1 (4.5)	0 (0.0)	2 (9.1)	19 (86.4)	0	22	4.77	4.94
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 2 4	→行われた→ 5			0 (0.0)	1 (4.5)	0 (0.0)	1 (4.5)	20 (90.9)	0	22	4.82	4.90
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 2 3 4	→適切であった→ 5			0 (0.0)	1 (4.5)	2 (9.1)	1 (4.5)	18 (81.8)	0	22	4.64	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 2 3 4	→接していた→ 5			0 (0.0)	2 (9.1)	1 (4.5)	1 (4.5)	18 (81.8)	0	22	4.59	4.97
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 4	→適切であった→ 5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	20 (95.2)	1	21	4.95	4.97
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 2	→分かりやすかった→ 5			0 (0.0)	1 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	21 (95.5)	0	22	4.86	4.97
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 1 4	→有効であった→ 5			2 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	19 (86.4)	0	22	4.59	4.88
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 2 4	→感じられた→ 5			0 (0.0)	1 (4.5)	0 (0.0)	1 (4.5)	20 (90.9)	0	22	4.82	4.97
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 4	→良好であった→ 5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.1)	20 (90.9)	0	22	4.91	4.88
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 4	→取り組んだ→ 5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (18.2)	18 (81.8)	0	22	4.82	4.84
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 3 4	→十分行った→ 5			0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.1)	4 (18.2)	16 (72.7)	0	22	4.64	4.47
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 1 4	→広がった→ 5			1 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	20 (90.9)	0	22	4.77	4.84
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 3 4	→習得できた→ 5			0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	4 (19.0)	16 (76.2)	1	21	4.71	4.78
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 1 3 4	→満足している→ 5			1 (4.5)	0 (0.0)	2 (9.1)	1 (4.5)	18 (81.8)	0	22	4.59	4.88
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 1 2 4	→勧める→ 5			1 (4.5)	1 (4.5)	0 (0.0)	1 (4.5)	19 (86.4)	0	22	4.64	4.97

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



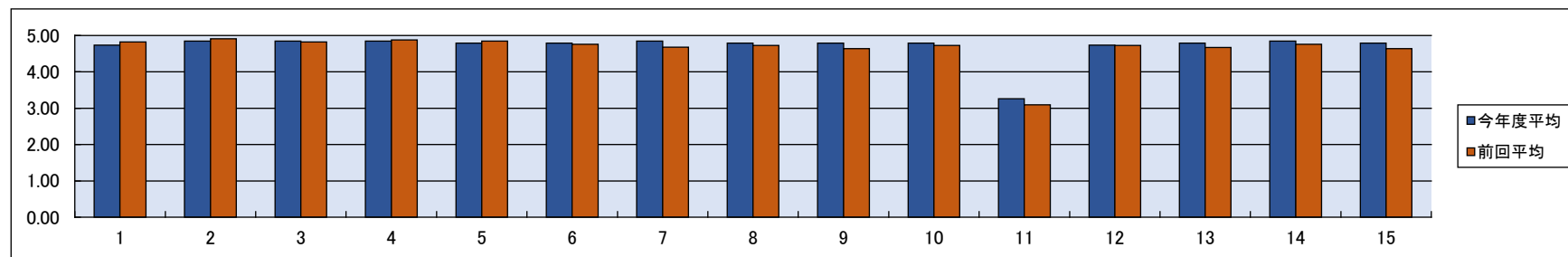
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	鍵盤楽器基礎ⅡⅣ、電子オルガン編曲Ⅱ
学年	

受講者数：55名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (26.3)	14 (73.7)	0	19	4.74	4.82
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (15.8)	16 (84.2)	0	19	4.84	4.91
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	17 (89.5)	0	19	4.84	4.82
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	4	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	17 (89.5)	0	19	4.84	4.88
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	16 (84.2)	0	19	4.79	4.84
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	16 (84.2)	0	19	4.79	4.76
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	17 (89.5)	0	19	4.84	4.68
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	2	4	感じられた→	0 (0.0)	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.3)	17 (89.5)	0	19	4.79	4.73
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (10.5)	0 (0.0)	17 (89.5)	0	19	4.79	4.64
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	16 (84.2)	0	19	4.79	4.73
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	十分行った→	0 (0.0)	4 (21.1)	10 (52.6)	1 (5.3)	4 (21.1)	0	19	3.26	3.09
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2	4	広がった→	0 (0.0)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (10.5)	16 (84.2)	0	19	4.74	4.73
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	16 (84.2)	0	19	4.79	4.67
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (15.8)	16 (84.2)	0	19	4.84	4.76
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (21.1)	15 (78.9)	0	19	4.79	4.64

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



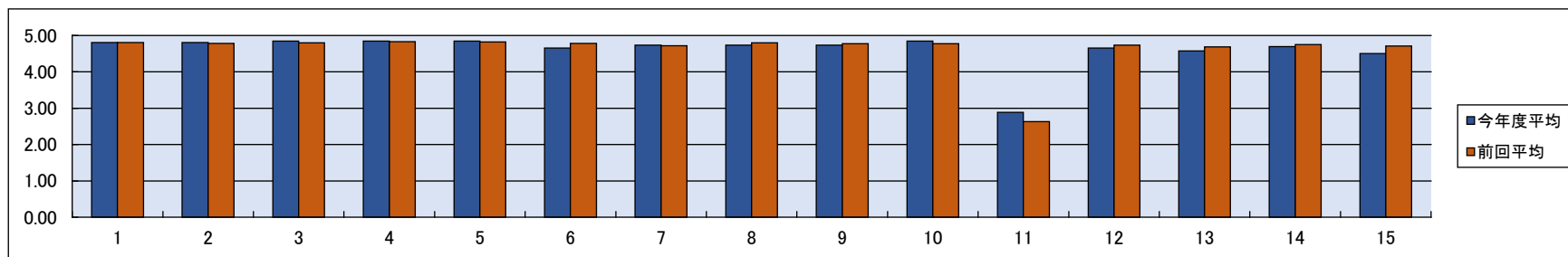
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	鍵盤楽器講義(鍵盤楽器学/楽曲分析概論/作品分析概論/演奏解釈/ピアノ教材研究概論/楽曲分析ⅠⅡ)
学年	

受講者数：88名

No.	項目	回答割合 (%)					無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
		1	2	3	4	5				
1	回数・時間は基本的に守られた。	0 (0.0)	1 (3.8)	0 (0.0)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.81	4.81
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	0 (0.0)	1 (3.8)	0 (0.0)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.81	4.79
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.85	4.80
4	教員は学生に誠実に接していた。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.85	4.83
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.85	4.82
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	0 (0.0)	2 (7.7)	0 (0.0)	3 (11.5)	21 (80.8)	0	26	4.65	4.79
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	1 (3.8)	0 (0.0)	1 (3.8)	1 (3.8)	23 (88.5)	0	26	4.73	4.72
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.7)	3 (11.5)	21 (80.8)	0	26	4.73	4.80
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	0 (0.0)	1 (3.8)	1 (3.8)	2 (7.7)	22 (84.6)	0	26	4.73	4.77
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	23 (88.5)	0	26	4.85	4.77
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	4 (15.4)	8 (30.8)	7 (26.9)	1 (3.8)	6 (23.1)	0	26	2.88	2.63
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (15.4)	1 (3.8)	21 (80.8)	0	26	4.65	4.74
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	0 (0.0)	2 (7.7)	1 (3.8)	3 (11.5)	20 (76.9)	0	26	4.58	4.69
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.7)	4 (15.4)	20 (76.9)	0	26	4.69	4.75
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	0 (0.0)	1 (3.8)	4 (15.4)	2 (7.7)	19 (73.1)	0	26	4.50	4.71

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



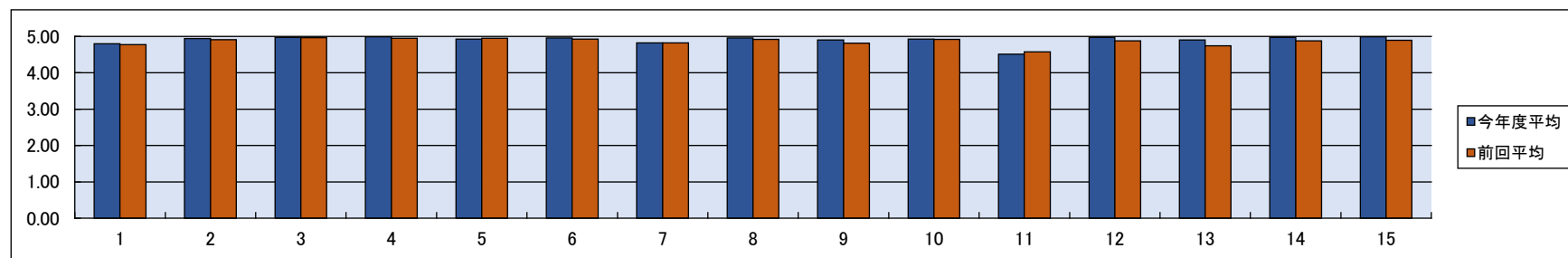
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(弦管打)ⅡⅣⅥⅧ
学年	

受講者数：383名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 2 3 4 5 →守られた→				0 (0.0)	1 (1.4)	2 (2.9)	7 (10.1)	59 (85.5)	0	69	4.80	4.78
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 4 5 →行われた→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (5.8)	65 (94.2)	0	69	4.94	4.91
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.9)	67 (97.1)	0	69	4.97	4.96
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 4 5 →接していた→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	68 (98.6)	0	69	4.99	4.95
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 3 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	3 (4.4)	64 (94.1)	1	68	4.93	4.95
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 4 5 →分かりやすかった→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.3)	66 (95.7)	0	69	4.96	4.93
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 1 3 4 5 →有効であった→				1 (1.5)	0 (0.0)	2 (2.9)	4 (5.9)	61 (89.7)	1	68	4.82	4.82
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 4 5 →感じられた→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.3)	66 (95.7)	0	69	4.96	4.92
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 4 5 →良好であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (10.1)	62 (89.9)	0	69	4.90	4.81
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 3 4 5 →取り組んだ→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	3 (4.3)	65 (94.2)	0	69	4.93	4.92
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 2 3 4 5 →十分行った→				0 (0.0)	1 (1.4)	8 (11.6)	15 (21.7)	45 (65.2)	0	69	4.51	4.57
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 4 5 →広がった→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.9)	67 (97.1)	0	69	4.97	4.88
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 4 5 →習得できた→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (10.1)	62 (89.9)	0	69	4.90	4.74
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 4 5 →満足している→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.9)	67 (97.1)	0	69	4.97	4.88
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 4 5 →勧める→				0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	68 (98.6)	0	69	4.99	4.89

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



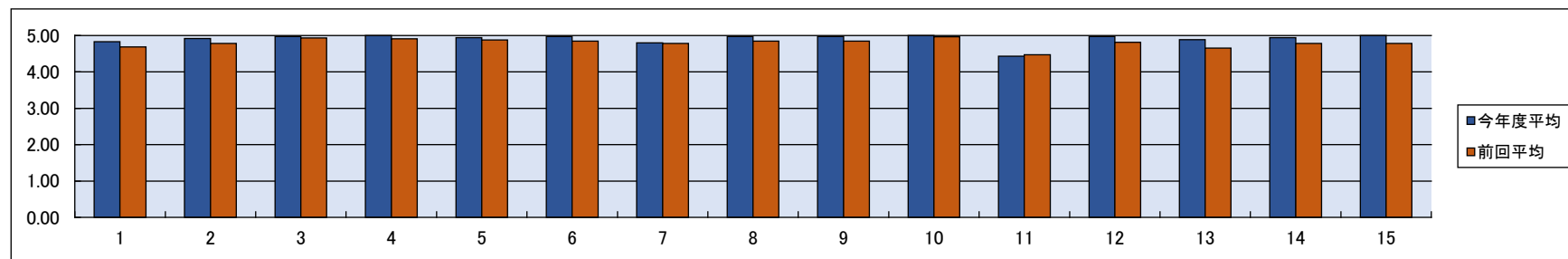
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(弦管打)Ⅱ
学年	1

受講者数：79名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.7)	2 (5.7)	31 (88.6)	0	35	4.83	4.69
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.6)	32 (91.4)	0	35	4.91	4.78
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (97.1)	0	35	4.97	4.94
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)	0	35	5.00	4.91
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.9)	32 (94.1)	1	34	4.94	4.88
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (97.1)	0	35	4.97	4.84
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	3	4	1 (2.9)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (2.9)	31 (91.2)	1	34	4.79	4.78
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (97.1)	0	35	4.97	4.84
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (97.1)	0	35	4.97	4.84
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)	0	35	5.00	4.97
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (17.1)	8 (22.9)	21 (60.0)	0	35	4.43	4.47
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (97.1)	0	35	4.97	4.81
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (11.4)	31 (88.6)	0	35	4.89	4.66
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.7)	33 (94.3)	0	35	4.94	4.78
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)	0	35	5.00	4.78

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



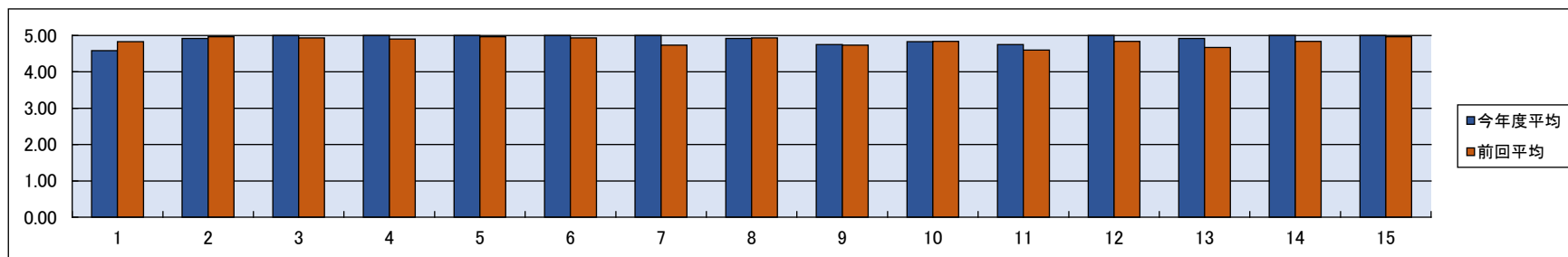
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(弦管打)Ⅳ
学年	2

受講者数：107名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	2	4	5	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	2 (16.7)	9 (75.0)	0	12	4.58	4.83
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.97
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.93
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.90
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.97
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.94
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.73
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.93
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.73
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.84
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.60
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.84
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.67
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.84
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5			0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.97

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



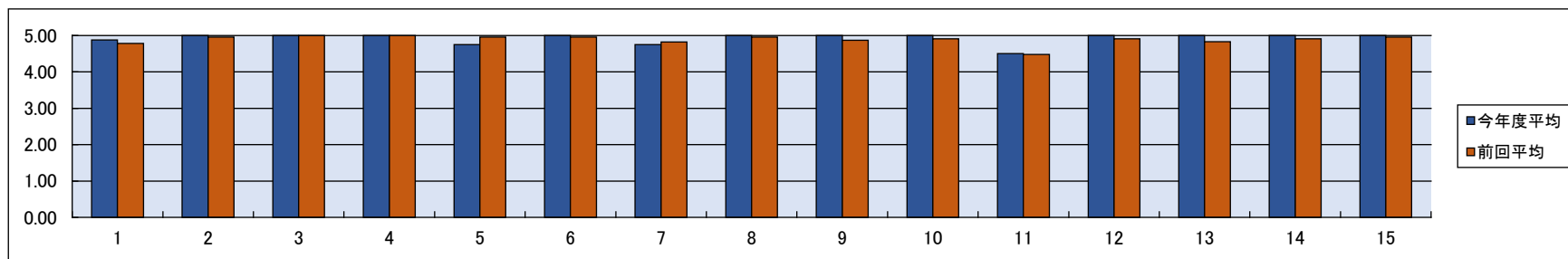
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(弦管打)VI
学年	3

受講者数：97名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	7 (87.5)	0	8	4.88	4.78
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.96
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	7 (87.5)	0	8	4.75	4.96
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった		5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.96
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	7 (87.5)	0	8	4.75	4.82
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった		5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.96
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった		5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.87
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった		5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.91
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	4	十分行った→	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	6 (75.0)	0	8	4.50	4.48
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった		5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.91
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった		5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.83
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない		5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.91
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない		5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	0	8	5.00	4.96

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



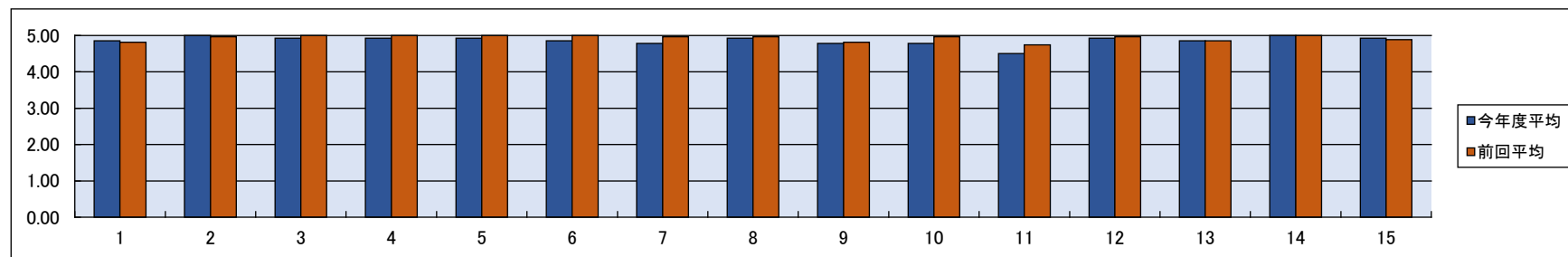
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(弦管打)Ⅷ
学年	4

受講者数：100名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	4.81
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (100.0)	0	14	5.00	4.96
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (21.4)	11 (78.6)	0	14	4.79	4.96
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	4.96
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (21.4)	11 (78.6)	0	14	4.79	4.81
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	1 (7.1)	12 (85.7)	0	14	4.79	4.96
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	3 (21.4)	9 (64.3)	0	14	4.50	4.74
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	4.96
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	4.85
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない		5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (100.0)	0	14	5.00	5.00
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	4.89

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



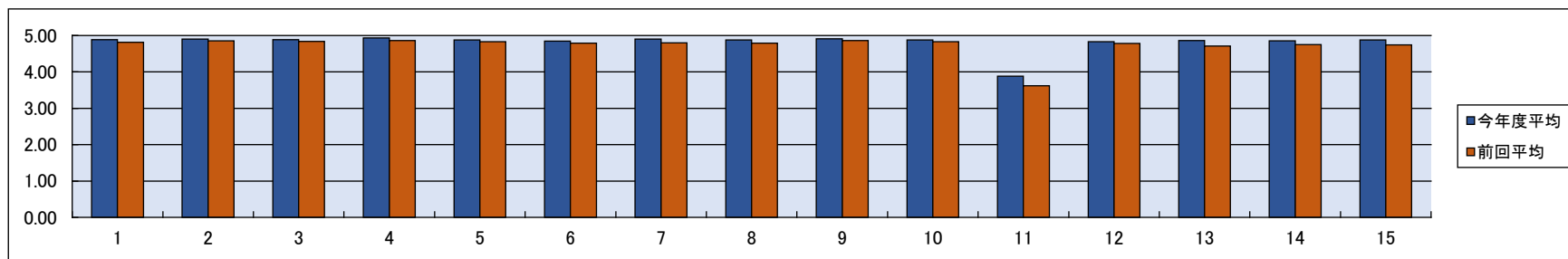
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	基礎アンサンブルⅡⅣ、管弦楽ⅡⅣ、吹奏楽ⅡⅣ
学年	

受講者数：494名

No.	項目	←守られていない	←守られた→	1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
				回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	←守られた→	0 (0.0)	1 (1.0)	3 (2.9)	3 (2.9)	97 (93.3)	0	104	4.88	4.82
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	←行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (9.6)	94 (90.4)	0	104	4.90	4.86
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.9)	8 (7.7)	94 (90.4)	0	104	4.88	4.84
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	←接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (6.7)	97 (93.3)	0	104	4.93	4.86
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	8 (8.0)	90 (90.0)	4	100	4.88	4.83
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	←分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.8)	8 (7.7)	92 (88.5)	0	104	4.85	4.79
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	←有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.9)	4 (3.9)	96 (93.2)	1	103	4.90	4.79
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	←感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.9)	7 (6.7)	94 (90.4)	0	104	4.88	4.79
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	←良好であった→	1 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (4.8)	98 (94.2)	0	104	4.91	4.86
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	←取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.9)	7 (6.7)	94 (90.4)	0	104	4.88	4.83
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	←十分行った→	5 (4.8)	11 (10.6)	27 (26.0)	9 (8.7)	52 (50.0)	0	104	3.88	3.62
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	←広がった→	0 (0.0)	1 (1.0)	2 (1.9)	11 (10.6)	90 (86.5)	0	104	4.83	4.78
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	←習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	12 (11.5)	91 (87.5)	0	104	4.87	4.71
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	←満足している→	0 (0.0)	1 (1.0)	3 (2.9)	6 (5.8)	94 (90.4)	0	104	4.86	4.75
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	←勧める→	0 (0.0)	1 (1.0)	2 (1.9)	6 (5.8)	95 (91.3)	0	104	4.88	4.74

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



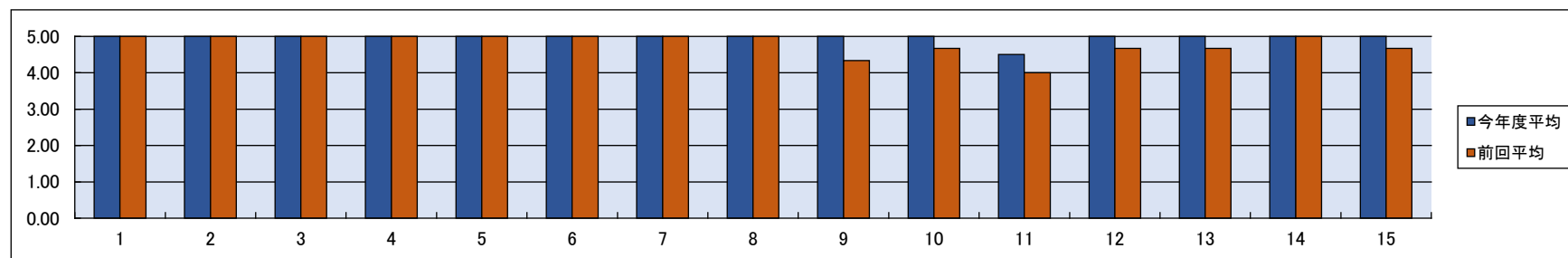
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門実技(ジャズ)ⅡⅣⅥⅧ、クラシック基礎実技Ⅱ
学年	

受講者数：34名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.33
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.67
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	十分行った→	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0	4	4.50	4.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.67
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	習得できた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.67
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.67

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



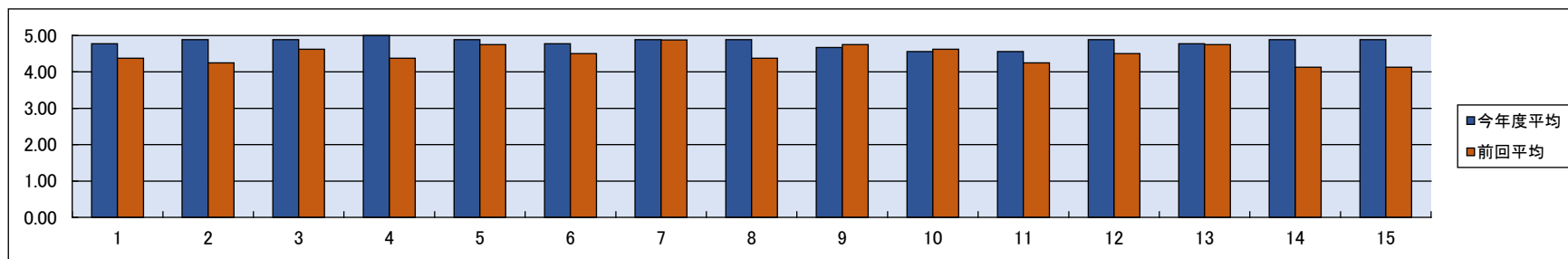
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	ジャズ・アンサンブルⅡⅣ、即興演奏ⅡⅣ、ビッグバンドBD、専門楽器演習Ⅱ、ジャズ伴奏法Ⅱ
学年	

受講者数：62名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	5	守られた→	0	0	1	0	8	0	9	4.78	4.38				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.25				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.63				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5	接していた→	0	0	0	0	9	0	9	5.00	4.38				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.75				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	5	分かりやすかった→	0	0	1	0	8	0	9	4.78	4.50				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.88				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.38				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0	0	1	1	7	0	9	4.67	4.75			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	取り組んだ→	0	0	1	2	6	0	9	4.56	4.63			
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	5	十分行った→	0	0	2	0	7	0	9	4.56	4.25				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.50				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	5	習得できた→	0	0	1	0	8	0	9	4.78	4.75				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.13				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0	0	0	1	8	0	9	4.89	4.13				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



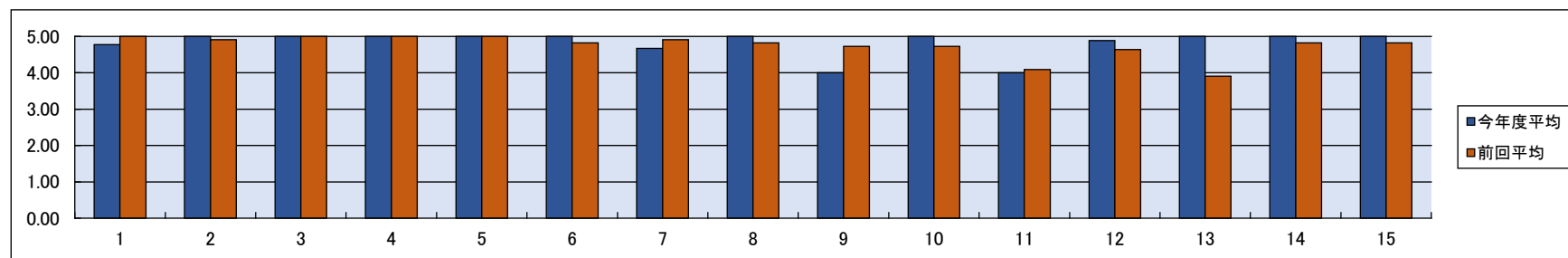
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	和声ⅡⅣ、対位法ⅡⅣ
学年	

受講者数：53名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.78	5.00	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.91	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	5.00	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった		5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	5.00	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	5.00	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった		5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.82	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	1 (11.1)	7 (77.8)	0	9	4.67	4.91
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった		5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.82	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	1	4	5	良好であった→	2 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	6 (66.7)	0	9	4.00	4.73
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった		5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.73	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (33.3)	3 (33.3)	3 (33.3)	0	9	4.00	4.09
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	8 (88.9)	0	9	4.89	4.64	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった		5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	3.91	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない		5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.82	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない		5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	0	9	5.00	4.82	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



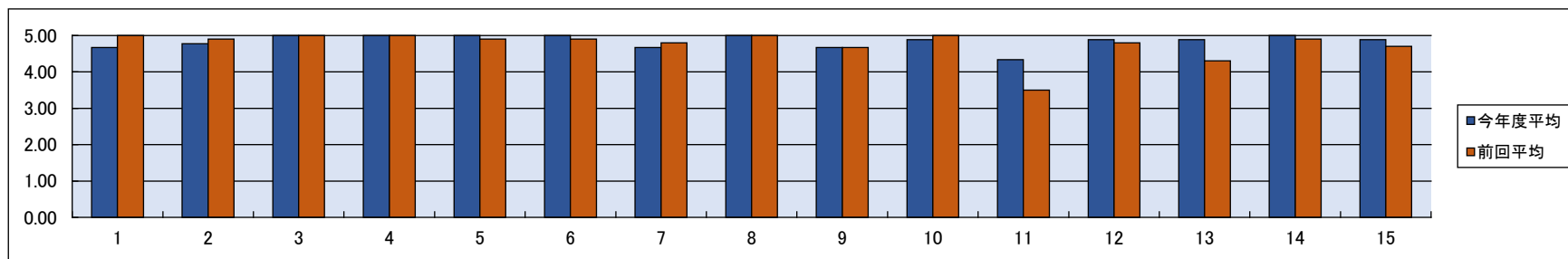
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	作曲ⅡⅣⅥⅧ
学年	

受講者数：40名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	2	5	守られた→	0	1	0	0	8	(0.0)	(11.1)	(0.0)	(0.0)	(88.9)	0	9	4.67	5.00	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	5	行われた→	0	0	1	0	8	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(0.0)	(88.9)	0	9	4.78	4.90	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	5	適切であった→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	5.00	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	5	接していた→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	5.00	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	5	適切であった→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	4.90	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	5	分かりやすかった→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	4.90	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	有効であった→	0	0	1	1	7	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(11.1)	(77.8)	0	9	4.67	4.80
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	5	感じられた→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	5.00	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	5	良好であった→	0	1	0	0	8	(0.0)	(11.1)	(0.0)	(0.0)	(88.9)	0	9	4.67	4.67	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	1	8	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(88.9)	0	9	4.89	5.00	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	十分行った→	0	0	2	2	5	(0.0)	(0.0)	(22.2)	(22.2)	(55.6)	0	9	4.33	3.50
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	1	8	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(88.9)	0	9	4.89	4.80	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0	0	0	1	8	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(88.9)	0	9	4.89	4.30	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	5	満足している→	0	0	0	0	9	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	9	5.00	4.90	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0	0	0	1	8	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(11.1)	(88.9)	0	9	4.89	4.70	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



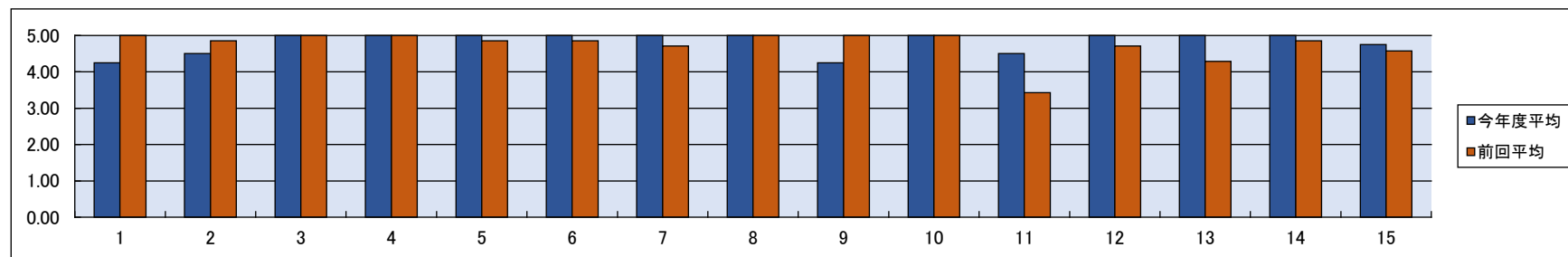
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	作曲Ⅱ
学年	1

受講者数：9名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	2	5	守られた→	0	1	0	0	3	0	4	4.25	5.00				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	5	行われた→	0	0	1	0	3	0	4	4.50	4.86				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	5	適切であった→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	5.00				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	5	接していた→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	5.00				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	5	適切であった→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.86				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	5	分かりやすかった→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.86				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	5	有効であった→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.71				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	5	感じられた→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	5.00				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	5	良好であった→	0	1	0	0	3	0	4	4.25	5.00				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	5	取り組んだ→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	5.00				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	5	十分行った→	0	0	1	0	3	0	4	4.50	3.43				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	5	広がった→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.71				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	5	習得できた→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.29				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	5	満足している→	0	0	0	0	4	0	4	5.00	4.86				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0	0	0	1	3	0	4	4.75	4.57				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



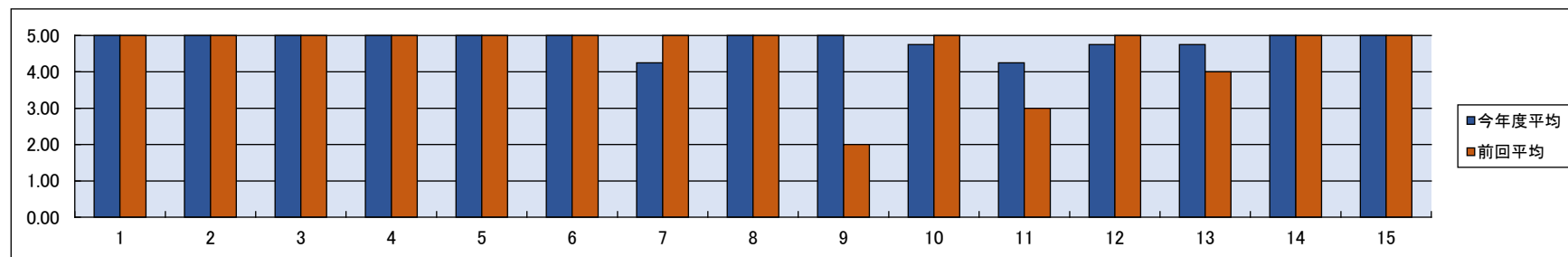
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	作曲Ⅳ
学年	2

受講者数：17名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5		守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5		行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5		適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5		接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5		適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5		分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0	4	4.25	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5		感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5		良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	2.00	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	5.00	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	5	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0	4	4.25	3.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	5.00	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.00	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5		満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5		勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



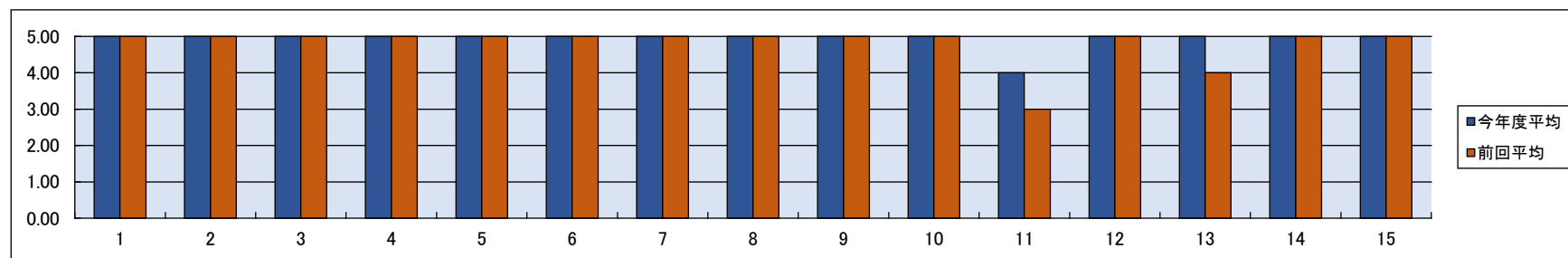
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	作曲VI
学年	3

受講者数：5名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	4	十分行った→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0	1	4.00	3.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	習得できた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.00
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



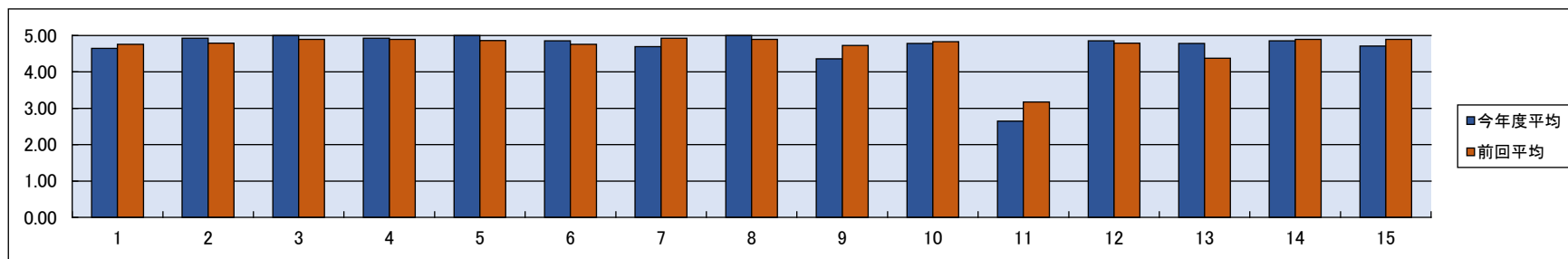
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	アナリーゼⅡⅣ、作曲基礎講義(楽器法/DTM)、管弦楽法AⅡ、吹奏楽法Ⅱ、実用管弦楽法Ⅱ、声楽・合唱曲創作実習Ⅱ
学年	

受講者数：87名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	2	4	5	0 (0.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	2 (14.3)	11 (78.6)	0	14	4.64	4.76
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	4.79
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (100.0)	0	14	5.00	4.90
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	13 (92.9)	0	14	4.93	4.90
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (100.0)	0	14	5.00	4.86
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	4.76
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (15.4)	10 (76.9)	1	13	4.69	4.93
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	1	13	5.00	4.90
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (28.6)	1 (7.1)	9 (64.3)	0	14	4.36	4.72
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (21.4)	11 (78.6)	0	14	4.79	4.83
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	3 (21.4)	3 (21.4)	5 (35.7)	2 (14.3)	1 (7.1)	0	14	2.64	3.17
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	4.79
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (21.4)	11 (78.6)	0	14	4.79	4.38
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (14.3)	12 (85.7)	0	14	4.86	4.90
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (28.6)	10 (71.4)	0	14	4.71	4.90

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



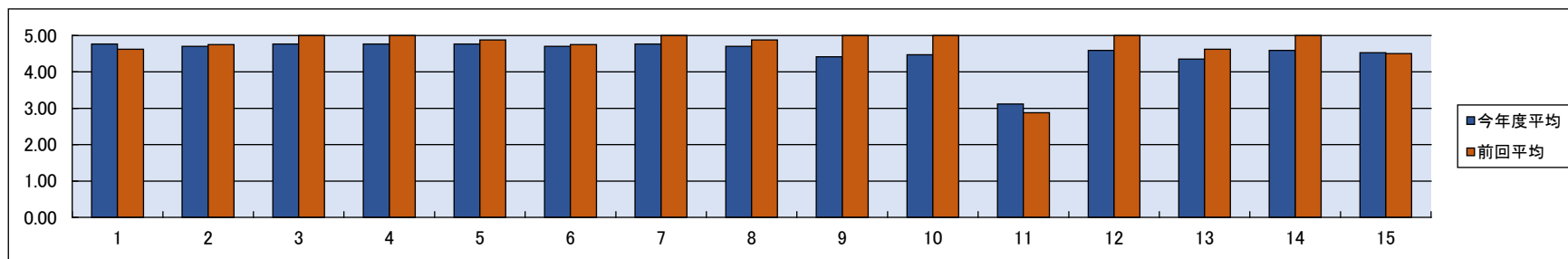
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	コンピュータ音楽創作ⅡⅣ、コンピュータ録音演習ⅡⅣ、マルチメディア・プログラミングⅡ、コンピュータ音楽講義Ⅱ
学年	

受講者数：88名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均					
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)									
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4		5		→守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	4.63			
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4		5		→行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (29.4)	12 (70.6)	0	17	4.71	4.75			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4		5		→適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	5.00			
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4		5		→接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	5.00			
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4		5		→適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	4.88			
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4		5		→分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (29.4)	12 (70.6)	0	17	4.71	4.75			
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4		5		→有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	13 (76.5)	0	17	4.76	5.00			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4		5		→感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (29.4)	12 (70.6)	0	17	4.71	4.88			
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	3	4		5		→良好であった→	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	5 (29.4)	10 (58.8)	0	17	4.41	5.00	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3		4		5		→取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	7 (41.2)	9 (52.9)	0	17	4.47	5.00	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4		5		→十分行った→	3 (17.6)	2 (11.8)	3 (17.6)	8 (47.1)	1 (5.9)	0	17	3.12	2.88
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3		4		5		→広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	5 (29.4)	11 (64.7)	0	17	4.59	5.00	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3		4		5		→習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	9 (52.9)	7 (41.2)	0	17	4.35	4.63	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3		4		5		→満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	5 (29.4)	11 (64.7)	0	17	4.59	5.00	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3		4		5		→勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	6 (35.3)	10 (58.8)	0	17	4.53	4.50	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



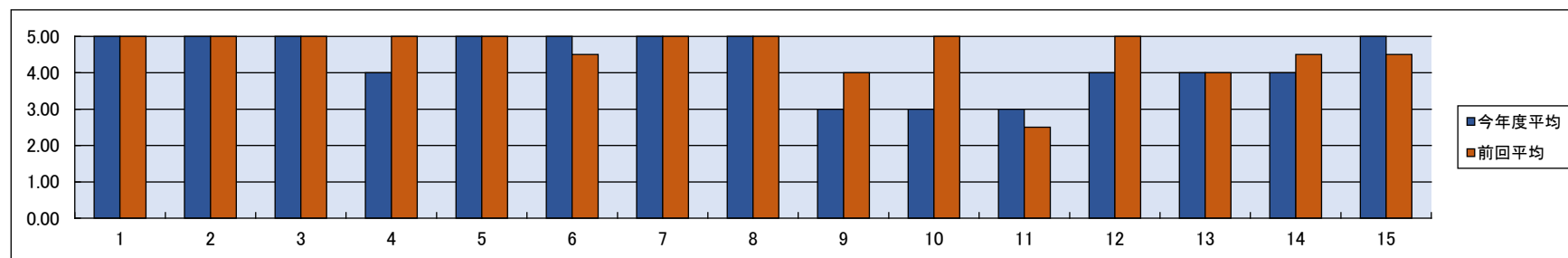
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	コンピュータ音楽ゼミⅡⅣ
学年	

受講者数：24名

			1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
			回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない →守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった →行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった →適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった →接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0	1	4.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった →適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった →分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.50
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった →有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった →感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった →良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	1	3.00	4.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった →取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	1	3.00	5.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった →十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	1	3.00	2.50
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった →広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0	1	4.00	5.00
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった →習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0	1	4.00	4.00
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない →満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0	1	4.00	4.50
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない →勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.50

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



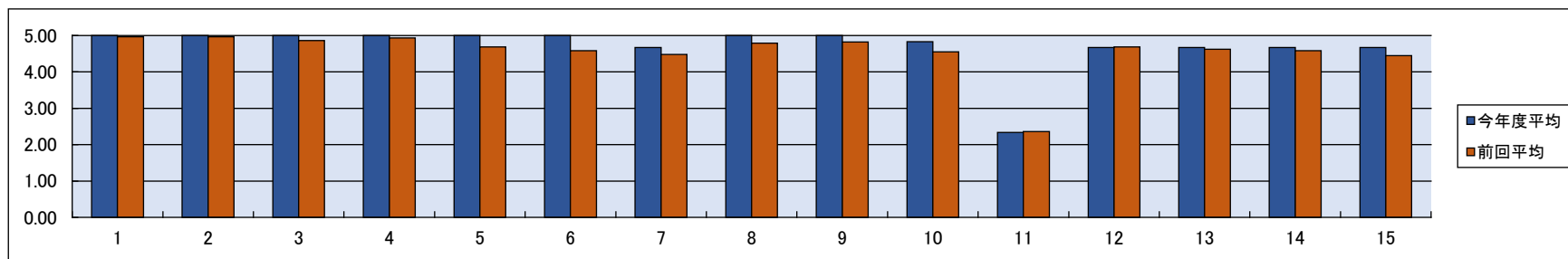
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽教育講義A～D
学年	

受講者数：57名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.97
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.97
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.86
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.93
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.69
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.59
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	有効であった→	0	0	0	2	4	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	0	6	4.67	4.48
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.79
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→	0	0	0	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	6	5.00	4.82
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	取り組んだ→	0	0	0	1	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(83.3)	0	6	4.83	4.55
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	十分行った→	4	0	0	0	2	(66.7)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	0	6	2.33	2.36
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	広がった→	0	0	0	2	4	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	0	6	4.67	4.69
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	習得できた→	0	0	0	2	4	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	0	6	4.67	4.62
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	満足している→	0	0	0	2	4	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	0	6	4.67	4.59
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	勧める→	0	0	0	2	4	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	0	6	4.67	4.45

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



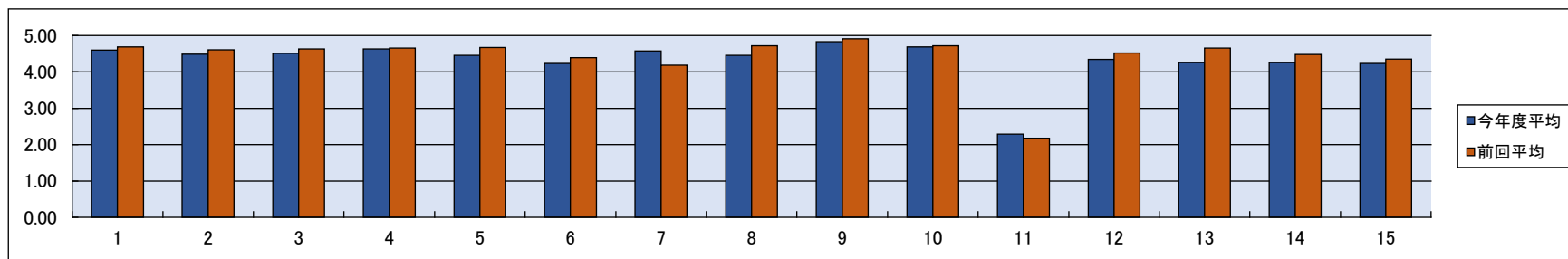
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽教育演習(合唱)ⅡⅣ、(合奏/指揮法/リトミック/即興演奏法)Ⅱ
学年	

受講者数：162名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均					
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)									
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない									守られた→	2 (5.7)	2 (5.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (88.6)	0	35	4.60	4.69
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった									行われた→	2 (5.7)	2 (5.7)	2 (5.7)	0 (0.0)	29 (82.9)	0	35	4.49	4.61
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった									適切であった→	1 (2.9)	2 (5.7)	2 (5.7)	3 (8.6)	27 (77.1)	0	35	4.51	4.63
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった									接していた→	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.7)	2 (5.7)	29 (82.9)	0	35	4.63	4.65
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった									適切であった→	3 (8.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.7)	28 (80.0)	0	35	4.46	4.67
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった									分かりやすかった→	4 (11.8)	1 (2.9)	2 (5.9)	3 (8.8)	24 (70.6)	1	34	4.24	4.39
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった									有効であった→	1 (2.9)	2 (5.7)	1 (2.9)	3 (8.6)	28 (80.0)	0	35	4.57	4.18
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった									感じられた→	2 (5.7)	2 (5.7)	2 (5.7)	1 (2.9)	28 (80.0)	0	35	4.46	4.72
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった									良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.7)	2 (5.7)	31 (88.6)	0	35	4.83	4.91
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった									取り組んだ→	1 (2.9)	0 (0.0)	2 (5.7)	3 (8.6)	29 (82.9)	0	35	4.69	4.72
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった									十分行った→	14 (40.0)	9 (25.7)	6 (17.1)	0 (0.0)	6 (17.1)	0	35	2.29	2.17
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった									広がった→	2 (5.7)	3 (8.6)	2 (5.7)	2 (5.7)	26 (74.3)	0	35	4.34	4.52
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった									習得できた→	1 (2.9)	5 (14.3)	2 (5.7)	3 (8.6)	24 (68.6)	0	35	4.26	4.65
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない									満足している→	5 (14.3)	1 (2.9)	0 (0.0)	3 (8.6)	26 (74.3)	0	35	4.26	4.48
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない									勧める→	5 (14.3)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.7)	26 (74.3)	0	35	4.23	4.35

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



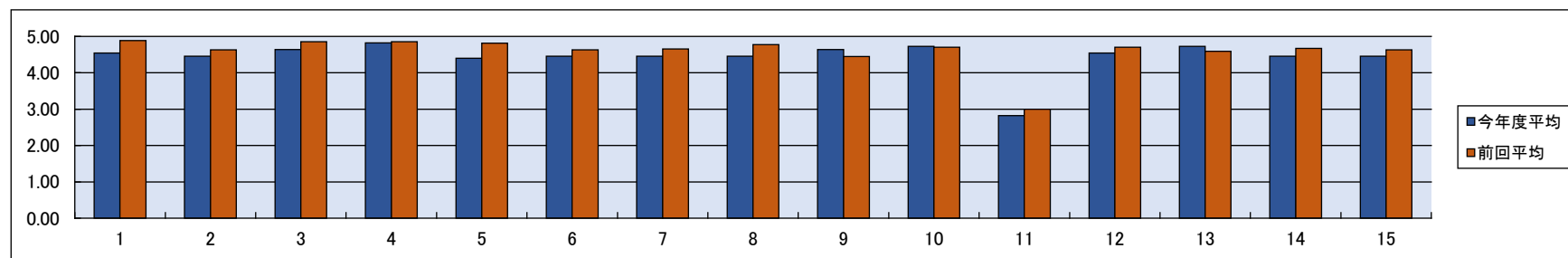
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門ゼミⅡⅣ、卒業研究[音楽教育専修(合唱・リトミック以外)]
学年	

受講者数：67名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	→守られた→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	3 (27.3)	7 (63.6)	0	11	4.55	4.89
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	→行われた→	2	3	4	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	1 (9.1)	8 (72.7)	0	11	4.45	4.63
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	2	4	5	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	9 (81.8)	0	11	4.64	4.85
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	→接していた→	3	5		0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	10 (90.9)	0	11	4.82	4.85
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	1	4	5	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	7 (70.0)	1	10	4.40	4.81
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	→分かりやすかった→	1	3	5	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.45	4.63
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	→有効であった→	1	3	5	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.45	4.65
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	→感じられた→	1	3	5	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.45	4.78
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	→良好であった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (36.4)	7 (63.6)	0	11	4.64	4.44
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	→取り組んだ→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	9 (81.8)	0	11	4.73	4.70
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	→十分行った→	1	2	4	2 (18.2)	5 (45.5)	0 (0.0)	1 (9.1)	3 (27.3)	0	11	2.82	3.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	→広がった→	2	3	5	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.55	4.70
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	→習得できた→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	9 (81.8)	0	11	4.73	4.59
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	→満足している→	1	3	5	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.45	4.67
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	→勧める→	1	3	5	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	9 (81.8)	0	11	4.45	4.63

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



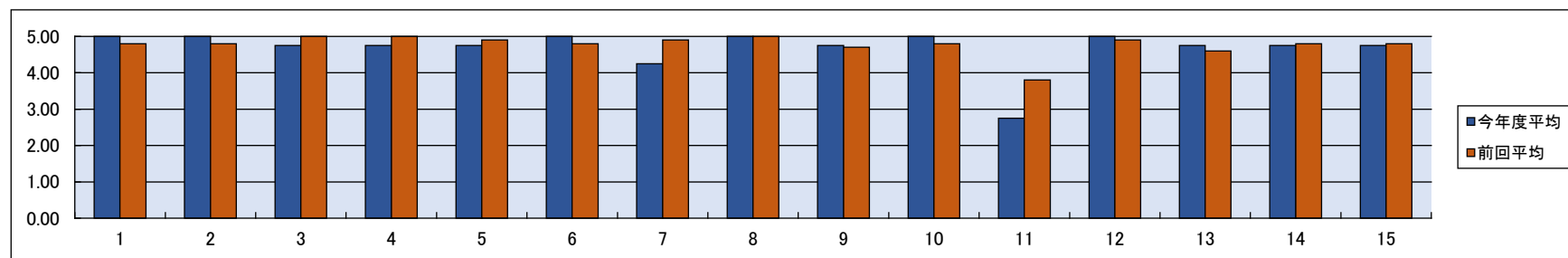
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門ゼミⅡⅣ、卒業研究[音楽教育専修(合唱・リトミック)]
学年	

受講者数：53名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均				
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)								
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5										→守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5										→行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4		5						→適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	5.00		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4		5						→接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	5.00		
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4		5						→適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.90		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5										→分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	2		5						→有効であった→	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0	4	4.25	4.90		
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5										→感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4		5						→良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.70		
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5										→取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	5				→十分行った→	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0	4	2.75	3.80			
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5										→広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.90
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4		5						→習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.60		
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4		5						→満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.80		
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4		5						→勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.80		

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



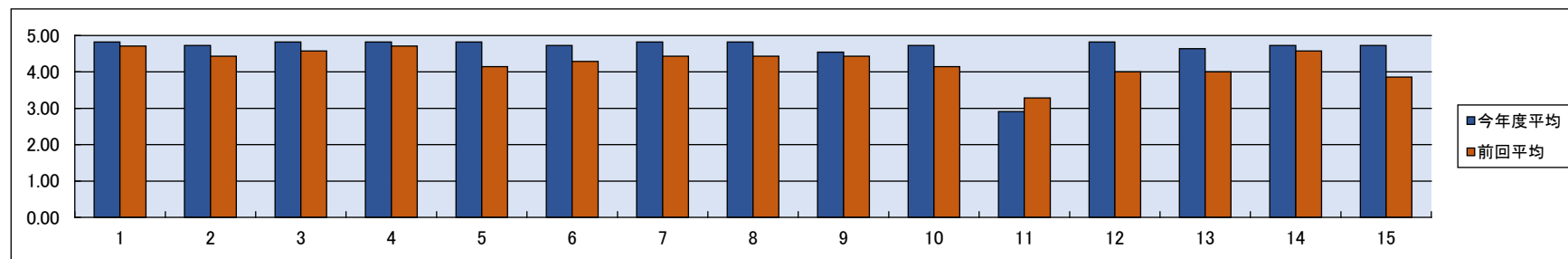
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽療法講義ⅡⅣ、音楽療法研究ⅡⅣ
学年	

受講者数：47名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	5	守られた→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.71				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	行われた→	0	0	1	1	9	0	11	4.73	4.43			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.57				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	5	接していた→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.71				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.14				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0	0	1	1	9	0	11	4.73	4.29			
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	5	有効であった→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.43				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	5	感じられた→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.43				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	良好であった→	0	0	2	1	8	0	11	4.55	4.43			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	取り組んだ→	0	0	1	1	9	0	11	4.73	4.14			
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	5	十分行った→	3	1	4	0	3	0	11	2.91	3.29		
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	5	広がった→	0	0	1	0	10	0	11	4.82	4.00				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	習得できた→	0	0	1	2	8	0	11	4.64	4.00			
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	5	満足している→	0	0	1	1	9	0	11	4.73	4.57			
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	5	勧める→	0	0	1	1	9	0	11	4.73	3.86			

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



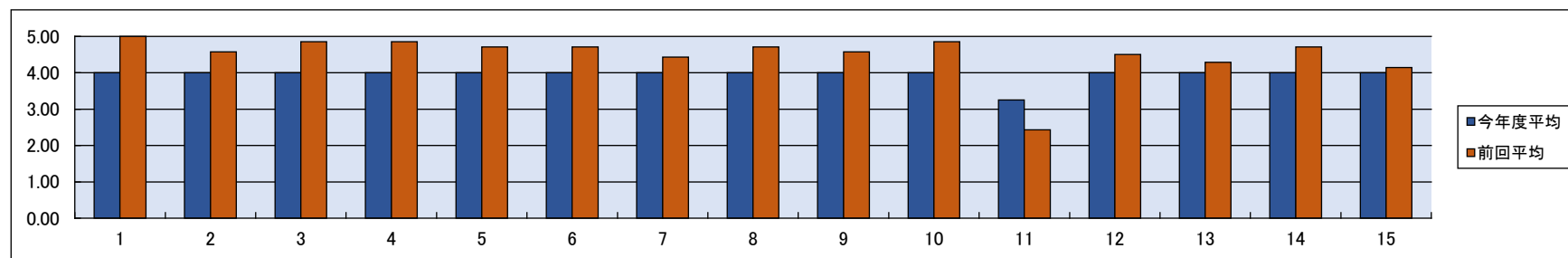
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	障害児教育B、臨床心理学B、臨床医学論B
学年	

受講者数：19名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	5.00	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.57	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.86	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.86	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.71	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.71	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.43	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.71	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.57	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.86	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	5	十分行った→	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0	4	3.25	2.43
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.50	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.29	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.71	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0	4	4.00	4.14	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



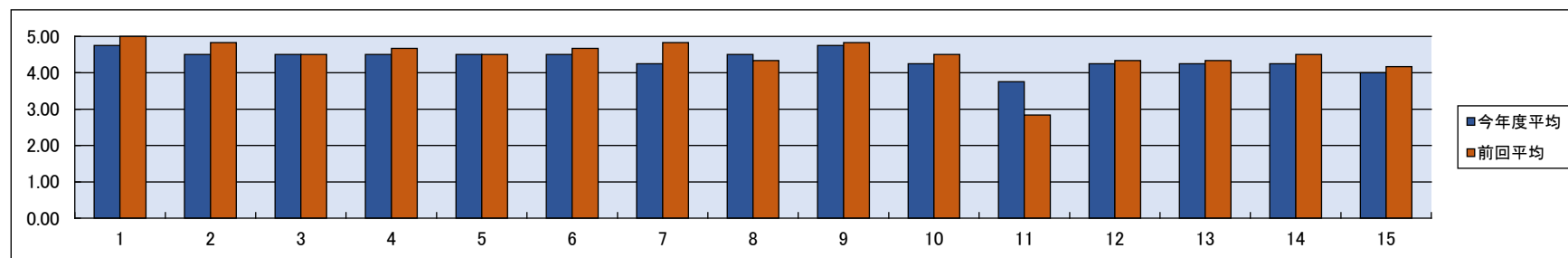
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門ゼミ(音楽療法演習)ⅡⅣ、卒業研究[音楽療法専修]
学年	

受講者数：26名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	3	0	4	4.75	5.00				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.83				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.50				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.67				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.50				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.67				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0	0	0	3	1	0	4	4.25	4.83				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	2	2	0	4	4.50	4.33				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	1	3	0	4	4.75	4.83				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0	0	1	1	2	0	4	4.25	4.50				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	3	4	十分行った→	0	0	2	1	1	0	4	3.75	2.83				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	広がった→	0	0	1	1	2	0	4	4.25	4.33				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	習得できた→	0	0	1	1	2	0	4	4.25	4.33				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	満足している→	0	0	1	1	2	0	4	4.25	4.50				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	勧める→	0	0	1	2	1	0	4	4.00	4.17				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



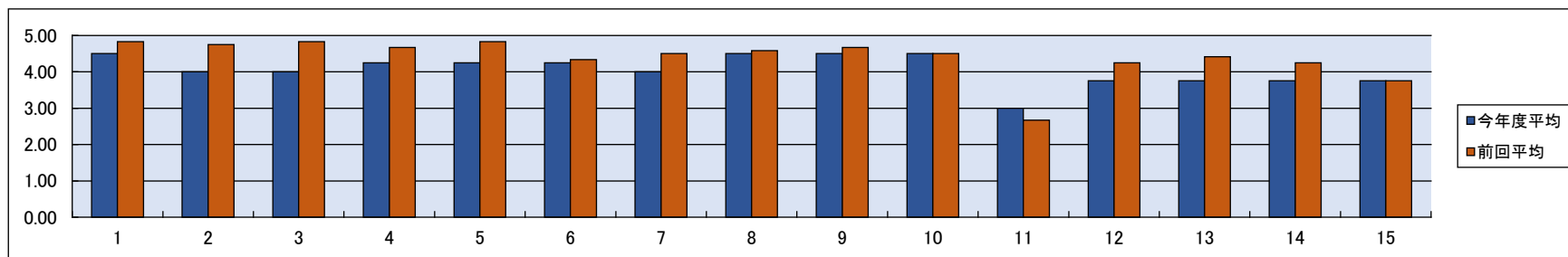
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽合奏ⅡⅣ、歌唱実習Ⅱ
学年	

受講者数：23名

			1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
			回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 4 →守られた→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0	4	4.50	4.83
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 4 →行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	0	4	4.00	4.75
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 4 →適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	0	4	4.00	4.83
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 4 →接していた→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0	4	4.25	4.67
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 4 →適切であった→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0	4	4.25	4.83
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 4 →分かりやすかった→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0	4	4.25	4.33
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 4 →有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	0	4	4.00	4.50
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 4 →感じられた→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0	4	4.50	4.58
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 4 →良好であった→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0	4	4.50	4.67
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 4 →取り組んだ→ 5	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0	4	4.50	4.50
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 1 →十分行った→ 3 4	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0	4	3.00	2.67
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 3 →広がった→ 4	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0	4	3.75	4.25
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 3 →習得できた→ 4	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0	4	3.75	4.42
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 3 →満足している→ 4	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0	4	3.75	4.25
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 3 →勧める→ 4	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0	4	3.75	3.75

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



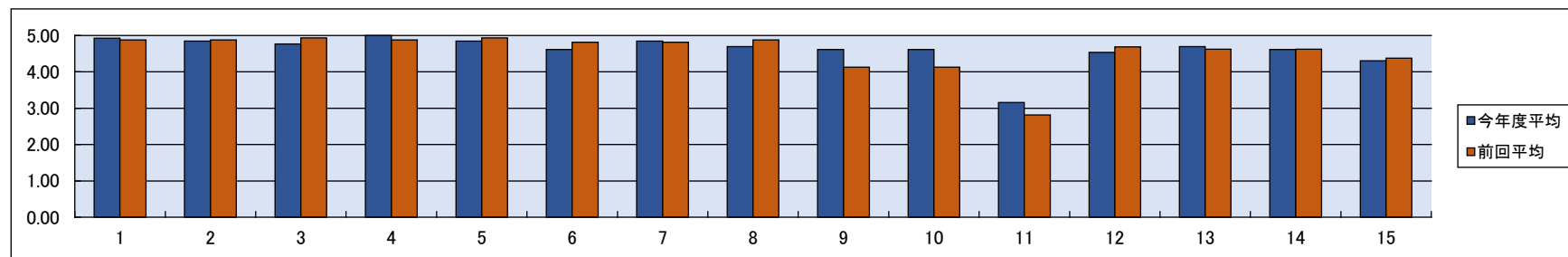
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽情報を読み解くⅡⅣ、音楽情報を発信するⅡⅣ
学年	

受講者数：42名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均			
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)							
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	12 (92.3)	0	13	4.92	4.88			
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	11 (84.6)	0	13	4.85	4.88			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	11 (84.6)	0	13	4.77	4.94			
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5		接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)	0	13	5.00	4.88			
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	11 (84.6)	0	13	4.85	4.94			
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (23.1)	9 (69.2)	0	13	4.62	4.81		
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	11 (84.6)	0	13	4.85	4.81			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (15.4)	10 (76.9)	0	13	4.69	4.88		
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (38.5)	8 (61.5)	0	13	4.62	4.13			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	1 (7.7)	10 (76.9)	0	13	4.62	4.13		
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	1 (7.7)	1 (7.7)	7 (53.8)	3 (23.1)	1 (7.7)	0	13	3.15	2.81
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	4 (30.8)	8 (61.5)	0	13	4.54	4.69		
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (30.8)	9 (69.2)	0	13	4.69	4.63			
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (23.1)	9 (69.2)	0	13	4.62	4.63		
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	2	3	4	5	勧める→	0 (0.0)	1 (7.7)	2 (15.4)	2 (15.4)	8 (61.5)	0	13	4.31	4.38	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



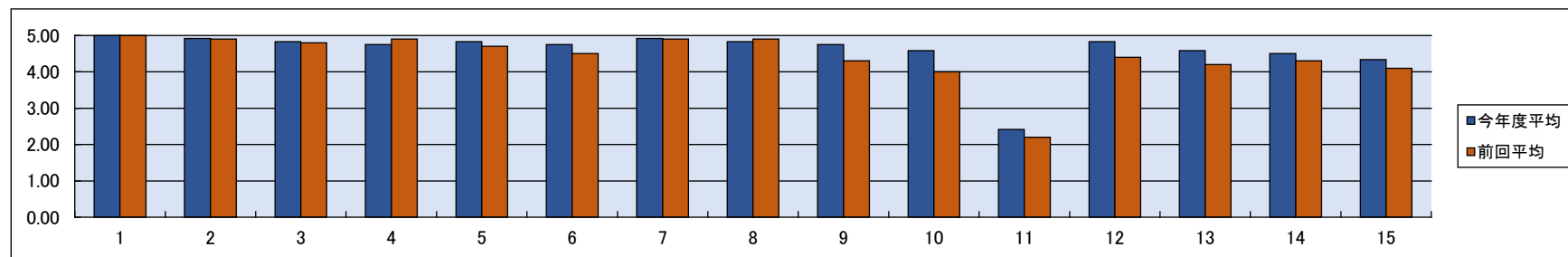
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽情報研究法ⅡⅣⅥⅧ
学年	

受講者数：37名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均				
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)								
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	←守られた→ 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	←行われた→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.90
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.80
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	←接していた→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.90
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.70
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	←分かりやすかった→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.50
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	←有効であった→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.90
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	←感じられた→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.90
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	←良好であった→ 3 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	10 (83.3)	0	12	4.75	4.30
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	←取り組んだ→ 3 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	8 (66.7)	0	12	4.58	4.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	←十分行った→ 1 2 3 5											3 (25.0)	5 (41.7)	2 (16.7)	0 (0.0)	2 (16.7)	0	12	2.42	2.20
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	←広がった→ 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.40
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	←習得できた→ 3 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	8 (66.7)	0	12	4.58	4.20
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	←満足している→ 3 4 5											0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	2 (16.7)	8 (66.7)	0	12	4.50	4.30
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	←勧める→ 2 3 4 5											0 (0.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	3 (25.0)	7 (58.3)	0	12	4.33	4.10

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



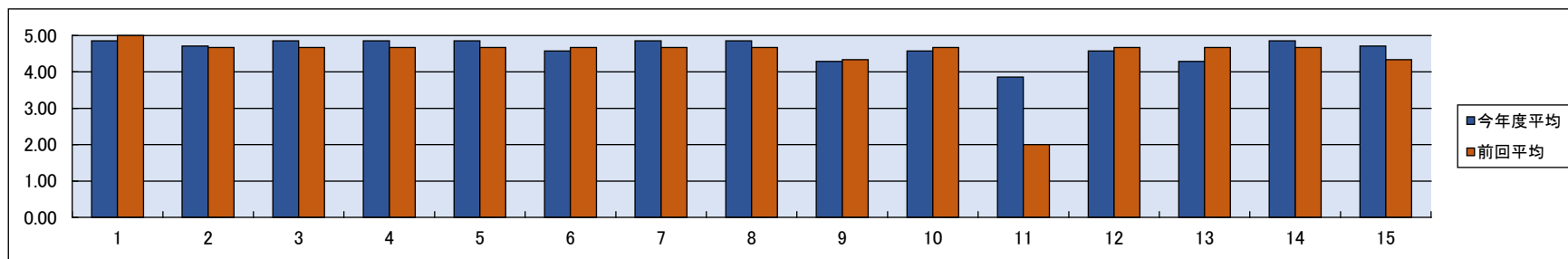
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門ゼミⅡⅣ、卒業研究[音楽情報専修]
学年	

受講者数：34名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	5.00				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.67				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0	7	4.57	4.67				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	3 (42.9)	3 (42.9)	0	7	4.29	4.33				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0	7	4.57	4.67				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	3	十分行った→	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	2 (28.6)	3 (42.9)	0	7	3.86	2.00				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (42.9)	4 (57.1)	0	7	4.57	4.67				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2	4	習得できた→	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	2 (28.6)	4 (57.1)	0	7	4.29	4.67				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.67				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.33				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



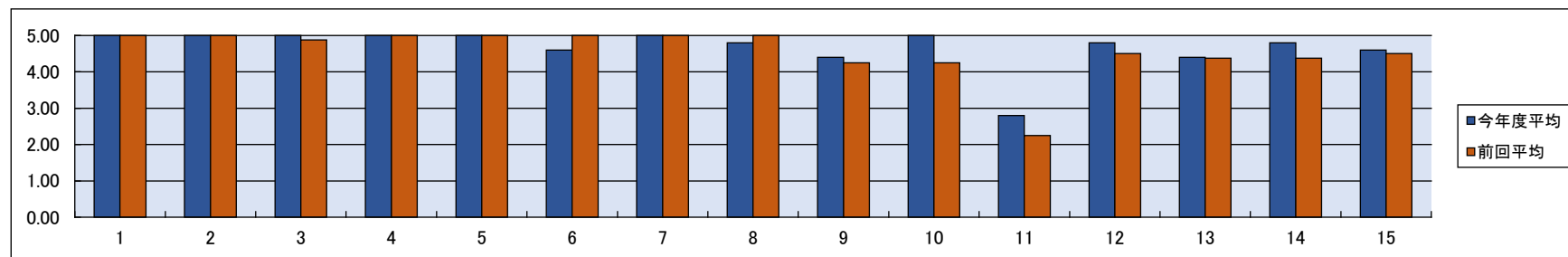
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽情報を集めるⅡ、音楽学入門、楽器・音響講義ⅡⅢ
学年	

受講者数：23名

			1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
			回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない → 守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった → 行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	5.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった → 適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	4.88
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった → 接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった → 適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった → 分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	0	5	4.60	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった → 有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった → 感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	4 (80.0)	0	5	4.80	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった → 良好であった→	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	0	5	4.40	4.25
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった → 取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0	5	5.00	4.25
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった → 十分行った→	0 (0.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0	5	2.80	2.25
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった → 広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	4 (80.0)	0	5	4.80	4.50
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった → 習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0	5	4.40	4.38
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない → 満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	4 (80.0)	0	5	4.80	4.38
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない → 勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	0	5	4.60	4.50

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



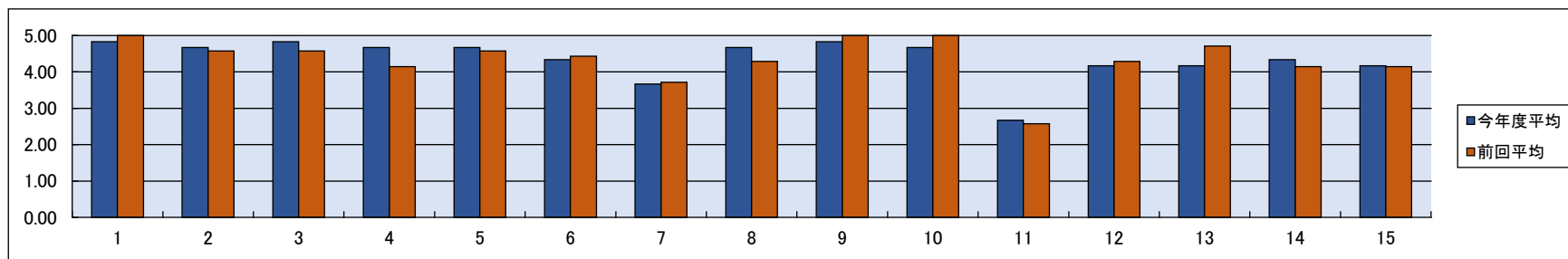
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	幼児教育講義(保育原理/教職概論/発達心理/教育制度論)
学年	

受講者数: 16名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	5	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(83.3)	4.83	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	2	4	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	4.67	4.57
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	5	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(83.3)	4.83	4.57
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	2	4	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	4.67	4.14
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	4	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	4.67	4.57
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	分かりやすかった→	0	0	1	2	3	0	6	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(33.3)	(50.0)	4.33	4.43
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	有効であった→	0	0	3	2	1	0	6	(0.0)	(0.0)	(50.0)	(33.3)	(16.7)	3.67	3.71
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	2	4	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	4.67	4.29
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	1	5	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(83.3)	4.83	5.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	2	4	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	(66.7)	4.67	5.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	十分行った→	2	2	0	0	2	0	6	(33.3)	(33.3)	(0.0)	(0.0)	(33.3)	2.67	2.57
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	広がった→	0	0	1	3	2	0	6	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(50.0)	(33.3)	4.17	4.29
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	習得できた→	0	0	1	3	2	0	6	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(50.0)	(33.3)	4.17	4.71
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0	0	0	4	2	0	6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(66.7)	(33.3)	4.33	4.14
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	勧める→	0	0	1	3	2	0	6	(0.0)	(0.0)	(16.7)	(50.0)	(33.3)	4.17	4.14

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



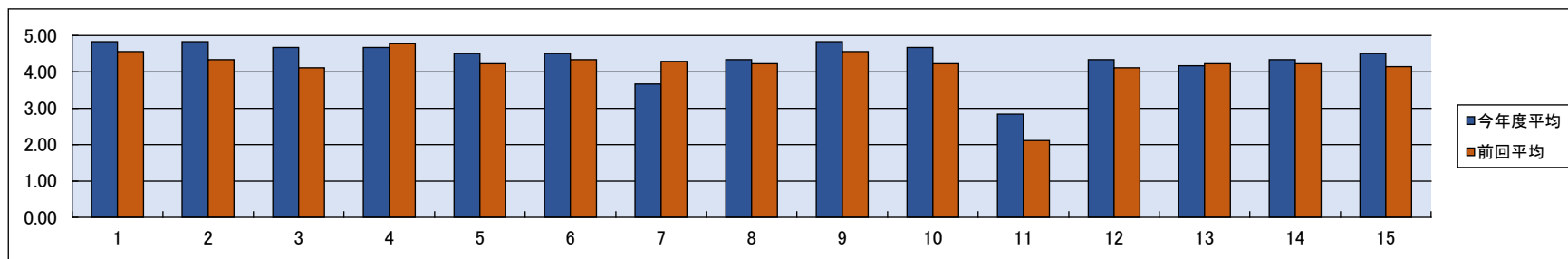
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	保育内容総論、保育内容(健康AB/人間関係/環境/言葉/表現AB)、幼児教育方法論AB
学年	

受講者数：46名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	5	0	0	0	6	0	6	4.83	4.56
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	1	5	0	0	0	6	0	6	4.83	4.33
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	4	0	0	0	6	0	6	4.67	4.11
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	2	4	0	0	0	6	0	6	4.67	4.78
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	3	3	0	0	0	6	0	6	4.50	4.22
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5	分かりやすかった→	0	0	0	3	3	0	0	0	6	0	6	4.50	4.33
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	有効であった→	0	0	3	2	1	0	0	0	6	0	6	3.67	4.29
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	4	2	0	0	0	6	0	6	4.33	4.22
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	1	5	0	0	0	6	0	6	4.83	4.56
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	2	4	0	0	0	6	0	6	4.67	4.22
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	3	十分行った→	2	0	2	1	1	0	0	0	6	0	6	2.83	2.11
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	広がった→	0	0	1	2	3	0	0	0	6	0	6	4.33	4.11
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	習得できた→	0	0	1	3	2	0	0	0	6	0	6	4.17	4.22
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0	0	0	4	2	0	0	0	6	0	6	4.33	4.22
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0	0	0	3	3	0	0	0	6	0	6	4.50	4.14

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



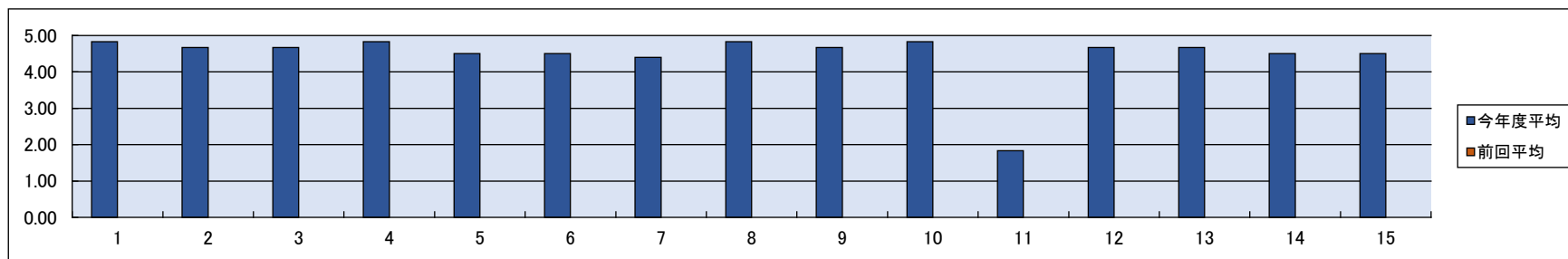
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	教科科目(国語/図画工作/体育/生活)	
学年		

受講者数: 33名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	5	0	6	4.83	-.--				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	2	4	0	6	4.67	-.--				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	4	0	6	4.67	-.--				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	1	5	0	6	4.83	-.--				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	3	3	0	6	4.50	-.--				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0	0	1	1	4	6	4.50	-.--				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5	有効であった→	0	0	1	1	3	5	4.40	-.--				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	1	5	0	6	4.83	-.--				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	2	4	0	6	4.67	-.--				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	1	5	0	6	4.83	-.--				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	5	十分行った→	4	1	0	0	1	6	1.83	-.--				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	2	4	0	6	4.67	-.--				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0	0	0	2	4	0	6	4.67	-.--				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0	0	0	3	3	0	6	4.50	-.--				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5	勧める→	0	0	0	3	3	0	6	4.50	-.--				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分~1時間 3: 1~5時間 4: 6~10時間 5: 11時間以上]



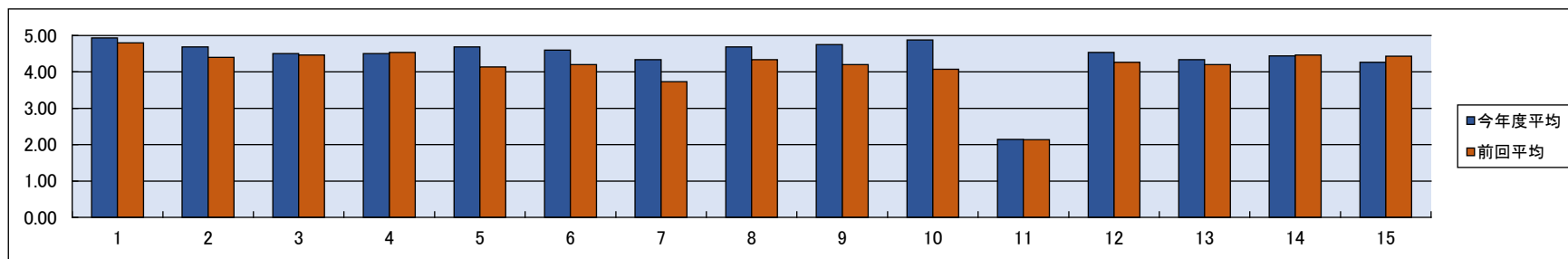
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	表現教育A~D
学年	

受講者数：30名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均					
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)									
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない												→守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	15 (93.8)	0	16	4.94	4.80
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった												→行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	3 (18.8)	12 (75.0)	0	16	4.69	4.40
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった												→適切であった→	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	5 (31.3)	10 (62.5)	0	16	4.50	4.47
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった												→接していた→	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	3 (18.8)	11 (68.8)	0	16	4.50	4.53
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった												→適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	3 (18.8)	12 (75.0)	0	16	4.69	4.13
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった												→分かりやすかった→	0 (0.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	3 (20.0)	11 (73.3)	1	15	4.60	4.20
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった												→有効であった→	0 (0.0)	1 (6.7)	2 (13.3)	3 (20.0)	9 (60.0)	1	15	4.33	3.73
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった												→感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	3 (18.8)	12 (75.0)	0	16	4.69	4.33
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった												→良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (25.0)	12 (75.0)	0	16	4.75	4.20
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった												→取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (12.5)	14 (87.5)	0	16	4.88	4.07
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった												→十分行った→	7 (50.0)	2 (14.3)	3 (21.4)	0 (0.0)	2 (14.3)	2	14	2.14	2.13
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった												→広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	5 (33.3)	9 (60.0)	1	15	4.53	4.27
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった												→習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (20.0)	4 (26.7)	8 (53.3)	1	15	4.33	4.20
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない												→満足している→	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	4 (25.0)	10 (62.5)	0	16	4.44	4.47
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない												→勧める→	0 (0.0)	1 (6.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	8 (53.3)	1	15	4.27	4.43

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分~1時間 3: 1~5時間 4: 6~10時間 5: 11時間以上]



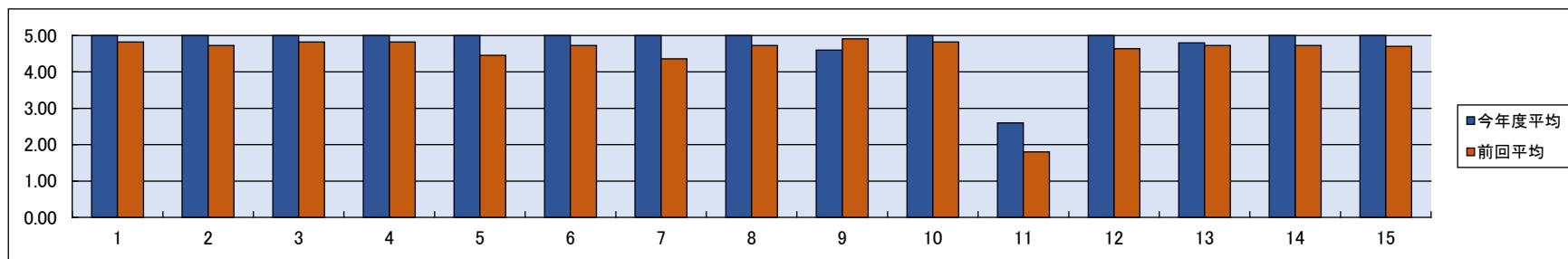
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽教育演習(合唱/合奏・打楽器/リトミック/即興演奏法)Ⅱ
学年	

受講者数：7名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.82
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.73
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.82
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.82
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.45
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.73
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.36
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.73
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	2	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(40.0)	(60.0)	0	5	4.60	4.91
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.82
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	4	5	十分行った→	2	1	0	1	1	0	5	0	5	2.60	1.80
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.64
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0	0	0	1	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(20.0)	(80.0)	0	5	4.80	4.73
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.73
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→	0	0	0	0	5	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(100.0)	0	5	5.00	4.70

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



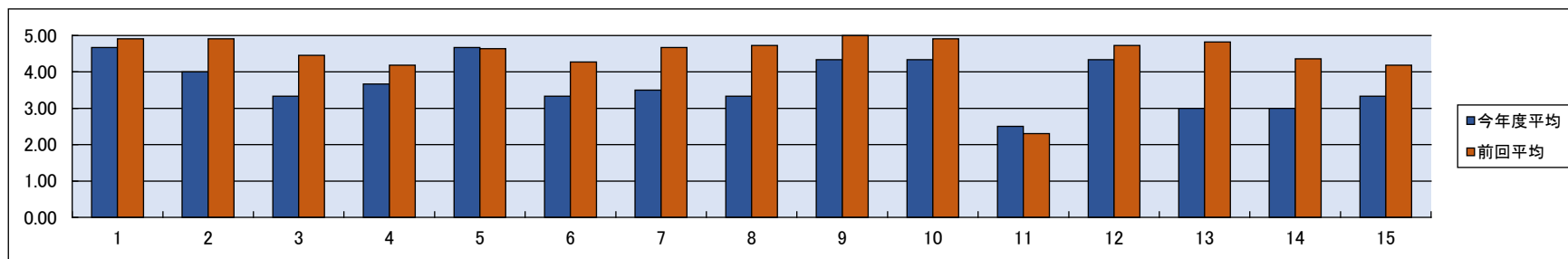
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	幼児音楽教育講義A～C
学年	

受講者数：18名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.91				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4		行われた→	0	0	0	3	0	0	3	4.00	4.91				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	1	4	適切であった→	1	0	0	1	1	0	3	3.33	4.45				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	2	4	接していた→	0	1	0	1	1	0	3	3.67	4.18				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.64				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1	4	分かりやすかった→	1	0	0	1	1	0	3	3.33	4.27				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	有効であった→	0	0	1	1	0	1	2	3.50	4.67				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1	4	感じられた→	1	0	0	1	1	0	3	3.33	4.73				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5	良好であった→	0	0	0	2	1	0	3	4.33	5.00				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	2	1	0	3	4.33	4.91				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	十分行った→	0	1	1	0	0	1	2	2.50	2.30				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	2	1	0	3	4.33	4.73				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	1	4	習得できた→	1	0	0	2	0	0	3	3.00	4.82				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1	4	満足している→	1	0	0	2	0	0	3	3.00	4.36				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	4	勧める→	1	0	0	1	1	0	3	3.33	4.18				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



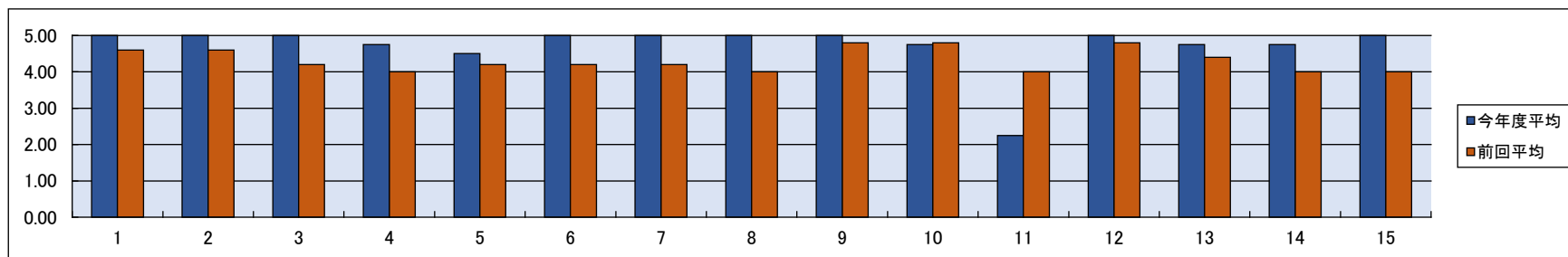
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	専門ゼミⅡⅣ[幼児音楽教育]	
学年		

受講者数：64名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.60
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.60
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.20
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0	4	4.50	4.20
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.20
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.20
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.80
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	5	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0	4	2.25	4.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.80
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.40
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0	4	4.75	4.00
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	0	4	5.00	4.00

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



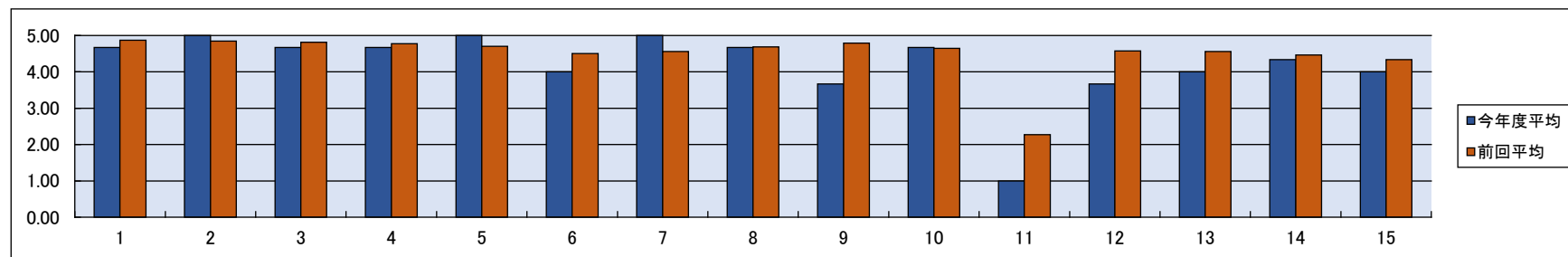
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽ICT演習Ⅱ、音楽・学び・情報、音楽・心・身体、音楽・社会・キャリア
学年	

受講者数：27名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.87				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった		5	行われた→	0	0	0	0	3	0	3	5.00	4.85				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.82				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.77				
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった		5	適切であった→	0	0	0	0	3	0	3	5.00	4.70				
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0	0	1	1	1	3	4.00	4.51				
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった		5	有効であった→	0	0	0	0	3	0	3	5.00	4.56				
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5	感じられた→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.69				
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	5	良好であった→	0	0	2	0	1	0	3	3.67	4.79				
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5	取り組んだ→	0	0	0	1	2	0	3	4.67	4.65				
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった		1	十分行った→	3	0	0	0	0	0	3	1.00	2.28				
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2	4	5	広がった→	0	1	0	1	1	3	3.67	4.57				
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	習得できた→	0	0	1	1	1	3	4.00	4.56				
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5	満足している→	0	0	0	2	1	0	3	4.33	4.46				
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4		勧める→	0	0	0	3	0	0	3	4.00	4.34				

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



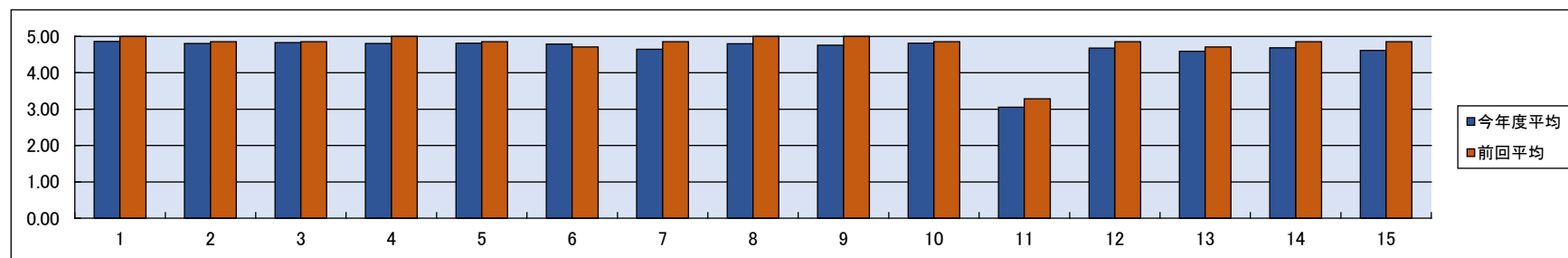
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	Music Cultures in Japan、アーツプロジェクト
学年	

受講者数：636名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.7)	12 (8.1)	132 (89.2)	0	148	4.86	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (4.1)	16 (10.9)	125 (85.0)	1	147	4.81	4.86
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	1 (0.7)	0 (0.0)	3 (2.1)	15 (10.3)	126 (86.9)	3	145	4.83	4.86
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	2	3	4	1 (0.7)	2 (1.4)	2 (1.4)	14 (9.5)	128 (87.1)	1	147	4.81	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	5 (3.4)	14 (9.5)	128 (86.5)	0	148	4.82	4.86
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	4 (2.7)	20 (13.5)	123 (83.1)	0	148	4.79	4.71
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	2	3	3 (2.1)	1 (0.7)	12 (8.2)	13 (8.9)	117 (80.1)	2	146	4.64	4.86
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1	2	3	1 (0.7)	1 (0.7)	1 (0.7)	21 (14.3)	123 (83.7)	1	147	4.80	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	3	4	0 (0.0)	2 (1.4)	3 (2.0)	24 (16.2)	119 (80.4)	0	148	4.76	5.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	3 (2.0)	18 (12.2)	125 (85.0)	1	147	4.82	4.86
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	33 (22.6)	25 (17.1)	32 (21.9)	13 (8.9)	43 (29.5)	2	146	3.05	3.29
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	5	1 (0.7)	1 (0.7)	6 (4.1)	28 (19.0)	111 (75.5)	1	147	4.68	4.86
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	14 (9.5)	30 (20.3)	103 (69.6)	0	148	4.59	4.71
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	5	1 (0.7)	1 (0.7)	8 (5.4)	23 (15.5)	115 (77.7)	0	148	4.69	4.86
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	2	3	4	1 (0.7)	3 (2.1)	9 (6.2)	25 (17.2)	107 (73.8)	3	145	4.61	4.86

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



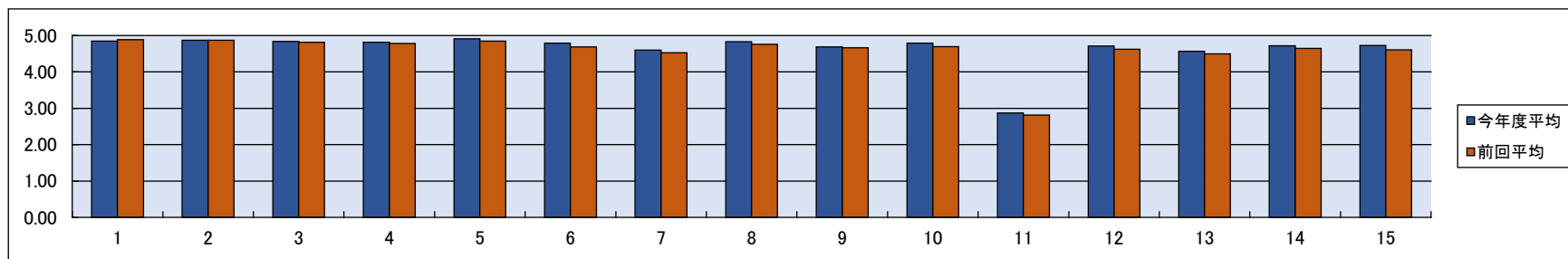
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	ソルフェージュⅡⅣ
学年	

受講者数：639名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	守られた→	1 (0.7)	0 (0.0)	3 (2.0)	13 (8.8)	130 (88.4)	0	147	4.84	4.88		
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.0)	13 (8.8)	131 (89.1)	0	147	4.87	4.87		
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	1 (0.7)	1 (0.7)	2 (1.4)	13 (8.8)	130 (88.4)	0	147	4.84	4.82		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	4	5	接していた→	1 (0.7)	1 (0.7)	4 (2.7)	12 (8.2)	129 (87.8)	0	147	4.82	4.78		
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5		適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (8.8)	134 (91.2)	0	147	4.91	4.85		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	1 (0.7)	5 (3.4)	18 (12.2)	123 (83.7)	0	147	4.79	4.69		
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	2	3	4	5	有効であった→	4 (2.8)	2 (1.4)	8 (5.6)	19 (13.4)	109 (76.8)	5	142	4.60	4.53
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.0)	19 (12.9)	125 (85.0)	0	147	4.83	4.76		
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	3	4	5	良好であった→	0 (0.0)	2 (1.4)	8 (5.4)	24 (16.3)	113 (76.9)	0	147	4.69	4.66	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (3.4)	21 (14.3)	121 (82.3)	0	147	4.79	4.69		
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	36 (24.5)	30 (20.4)	35 (23.8)	9 (6.1)	37 (25.2)	0	147	2.87	2.81
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	5	広がった→	1 (0.7)	0 (0.0)	6 (4.1)	27 (18.4)	113 (76.9)	0	147	4.71	4.62		
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2	3	4	5	習得できた→	1 (0.7)	2 (1.4)	9 (6.1)	36 (24.5)	99 (67.3)	0	147	4.56	4.49	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	5	満足している→	0 (0.0)	1 (0.7)	7 (4.8)	24 (16.3)	115 (78.2)	0	147	4.72	4.65		
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	2	3	4	5	勧める→	0 (0.0)	2 (1.4)	8 (5.5)	18 (12.4)	117 (80.7)	2	145	4.72	4.60	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



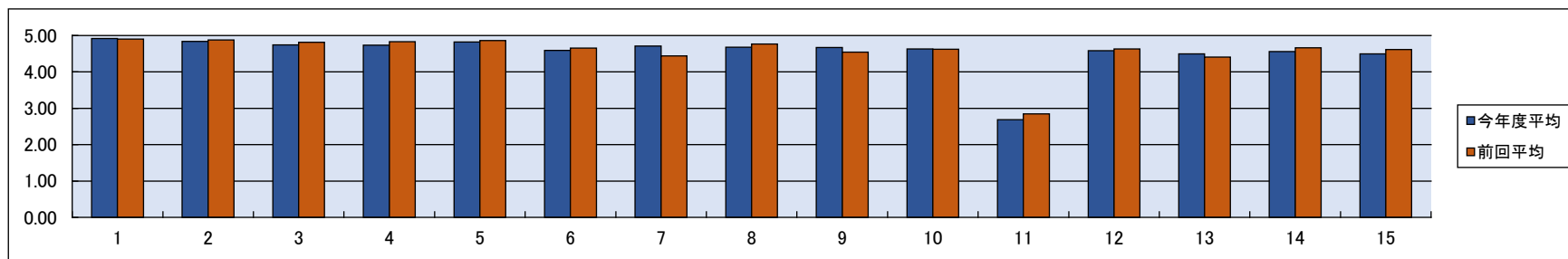
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	ハーモニーⅡⅣ
学年	

受講者数：993名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.9)	16 (6.8)	216 (92.3)	0	234	4.91	4.90	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	1 (0.4)	3 (1.3)	28 (12.0)	202 (86.3)	0	234	4.84	4.88	
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	2 3 4	5	適切であった→	3 (1.3)	3 (1.3)	6 (2.6)	28 (12.0)	194 (82.9)	0	234	4.74	4.82	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3 4	5	接していた→	3 (1.3)	1 (0.4)	14 (6.0)	20 (8.5)	196 (83.8)	0	234	4.73	4.83	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3 4	5	適切であった→	1 (0.4)	2 (0.9)	5 (2.1)	21 (9.0)	204 (87.6)	1	233	4.82	4.86	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1 2 3 4	5	分かりやすかった→	6 (2.6)	4 (1.7)	13 (5.6)	34 (14.5)	177 (75.6)	0	234	4.59	4.65	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1 2 3 4	5	有効であった→	5 (2.2)	2 (0.9)	10 (4.3)	21 (9.1)	194 (83.6)	2	232	4.71	4.44	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	2 3 4	5	感じられた→	1 (0.4)	4 (1.7)	14 (6.0)	32 (13.7)	183 (78.2)	0	234	4.68	4.77	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2 3 4	5	良好であった→	0 (0.0)	5 (2.1)	13 (5.6)	37 (15.8)	179 (76.5)	0	234	4.67	4.54	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	2 3 4	5	取り組んだ→	1 (0.4)	3 (1.3)	19 (8.1)	36 (15.4)	175 (74.8)	0	234	4.63	4.62	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1 2 3 4 5	5	十分行った→	79 (33.8)	51 (21.8)	33 (14.1)	6 (2.6)	65 (27.8)	0	234	2.69	2.85	
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2 3 4	5	広がった→	2 (0.9)	4 (1.7)	23 (9.8)	31 (13.2)	174 (74.4)	0	234	4.59	4.63	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2 3 4	5	習得できた→	3 (1.3)	5 (2.1)	22 (9.4)	46 (19.7)	157 (67.4)	1	233	4.50	4.41	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	2 3 4	5	満足している→	5 (2.1)	3 (1.3)	21 (9.0)	32 (13.7)	173 (73.9)	0	234	4.56	4.66	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1 2 3 4	5	勧める→	6 (2.6)	4 (1.7)	26 (11.3)	29 (12.6)	166 (71.9)	3	231	4.49	4.61	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



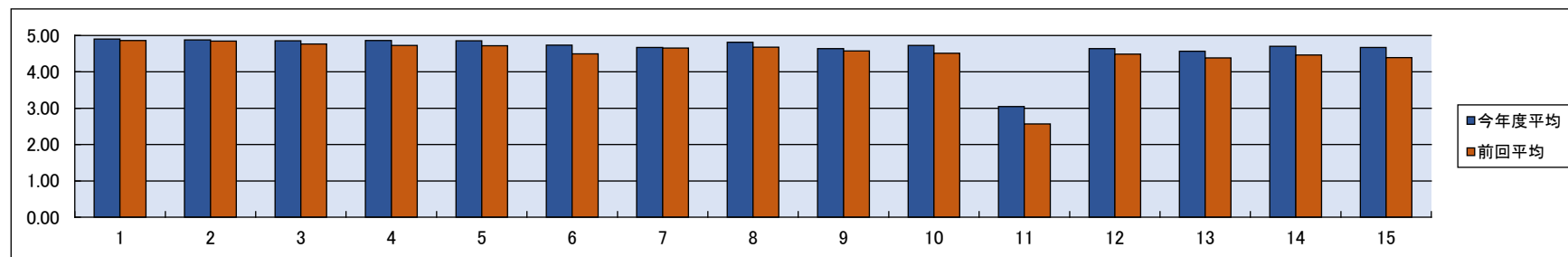
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	音楽概論B、西洋音楽史概説B、音楽文化論B
学年	

受講者数：688名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.4)	11 (7.5)	134 (91.2)	1	147	4.90	4.86		
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	0	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	16 (11.0)	129 (88.4)	2	146	4.88	4.84		
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	0	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.0)	16 (10.8)	129 (87.2)	0	148	4.85	4.77		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	0	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.4)	16 (10.9)	129 (87.8)	1	147	4.86	4.73		
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	1	4	5	1 (0.7)	0 (0.0)	1 (0.7)	16 (10.8)	130 (87.8)	0	148	4.85	4.72		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1	3	4	5	1 (0.7)	0 (0.0)	7 (4.8)	21 (14.3)	118 (80.3)	1	147	4.73	4.50	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	2	3	4	5	2 (1.4)	1 (0.7)	10 (6.9)	16 (11.1)	115 (79.9)	4	144	4.67	4.65	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	0	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	3 (2.0)	18 (12.2)	126 (85.1)	0	148	4.82	4.68	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	2	3	4	5	3 (2.0)	2 (1.4)	6 (4.1)	23 (15.5)	114 (77.0)	0	148	4.64	4.57
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	0	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	9 (6.1)	19 (12.9)	118 (80.3)	1	147	4.73	4.51	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	21 (14.2)	43 (29.1)	34 (23.0)	8 (5.4)	42 (28.4)	0	148	3.05	2.56
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	0	2	3	4	5	0 (0.0)	2 (1.4)	11 (7.4)	25 (16.9)	110 (74.3)	0	148	4.64	4.49
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	1	3	4	5	1 (0.7)	0 (0.0)	13 (8.8)	34 (23.0)	100 (67.6)	0	148	4.57	4.38	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	0	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	8 (5.4)	25 (16.9)	114 (77.0)	0	148	4.70	4.47	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	0	2	3	4	5	0 (0.0)	2 (1.4)	7 (4.8)	28 (19.0)	110 (74.8)	1	147	4.67	4.39

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



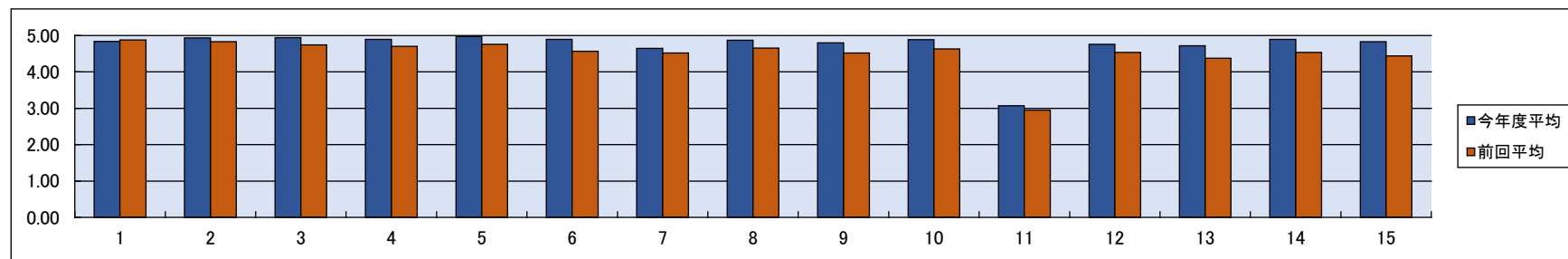
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	外国語コミュニケーション(英語/ドイツ語/イタリア語/フランス語) II IV
学年	

受講者数: 385名

No.	項目	←守られていない	←行われなかった	←適切でなかった	←接していなかった	←適切でなかった	←分かりにくかった	←有効でなかった	←感じられなかった	←良好でなかった	←取り組まなかった	←十分行わなかった	←広がらなかった	←習得できなかった	←満足していない	←勧めない	1	2	3	4	5	無効	有効	今年度	前回
																	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)
1	回数・時間は基本的に守られた。	守られた→	2	3	4	5	0	1	3	8	92	0	104	4.84	4.88	(0.0)	(1.0)	(2.9)	(7.7)	(88.5)	0	104	4.84	4.88	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	行われた→	0	0	1	5	97	1	103	4.93	4.83	(0.0)	(0.0)	(1.0)	(4.9)	(94.2)	1	103	4.93	4.83					
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	適切であった→	0	0	2	2	97	3	101	4.94	4.74	(0.0)	(0.0)	(2.0)	(2.0)	(96.0)	3	101	4.94	4.74					
4	教員は学生に誠実に接していた。	接していた→	1	0	1	5	97	0	104	4.89	4.70	(1.0)	(0.0)	(1.0)	(4.8)	(93.3)	0	104	4.89	4.70					
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	適切であった→	0	0	1	1	100	2	102	4.97	4.76	(0.0)	(0.0)	(1.0)	(1.0)	(98.0)	2	102	4.97	4.76					
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	分かりやすかった→	0	1	2	4	97	0	104	4.89	4.57	(0.0)	(1.0)	(1.9)	(3.8)	(93.3)	0	104	4.89	4.57					
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	有効であった→	4	1	7	3	86	3	101	4.64	4.52	(4.0)	(1.0)	(6.9)	(3.0)	(85.1)	3	101	4.64	4.52					
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	感じられた→	0	2	1	5	95	1	103	4.87	4.66	(0.0)	(1.9)	(1.0)	(4.9)	(92.2)	1	103	4.87	4.66					
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	良好であった→	0	2	4	7	90	1	103	4.80	4.52	(0.0)	(1.9)	(3.9)	(6.8)	(87.4)	1	103	4.80	4.52					
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	取り組んだ→	0	0	1	10	93	0	104	4.88	4.63	(0.0)	(0.0)	(1.0)	(9.6)	(89.4)	0	104	4.88	4.63					
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	十分行った→	13	26	32	7	26	0	104	3.07	2.95	(12.5)	(25.0)	(30.8)	(6.7)	(25.0)	0	104	3.07	2.95					
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	広がった→	0	1	4	14	85	0	104	4.76	4.53	(0.0)	(1.0)	(3.8)	(13.5)	(81.7)	0	104	4.76	4.53					
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	習得できた→	0	0	7	15	82	0	104	4.72	4.38	(0.0)	(0.0)	(6.7)	(14.4)	(78.8)	0	104	4.72	4.38					
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	満足している→	0	2	0	5	97	0	104	4.89	4.54	(0.0)	(1.9)	(0.0)	(4.8)	(93.3)	0	104	4.89	4.54					
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	勧める→	2	0	1	7	92	2	102	4.83	4.44	(2.0)	(0.0)	(1.0)	(6.9)	(90.2)	2	102	4.83	4.44					

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



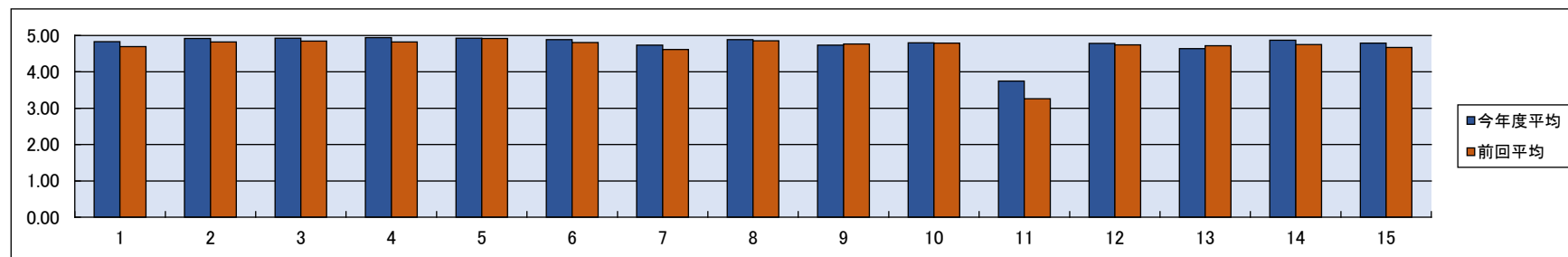
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	声楽表現ⅡⅣ
学年	

受講者数：499名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.6)	18 (11.8)	130 (85.5)	0	152	4.83	4.70
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.0)	6 (4.0)	142 (94.0)	1	151	4.92	4.82
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	9 (6.0)	141 (93.4)	1	151	4.93	4.85
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (5.9)	143 (94.1)	0	152	4.94	4.82
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	9 (6.0)	140 (93.3)	2	150	4.93	4.92
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.3)	13 (8.7)	135 (90.0)	2	150	4.89	4.81
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	3	4	3 (2.1)	0 (0.0)	9 (6.2)	9 (6.2)	125 (85.6)	6	146	4.73	4.61
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.0)	11 (7.2)	138 (90.8)	0	152	4.89	4.85
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	5 (3.3)	27 (17.9)	118 (78.1)	1	151	4.74	4.77
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.3)	27 (17.8)	123 (80.9)	0	152	4.80	4.79
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	2	3	4	0 (0.0)	13 (8.6)	60 (39.5)	32 (21.1)	47 (30.9)	0	152	3.74	3.26
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.7)	25 (16.7)	121 (80.7)	2	150	4.78	4.74
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5	0 (0.0)	1 (0.7)	8 (5.3)	36 (23.7)	107 (70.4)	0	152	4.64	4.72
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (13.2)	131 (86.8)	1	151	4.87	4.75
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (3.3)	21 (14.0)	124 (82.7)	2	150	4.79	4.67

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



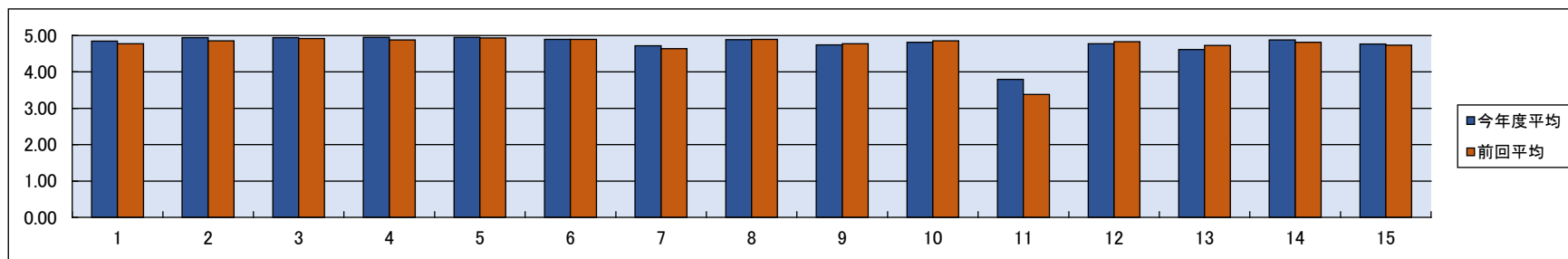
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	声楽表現Ⅱ
学年	1

受講者数：225名

No.	項目	←守られていない	←守られた→	1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
				回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	←守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.9)	10 (9.8)	89 (87.3)	0	102	4.84	4.78
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	←行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	2 (2.0)	97 (96.0)	1	101	4.94	4.85
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	4 (4.0)	96 (95.0)	1	101	4.94	4.92
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	←接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (4.9)	97 (95.1)	0	102	4.95	4.88
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	←適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	3 (3.0)	96 (96.0)	2	100	4.95	4.93
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	←分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	7 (6.9)	92 (91.1)	1	101	4.89	4.89
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	←有効であった→	3 (3.1)	0 (0.0)	6 (6.2)	3 (3.1)	85 (87.6)	5	97	4.72	4.64
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	←感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.9)	6 (5.9)	93 (91.2)	0	102	4.88	4.89
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	←良好であった→	0 (0.0)	1 (1.0)	3 (3.0)	17 (16.8)	80 (79.2)	1	101	4.74	4.78
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	←取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	15 (14.7)	85 (83.3)	0	102	4.81	4.86
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	←十分行った→	0 (0.0)	10 (9.8)	37 (36.3)	19 (18.6)	36 (35.3)	0	102	3.79	3.38
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	←広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.0)	15 (14.9)	82 (81.2)	1	101	4.77	4.83
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	←習得できた→	0 (0.0)	1 (1.0)	6 (5.9)	24 (23.5)	71 (69.6)	0	102	4.62	4.72
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	←満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (11.9)	89 (88.1)	1	101	4.88	4.82
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	←勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (5.0)	13 (13.0)	82 (82.0)	2	100	4.77	4.74

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



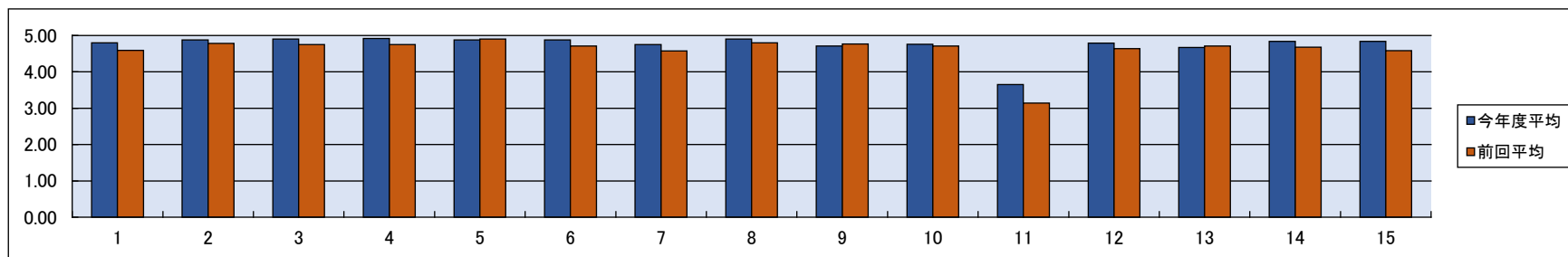
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	声楽表現Ⅳ
学年	2

受講者数：251名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 3 4 5 →守られた→								0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.0)	8 (16.3)	40 (81.6)	0	49	4.80	4.59
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 3 4 5 →行われた→								0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.0)	4 (8.2)	44 (89.8)	0	49	4.88	4.78
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 4 5 →適切であった→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (10.2)	44 (89.8)	0	49	4.90	4.75
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 4 5 →接していた→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (8.2)	45 (91.8)	0	49	4.92	4.75
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 4 5 →適切であった→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (12.2)	43 (87.8)	0	49	4.88	4.90
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 4 5 →分かりやすかった→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (12.5)	42 (87.5)	1	48	4.88	4.71
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 3 4 5 →有効であった→								0 (0.0)	0 (0.0)	3 (6.3)	6 (12.5)	39 (81.3)	1	48	4.75	4.57
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 4 5 →感じられた→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (10.2)	44 (89.8)	0	49	4.90	4.80
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 3 4 5 →良好であった→								0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.1)	10 (20.4)	37 (75.5)	0	49	4.71	4.77
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 4 5 →取り組んだ→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (24.5)	37 (75.5)	0	49	4.76	4.71
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 2 3 4 5 →十分行った→								0 (0.0)	3 (6.1)	22 (44.9)	13 (26.5)	11 (22.4)	0	49	3.65	3.14
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 4 5 →広がった→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (20.8)	38 (79.2)	1	48	4.79	4.63
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 3 4 5 →習得できた→								0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.1)	12 (24.5)	35 (71.4)	0	49	4.67	4.71
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 4 5 →満足している→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (16.3)	41 (83.7)	0	49	4.84	4.68
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 4 5 →勧める→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (16.3)	41 (83.7)	0	49	4.84	4.58

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



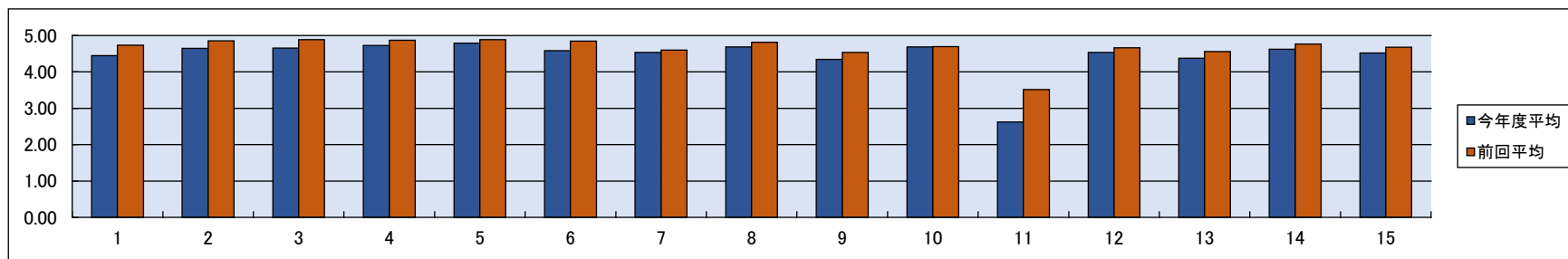
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(ピアノ/創作系ピアノ) II IV	
学年		

受講者数：142名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	1 3 4 5	守られた→	2 (6.9)	0 (0.0)	2 (6.9)	4 (13.8)	21 (72.4)	0	29	4.45	4.73					
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	1 3 5	行われた→	1 (3.6)	0 (0.0)	3 (10.7)	0 (0.0)	24 (85.7)	1	28	4.64	4.85					
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	1 2 5	適切であった→	1 (3.4)	2 (6.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	26 (89.7)	0	29	4.66	4.88					
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	2 3 5	接していた→	0 (0.0)	2 (6.9)	1 (3.4)	0 (0.0)	26 (89.7)	0	29	4.72	4.87					
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	2 3 4 5	適切であった→	0 (0.0)	1 (3.4)	1 (3.4)	1 (3.4)	26 (89.7)	0	29	4.79	4.88					
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1 2 4 5	分かりやすかった→	2 (6.9)	1 (3.4)	0 (0.0)	1 (3.4)	25 (86.2)	0	29	4.59	4.85					
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1 3 4 5	有効であった→	2 (7.1)	0 (0.0)	1 (3.6)	3 (10.7)	22 (78.6)	1	28	4.54	4.60					
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	2 3 4 5	感じられた→	0 (0.0)	2 (6.9)	1 (3.4)	1 (3.4)	25 (86.2)	0	29	4.69	4.82					
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	1 2 3 4 5	良好であった→	1 (3.4)	2 (6.9)	3 (10.3)	3 (10.3)	20 (69.0)	0	29	4.34	4.54					
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	1 2 3 5	取り組んだ→	1 (3.4)	1 (3.4)	1 (3.4)	0 (0.0)	26 (89.7)	0	29	4.69	4.69					
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1 2 3 5	十分行った→	7 (24.1)	7 (24.1)	10 (34.5)	0 (0.0)	5 (17.2)	0	29	2.62	3.51					
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	1 2 4 5	広がった→	1 (3.6)	2 (7.1)	0 (0.0)	3 (10.7)	22 (78.6)	1	28	4.54	4.66					
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	1 2 4 5	習得できた→	2 (6.9)	1 (3.4)	0 (0.0)	7 (24.1)	19 (65.5)	0	29	4.38	4.56					
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1 2 4 5	満足している→	1 (3.4)	2 (6.9)	0 (0.0)	1 (3.4)	25 (86.2)	0	29	4.62	4.77					
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1 2 4 5	勧める→	2 (6.9)	1 (3.4)	0 (0.0)	3 (10.3)	23 (79.3)	0	29	4.52	4.68					

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



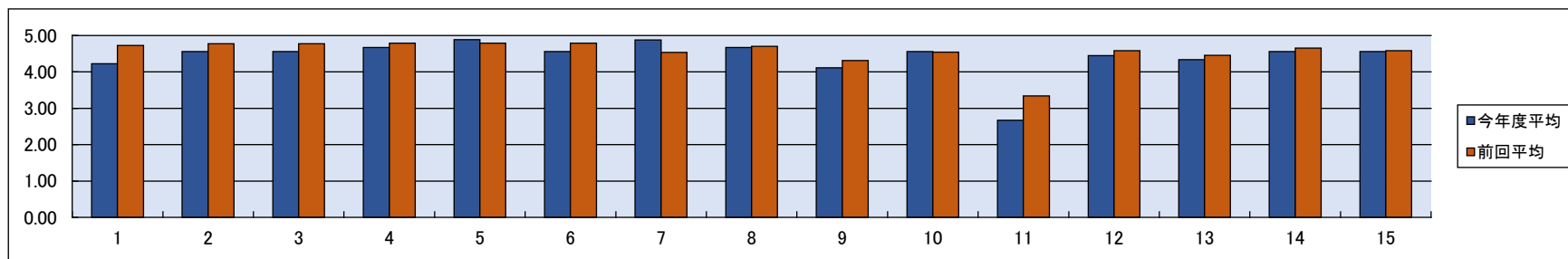
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(ピアノ/創作系ピアノ)Ⅳ	
学年	2	

受講者数：46名

			1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
			回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 1 4 5 守られた→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (33.3)	5 (55.6)	0	9	4.22	4.73
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 3 5 行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	7 (77.8)	0	9	4.56	4.78
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 1 5 適切であった→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.56	4.77
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 2 5 接していた→	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.67	4.79
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 4 5 適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	8 (88.9)	0	9	4.89	4.79
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 1 5 分かりやすかった→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.56	4.79
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 4 5 有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	7 (87.5)	1	8	4.88	4.53
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 2 5 感じられた→	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.67	4.70
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 1 3 5 良好であった→	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	6 (66.7)	0	9	4.11	4.31
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 1 5 取り組んだ→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.56	4.55
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 1 2 3 5 十分行った→	2 (22.2)	1 (11.1)	5 (55.6)	0 (0.0)	1 (11.1)	0	9	2.67	3.34
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 1 4 5 広がった→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	7 (77.8)	0	9	4.44	4.58
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 1 4 5 習得できた→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	6 (66.7)	0	9	4.33	4.45
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 1 5 満足している→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.56	4.66
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 1 5 勧める→	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (88.9)	0	9	4.56	4.58

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



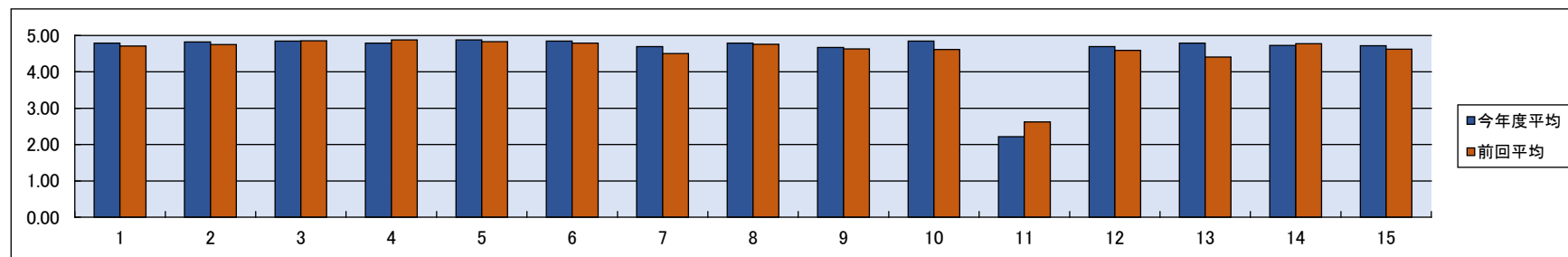
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(電子オルガン/弦管打)ⅡⅣ
学年	

受講者数：149名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	1 3 4	5	守られた→	1 (3.0)	0 (0.0)	1 (3.0)	1 (3.0)	30 (90.9)	0	33	4.79	4.71
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	2 4	5	行われた→	0 (0.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	3 (9.1)	29 (87.9)	0	33	4.82	4.75
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	2 4	5	適切であった→	0 (0.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	2 (6.1)	30 (90.9)	0	33	4.85	4.86
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	1 4	5	接していた→	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.1)	29 (87.9)	0	33	4.79	4.88
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (12.5)	28 (87.5)	1	32	4.88	4.83
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3 4	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.0)	3 (9.1)	29 (87.9)	0	33	4.85	4.79
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1 3 4	5	有効であった→	1 (3.0)	0 (0.0)	1 (3.0)	4 (12.1)	27 (81.8)	0	33	4.70	4.50
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1 4	5	感じられた→	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.1)	29 (87.9)	0	33	4.79	4.76
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3 4	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (9.1)	5 (15.2)	25 (75.8)	0	33	4.67	4.63
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3 4	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.0)	3 (9.1)	29 (87.9)	0	33	4.85	4.61
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1 2 3 4 5		十分行った→	15 (45.5)	7 (21.2)	5 (15.2)	1 (3.0)	5 (15.2)	0	33	2.21	2.63
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	1 4	5	広がった→	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (18.2)	26 (78.8)	0	33	4.70	4.59
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2 4	5	習得できた→	0 (0.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	4 (12.1)	28 (84.8)	0	33	4.79	4.41
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1 4	5	満足している→	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (15.2)	27 (81.8)	0	33	4.73	4.78
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1 4	5	勧める→	1 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (15.6)	26 (81.3)	1	32	4.72	4.63

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



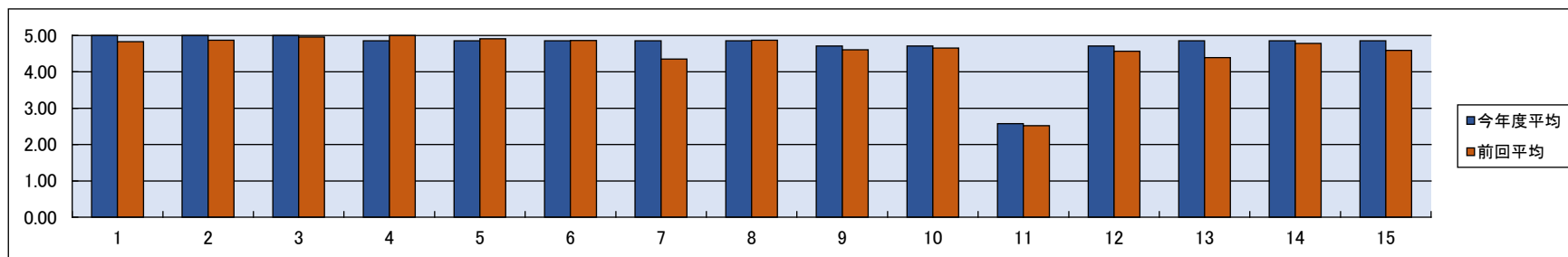
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(電子オルガン/弦管打)ⅡⅣ	
学年	2	

受講者数：59名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5		守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)	0	7	5.00	4.83				
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5		行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)	0	7	5.00	4.87				
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5		適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)	0	7	5.00	4.96				
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5		接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	5.00			
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5		適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.91			
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	4	5		分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.86			
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	4	5		有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.35			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	4	5		感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.87			
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	4	5		良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.61			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	4	5		取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.65			
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	3	4	5	十分行った→	3 (42.9)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	0	7	2.57	2.52		
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5		広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.57			
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5		習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.39			
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	4	5		満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.78			
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	4	5		勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.59			

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



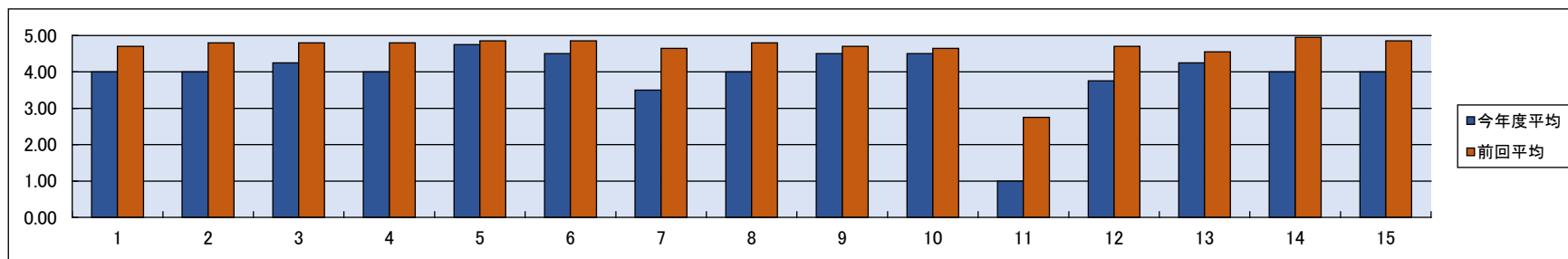
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(電子オルガン/弦管打)ⅡⅣ
学年	3

受講者数: 32名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	1	5	守られた→	1	0	0	0	3	0	4	4.00	4.70	0	4	4.00	4.70	
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	2	4	5	行われた→	0	1	0	1	2	0	4	4.00	4.80	0	4	4.00	4.80
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	2	5	適切であった→	0	1	0	0	3	0	4	4.25	4.80	0	4	4.25	4.80	
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	1	5	接していた→	1	0	0	0	3	0	4	4.00	4.80	0	4	4.00	4.80	
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	3	0	4	4.75	4.85	0	4	4.75	4.85	
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	5	分かりやすかった→	0	0	1	0	3	0	4	4.50	4.85	0	4	4.50	4.85	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	1	3	5	有効であった→	1	0	1	0	2	0	4	3.50	4.65	0	4	3.50	4.65
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	1	5	感じられた→	1	0	0	0	3	0	4	4.00	4.80	0	4	4.00	4.80	
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	5	良好であった→	0	0	1	0	3	0	4	4.50	4.70	0	4	4.50	4.70	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	5	取り組んだ→	0	0	1	0	3	0	4	4.50	4.65	0	4	4.50	4.65	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1		十分行った→	4	0	0	0	0	0	4	1.00	2.75	0	4	1.00	2.75	
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	1	4	5	広がった→	1	0	0	1	2	0	4	3.75	4.70	0	4	3.75	4.70
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2	5	習得できた→	0	1	0	0	3	0	4	4.25	4.55	0	4	4.25	4.55	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	1	5	満足している→	1	0	0	0	3	0	4	4.00	4.95	0	4	4.00	4.95	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	5	勧める→	1	0	0	0	3	0	4	4.00	4.85	0	4	4.00	4.85	

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



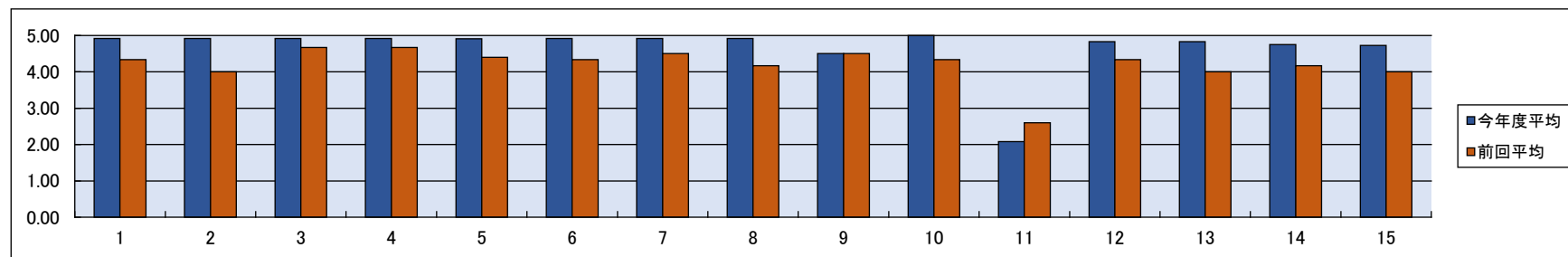
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	器楽表現(電子オルガン/弦管打)ⅡⅣ		
学年	4		

受講者数：26名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	→守られた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.33
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	→行われた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.67
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	→接していた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.67
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	10 (90.9)	1	11	4.91	4.40
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	→分かりやすかった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.33
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	→有効であった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.50
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	→感じられた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	11 (91.7)	0	12	4.92	4.17
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	→良好であった→	3	4	5	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	2 (16.7)	8 (66.7)	0	12	4.50	4.50
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	→取り組んだ→		5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)	0	12	5.00	4.33
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	→十分行った→	1	2	3	4	5	2	0	1	0	12	2.08	2.60
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	→広がった→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.33
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	→習得できた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	10 (83.3)	0	12	4.83	4.00
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	→満足している→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	9 (75.0)	0	12	4.75	4.17
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	→勧める→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (27.3)	8 (72.7)	1	11	4.73	4.00

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



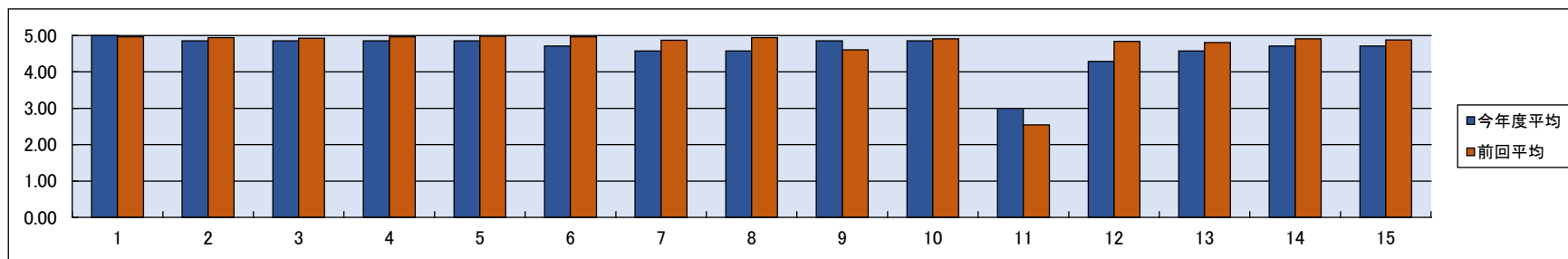
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	日本伝統音楽表現(三味線/雅楽/箏/囃子) II IV
学年	

受講者数：48名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5		守られた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)	0	7	5.00	4.96
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5		行われた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.95
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5		適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.93
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5		接していた→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.96
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5		適切であった→		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.98
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5		分かりやすかった→		0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	6 (85.7)	0	7	4.71	4.96
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	5		有効であった→								
							0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0	7	4.57	4.87
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5		感じられた→								
							0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0	7	4.57	4.95
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5		良好であった→										
							0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.61
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5		取り組んだ→										
							0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	6 (85.7)	0	7	4.86	4.91
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5		十分行った→						
							2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	0	7	3.00	2.55
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2	3	5		広がった→								
							0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	0 (0.0)	5 (71.4)	0	7	4.29	4.84
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	3	4	5		習得できた→								
							0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	5 (71.4)	0	7	4.57	4.80
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5		満足している→										
							0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.91
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5		勧める→										
							0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	5 (71.4)	0	7	4.71	4.88

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



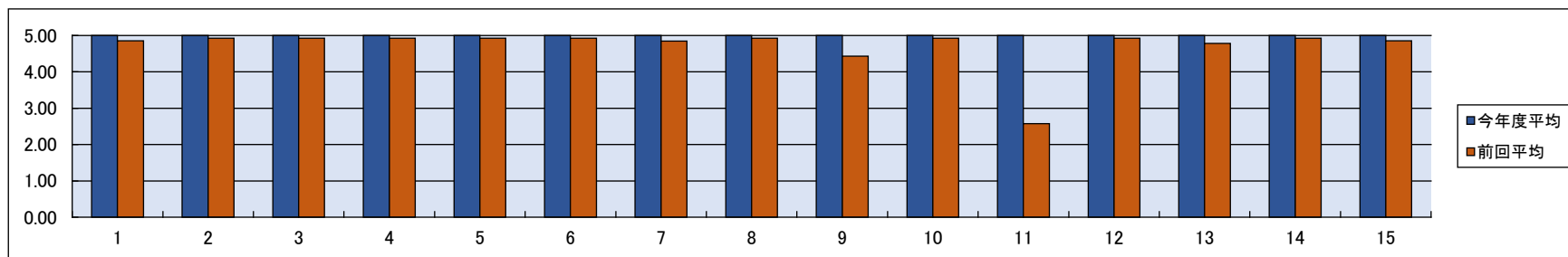
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	日本伝統音楽表現(三味線/雅楽/箏/囃子) II IV			
学年	1			

受講者数：7名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.86
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.85
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.43
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	5	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	2.57
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.79
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.93
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.86

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



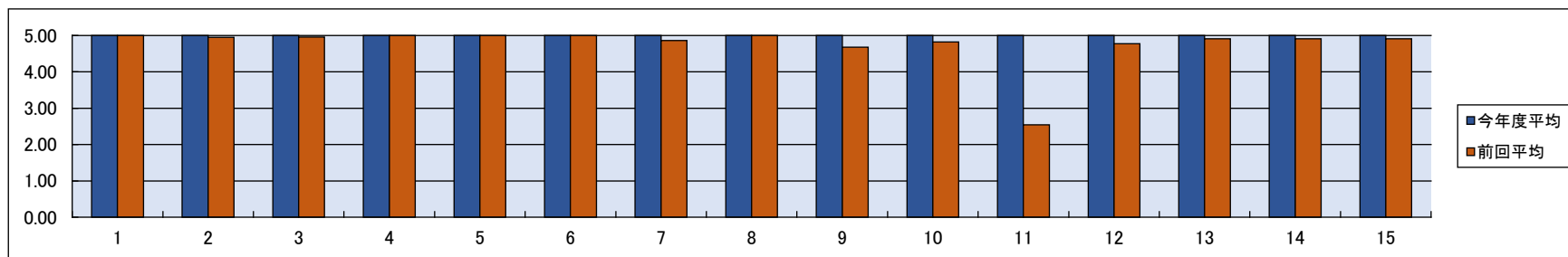
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	日本伝統音楽表現(三味線/雅楽/箏/囃子) II IV	
学年	2	

受講者数: 15名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	5	守られた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.95
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.95
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	5	接していた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	5	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	5	分かりやすかった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	5	有効であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.86
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	5	感じられた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	5	良好であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.68
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	5	取り組んだ→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.82
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	5	十分行った→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	2.55
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	5	広がった→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.77
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	5	習得できた→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.91
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	5	満足している→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.91
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	5	勧める→	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0	1	5.00	4.91

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。【1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上】



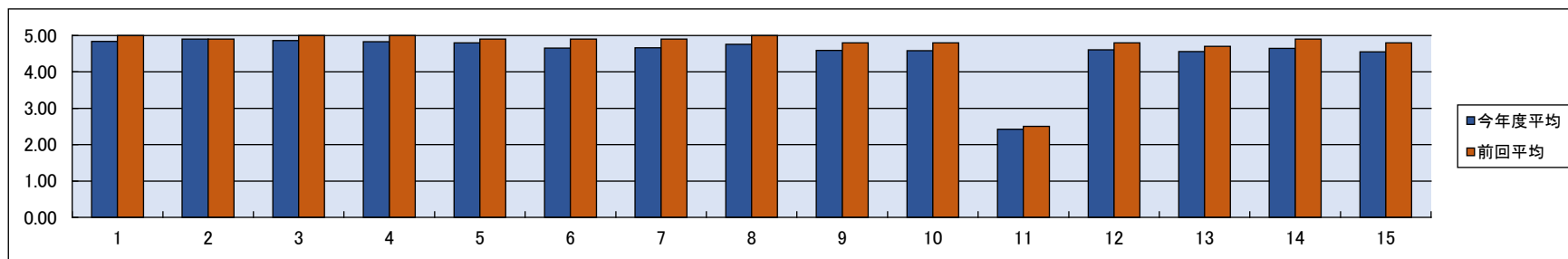
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	西洋古楽表現(リコーダー／ヴィオラ・ダ・ガンバ／チェンバロ) II IV
学年	

受講者数：1753名

							1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均		
							回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)						
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	3	4	5	守られた→	1 (0.3)	1 (0.3)	8 (2.7)	26 (8.8)	261 (87.9)	1	297	4.84	5.00		
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	28 (9.4)	269 (90.3)	0	298	4.90	4.90			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	1 (0.3)	0 (0.0)	7 (2.3)	23 (7.7)	267 (89.6)	0	298	4.86	5.00		
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	4	5	接していた→	1 (0.3)	1 (0.3)	7 (2.4)	30 (10.1)	258 (86.9)	1	297	4.83	5.00		
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	5	適切であった→	0 (0.0)	2 (0.7)	13 (4.4)	29 (9.7)	254 (85.2)	0	298	4.80	4.90		
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	2	3	4	5	分かりやすかった→	2 (0.7)	5 (1.7)	16 (5.4)	47 (15.8)	228 (76.5)	0	298	4.66	4.90	
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	2	3	4	5	有効であった→	4 (1.3)	4 (1.3)	18 (6.1)	37 (12.5)	234 (78.8)	1	297	4.66	4.90	
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	3	4	5	感じられた→	1 (0.3)	2 (0.7)	9 (3.0)	45 (15.1)	241 (80.9)	0	298	4.76	5.00		
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	2	3	4	5	良好であった→	4 (1.3)	4 (1.3)	24 (8.1)	45 (15.2)	220 (74.1)	1	297	4.59	4.80	
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	2	3	4	5	取り組んだ→	2 (0.7)	3 (1.0)	28 (9.4)	51 (17.2)	213 (71.7)	1	297	4.58	4.80	
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	124 (42.0)	58 (19.7)	42 (14.2)	7 (2.4)	64 (21.7)	3	295	2.42	2.50
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2	3	4	5	広がった→	0 (0.0)	10 (3.4)	18 (6.0)	52 (17.4)	218 (73.2)	0	298	4.60	4.80	
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2	3	4	5	習得できた→	2 (0.7)	5 (1.7)	27 (9.1)	55 (18.5)	208 (70.0)	1	297	4.56	4.70	
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	2	3	4	5	満足している→	0 (0.0)	3 (1.0)	26 (8.7)	44 (14.8)	225 (75.5)	0	298	4.65	4.90	
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	2	3	4	5	勧める→	5 (1.7)	8 (2.7)	19 (6.4)	52 (17.5)	213 (71.7)	1	297	4.55	4.80

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



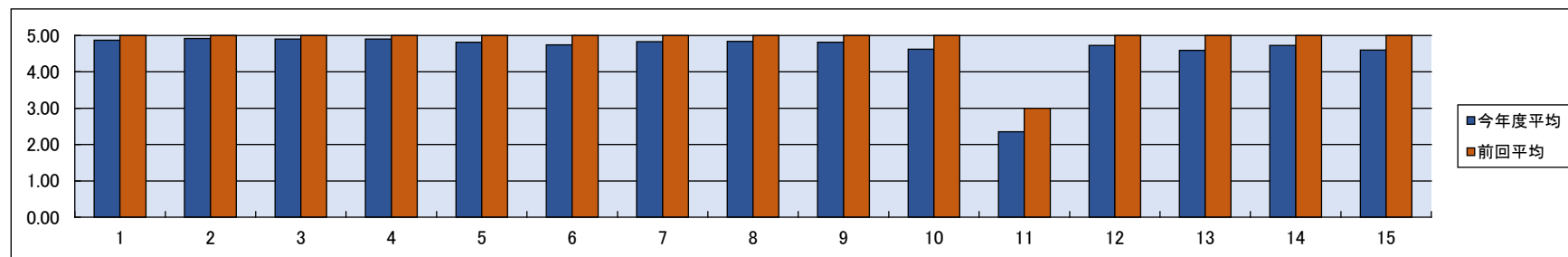
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	西洋古楽表現(リコーダー／ヴィオラ・ダ・ガンバ／チェンバロ)Ⅱ
学年	1

受講者数：374名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 3 4 5 →守られた→								0 (0.0)	1 (0.8)	2 (1.6)	9 (7.2)	113 (90.4)	0	125	4.87	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 4 5 →行われた→								0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (8.0)	115 (92.0)	0	125	4.92	5.00
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 3 4 5 →適切であった→								0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.4)	6 (4.8)	116 (92.8)	0	125	4.90	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 3 4 5 →接していた→								0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.6)	8 (6.5)	114 (91.9)	1	124	4.90	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 2 3 4 5 →適切であった→								0 (0.0)	1 (0.8)	5 (4.0)	10 (8.0)	109 (87.2)	0	125	4.82	5.00
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 2 3 4 5 →分かりやすかった→								0 (0.0)	2 (1.6)	6 (4.8)	14 (11.2)	103 (82.4)	0	125	4.74	5.00
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 2 3 4 5 →有効であった→								1 (0.8)	1 (0.8)	3 (2.4)	8 (6.5)	111 (89.5)	1	124	4.83	5.00
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 3 4 5 →感じられた→								0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.2)	12 (9.6)	109 (87.2)	0	125	4.84	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 1 3 4 5 →良好であった→								1 (0.8)	0 (0.0)	5 (4.0)	9 (7.2)	110 (88.0)	0	125	4.82	5.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 1 2 3 4 5 →取り組んだ→								1 (0.8)	2 (1.6)	10 (8.0)	17 (13.6)	95 (76.0)	0	125	4.62	5.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 1 2 3 4 5 →十分行った→								53 (43.4)	26 (21.3)	15 (12.3)	3 (2.5)	25 (20.5)	3	122	2.35	3.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 2 3 4 5 →広がった→								0 (0.0)	1 (0.8)	6 (4.8)	19 (15.2)	99 (79.2)	0	125	4.73	5.00
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 2 3 4 5 →習得できた→								0 (0.0)	1 (0.8)	14 (11.2)	20 (16.0)	90 (72.0)	0	125	4.59	5.00
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 3 4 5 →満足している→								0 (0.0)	0 (0.0)	9 (7.2)	16 (12.8)	100 (80.0)	0	125	4.73	5.00
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 2 3 4 5 →勧める→								0 (0.0)	2 (1.6)	10 (8.1)	24 (19.4)	88 (71.0)	1	124	4.60	5.00

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



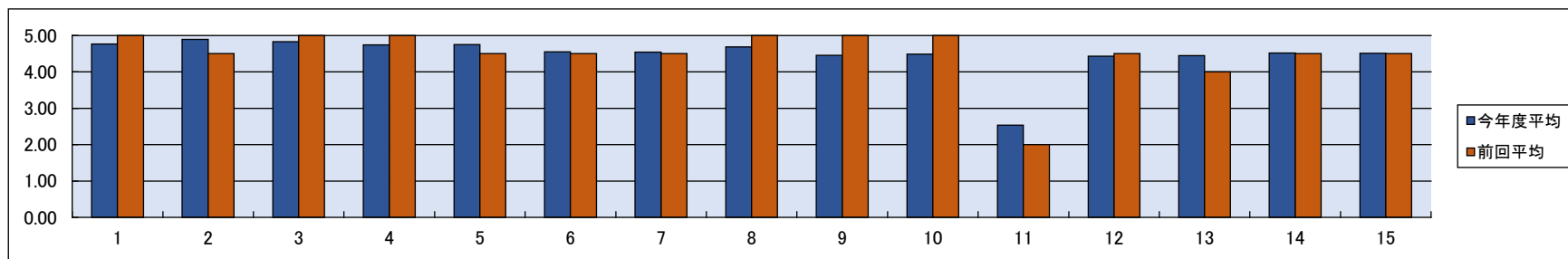
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	西洋古楽表現(リコーダー／ヴァイオラ・ダ・ガンバ／チェンバロ)Ⅳ
学年	2

受講者数：611名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均	
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)					
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	→守られた→	3	4	5	1 (1.1)	0 (0.0)	3 (3.3)	11 (12.1)	76 (83.5)	1	91	4.77	5.00
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	→行われた→	4	5		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (10.9)	82 (89.1)	0	92	4.89	4.50
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	4	5		1 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (13.0)	79 (85.9)	0	92	4.83	5.00
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	→接していた→	3	4	5	1 (1.1)	0 (0.0)	3 (3.3)	14 (15.2)	74 (80.4)	0	92	4.74	5.00
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	→適切であった→	2	3	4	0 (0.0)	1 (1.1)	5 (5.4)	10 (10.9)	76 (82.6)	0	92	4.75	4.50
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	→分かりやすかった→	2	3	4	2 (2.2)	1 (1.1)	8 (8.7)	14 (15.2)	67 (72.8)	0	92	4.55	4.50
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	→有効であった→	2	3	4	2 (2.2)	2 (2.2)	10 (10.9)	8 (8.7)	70 (76.1)	0	92	4.54	4.50
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	→感じられた→	3	4	5	1 (1.1)	0 (0.0)	5 (5.4)	15 (16.3)	71 (77.2)	0	92	4.68	5.00
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	→良好であった→	2	3	4	2 (2.2)	2 (2.2)	11 (12.0)	14 (15.2)	63 (68.5)	0	92	4.46	5.00
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	→取り組んだ→	2	3	4	1 (1.1)	1 (1.1)	9 (9.8)	22 (23.9)	59 (64.1)	0	92	4.49	5.00
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	→十分行った→	1	2	3	38 (41.3)	12 (13.0)	18 (19.6)	3 (3.3)	21 (22.8)	0	92	2.53	2.00
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	→広がった→	2	3	4	0 (0.0)	5 (5.4)	10 (10.9)	17 (18.5)	60 (65.2)	0	92	4.43	4.50
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	→習得できた→	2	3	4	2 (2.2)	1 (1.1)	8 (8.8)	23 (25.3)	57 (62.6)	1	91	4.45	4.00
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	→満足している→	2	3	4	0 (0.0)	2 (2.2)	10 (10.9)	18 (19.6)	62 (67.4)	0	92	4.52	4.50
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	→勧める→	1	2	3	3 (3.3)	2 (2.2)	4 (4.3)	19 (20.7)	64 (69.6)	0	92	4.51	4.50

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



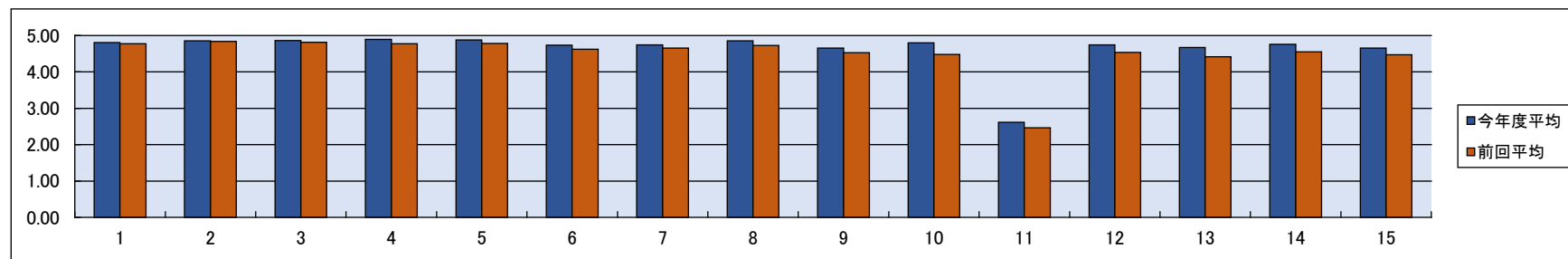
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

受講者数：1441名

集計区分	教養科目(後期開講科目)	
学年		

No.	項目	←守られていない	←守られた→	1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
				回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	守られた→	2 (0.7)	1 (0.4)	6 (2.2)	30 (11.2)	229 (85.4)	0	268	4.80	4.78
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	行われた→	0 (0.0)	1 (0.4)	6 (2.2)	24 (9.0)	236 (88.4)	1	267	4.85	4.84
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	適切であった→	0 (0.0)	1 (0.4)	7 (2.6)	20 (7.5)	239 (89.5)	1	267	4.86	4.81
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	接していた→	1 (0.4)	0 (0.0)	3 (1.1)	18 (6.7)	245 (91.8)	1	267	4.90	4.77
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	適切であった→	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	28 (10.5)	236 (88.7)	2	266	4.88	4.78
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	分かりやすかった→	1 (0.4)	2 (0.7)	14 (5.2)	33 (12.4)	217 (81.3)	1	267	4.73	4.62
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	有効であった→	5 (1.9)	1 (0.4)	8 (3.1)	28 (10.7)	219 (83.9)	7	261	4.74	4.65
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	感じられた→	2 (0.8)	1 (0.4)	6 (2.3)	16 (6.0)	241 (90.6)	2	266	4.85	4.73
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	良好であった→	1 (0.4)	4 (1.5)	14 (5.3)	48 (18.0)	199 (74.8)	2	266	4.65	4.53
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	取り組んだ→	0 (0.0)	1 (0.4)	8 (3.0)	34 (12.8)	223 (83.8)	2	266	4.80	4.48
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	十分行った→	78 (29.5)	68 (25.8)	47 (17.8)	19 (7.2)	52 (19.7)	4	264	2.62	2.46
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	広がった→	1 (0.4)	5 (1.9)	8 (3.0)	33 (12.4)	219 (82.3)	2	266	4.74	4.53
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	習得できた→	1 (0.4)	1 (0.4)	15 (5.7)	51 (19.2)	197 (74.3)	3	265	4.67	4.42
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	満足している→	2 (0.8)	2 (0.8)	7 (2.6)	37 (13.9)	218 (82.0)	2	266	4.76	4.55
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	勧める→	5 (1.9)	3 (1.1)	10 (3.8)	42 (15.8)	205 (77.4)	3	265	4.66	4.47

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



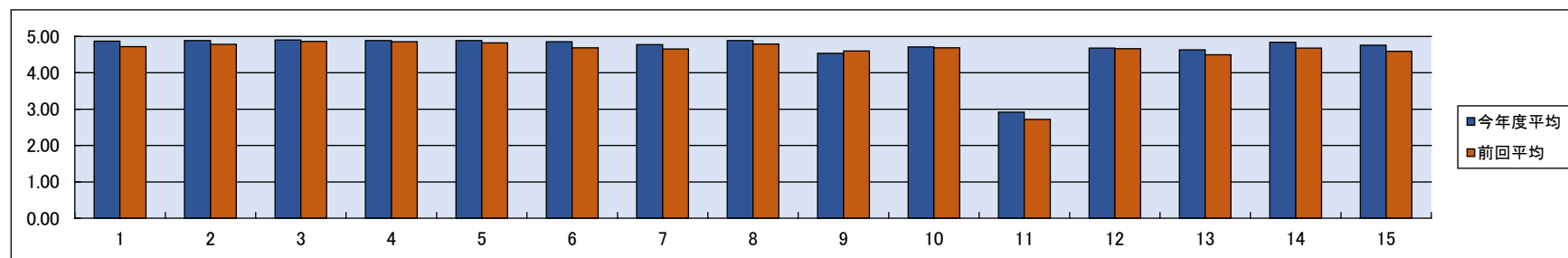
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	共通選択科目(後期開講科目)	
学年		

受講者数：330名

						1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均
						回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)				
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない 1 3 4 5 →守られた→				1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	2 (3.2)	59 (93.7)	0	63	4.87	4.72
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった 3 4 5 →行われた→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	5 (8.1)	56 (90.3)	1	62	4.89	4.78
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった 3 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	4 (6.6)	56 (91.8)	2	61	4.90	4.86
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった 3 4 5 →接していた→				0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.2)	3 (4.8)	57 (91.9)	1	62	4.89	4.86
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった 3 4 5 →適切であった→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	5 (8.1)	56 (90.3)	1	62	4.89	4.82
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった 3 4 5 →分かりやすかった→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	7 (11.3)	54 (87.1)	1	62	4.85	4.69
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった 1 3 4 5 →有効であった→				1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	8 (12.9)	52 (83.9)	1	62	4.77	4.65
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった 3 4 5 →感じられた→				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	5 (8.1)	56 (90.3)	1	62	4.89	4.79
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった 1 2 3 4 5 →良好であった→				2 (3.2)	2 (3.2)	2 (3.2)	11 (17.7)	45 (72.6)	1	62	4.53	4.60
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった 2 3 4 5 →取り組んだ→				0 (0.0)	1 (1.6)	2 (3.2)	11 (17.7)	48 (77.4)	1	62	4.71	4.69
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった 1 2 3 4 5 →十分行った→				10 (16.1)	17 (27.4)	18 (29.0)	2 (3.2)	15 (24.2)	1	62	2.92	2.72
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった 2 3 4 5 →広がった→				0 (0.0)	1 (1.6)	6 (9.7)	5 (8.1)	50 (80.6)	1	62	4.68	4.66
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった 3 4 5 →習得できた→				0 (0.0)	0 (0.0)	5 (8.1)	13 (21.0)	44 (71.0)	1	62	4.63	4.49
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない 3 4 5 →満足している→				0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.8)	4 (6.5)	55 (88.7)	1	62	4.84	4.68
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない 2 3 4 5 →勧める→				0 (0.0)	1 (1.6)	4 (6.5)	4 (6.5)	53 (85.5)	1	62	4.76	4.59

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



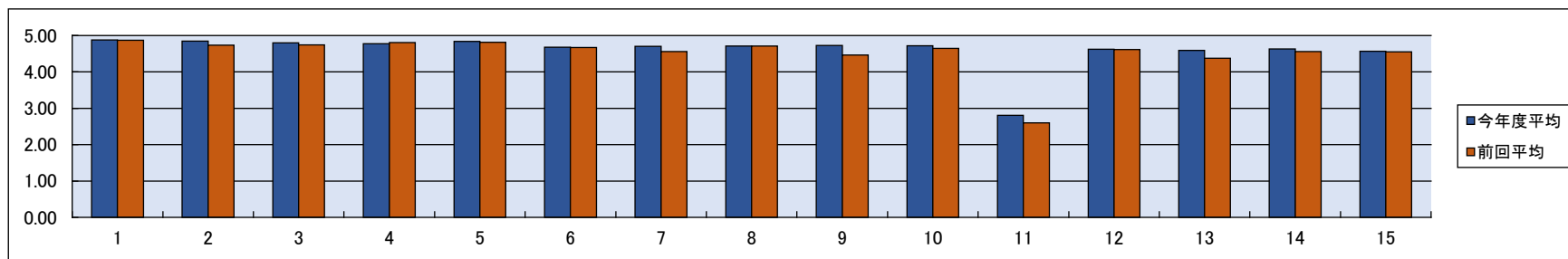
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	選択外国語科目(後期開講科目)
学年	

受講者数: 1741名

										1	2	3	4	5	無効 回答数 合計	有効 回答数 合計	今年度 平均	前回 平均				
										回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)								
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	3	1	2	15	260	0	281	4.88	4.87	(1.1)	(0.4)	(0.7)	(5.3)	(92.5)			
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	3	1	4	20	253	0	281	4.85	4.73	(1.1)	(0.4)	(1.4)	(7.1)	(90.0)			
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	3	4	適切であった→	3	1	10	21	245	1	280	4.80	4.74	(1.1)	(0.4)	(3.6)	(7.5)	(87.5)			
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	3	4	接していた→	4	3	7	25	240	2	279	4.77	4.81	(1.4)	(1.1)	(2.5)	(9.0)	(86.0)			
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	3	4	適切であった→	1	2	8	19	249	2	279	4.84	4.82	(0.4)	(0.7)	(2.9)	(6.8)	(89.2)			
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	3	4	分かりやすかった→	5	1	13	40	221	1	280	4.68	4.67	(1.8)	(0.4)	(4.6)	(14.3)	(78.9)			
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	2	3	有効であった→	4	6	12	26	231	2	279	4.70	4.56	(1.4)	(2.2)	(4.3)	(9.3)	(82.8)			
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	2	3	感じられた→	5	4	7	36	228	1	280	4.71	4.71	(1.8)	(1.4)	(2.5)	(12.9)	(81.4)			
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	良好であった→	1	2	9	48	221	0	281	4.73	4.46	(0.4)	(0.7)	(3.2)	(17.1)	(78.6)			
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	2	3	取り組んだ→	0	7	7	45	222	0	281	4.72	4.65	(0.0)	(2.5)	(2.5)	(16.0)	(79.0)			
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	76	61	55	15	72	2	279	2.81	2.60	(27.2)	(21.9)	(19.7)	(5.4)	(25.8)
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	2	3	広がった→	1	4	19	51	205	1	280	4.63	4.61	(0.4)	(1.4)	(6.8)	(18.2)	(73.2)			
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	2	3	習得できた→	3	4	14	62	197	1	280	4.59	4.38	(1.1)	(1.4)	(5.0)	(22.1)	(70.4)			
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	2	3	満足している→	7	2	12	46	214	0	281	4.63	4.56	(2.5)	(0.7)	(4.3)	(16.4)	(76.2)			
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	1	2	3	4	5	勧める→	10	3	13	45	208	2	279	4.57	4.55	(3.6)	(1.1)	(4.7)	(16.1)	(74.6)

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



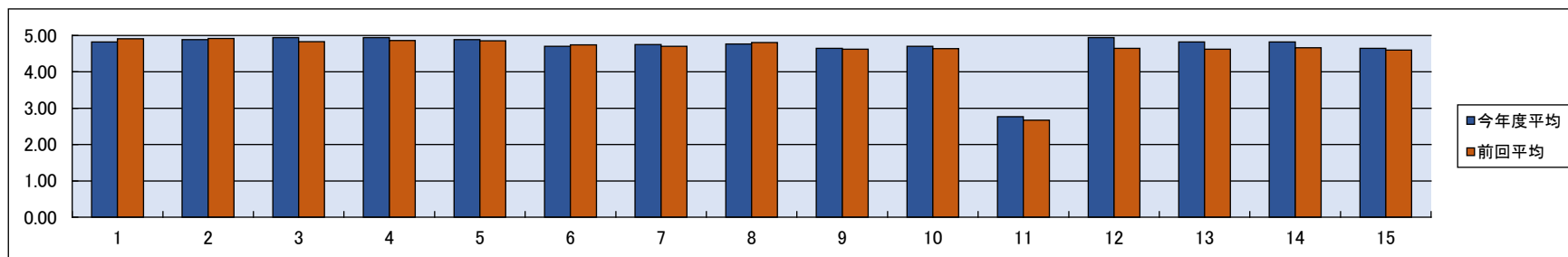
2024年度年間 授業に関するアンケートの結果について

集計区分	教職に関する科目(後期開講科目)	
学年		

受講者数：77名

										1	2	3	4	5	無効	有効	今年度平均	前回平均	
										回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数合計	回答数合計			
1	回数・時間は基本的に守られた。	←守られていない	4	5	守られた→	0	0	0	3	14	0	17	4.82	4.91					
2	授業(レッスン)の内容は講義要目(シラバス)に沿って行われた。	←行われなかった	4	5	行われた→	0	0	0	2	15	0	17	4.88	4.92					
3	学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	1	16	0	17	4.94	4.83					
4	教員は学生に誠実に接していた。	←接していなかった	4	5	接していた→	0	0	0	1	16	0	17	4.94	4.86					
5	使用された教材(配布資料等)は、適切であった。	←適切でなかった	4	5	適切であった→	0	0	0	2	15	0	17	4.88	4.86					
6	授業(レッスン)の内容・ポイントは分かりやすかった。	←分かりにくかった	1	4	分かりやすかった→	1	0	0	1	15	0	17	4.71	4.74					
7	学内外施設・設備(図書館・アンサンブル室・プロジェクター等)の使用は有効であった。	←有効でなかった	3	4	有効であった→	0	0	1	2	13	1	16	4.75	4.71					
8	授業(レッスン)に対する教員の熱意・工夫が感じられた。	←感じられなかった	2	4	感じられた→	0	1	0	1	15	0	17	4.76	4.80					
9	授業(レッスン)の出席は良好であった。	←良好でなかった	3	4	良好であった→	0	0	2	2	13	0	17	4.65	4.62					
10	授業(レッスン)に意欲的に取り組んだ。	←取り組まなかった	3	4	取り組んだ→	0	0	1	3	13	0	17	4.71	4.64					
11	授業(レッスン)のための1週間あたりの予習・復習時間は	←十分行わなかった	1	2	3	4	5	十分行った→	3	4	6	2	2	0	17	2.76	2.67		
12	自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった。	←広がらなかった	4	5	広がった→	0	0	0	1	16	0	17	4.94	4.64					
13	授業(レッスン)の内容は十分に理解し、習得できた。	←習得できなかった	4	5	習得できた→	0	0	0	3	14	0	17	4.82	4.62					
14	総合的に判断して、この授業(レッスン)に満足している。	←満足していない	3	4	満足している→	0	0	1	1	15	0	17	4.82	4.66					
15	この授業(レッスン)科目を後輩・知人に勧める。	←勧めない	2	3	4	5	勧める→	0	1	1	1	14	4.65	4.60					

※設問11(予習・復習時間)の表示は次の通りです。 [1: 30分未満 2: 30分～1時間 3: 1～5時間 4: 6～10時間 5: 11時間以上]



2. 公開授業・レッスン一覧

2024年度
FD公開レッスン・公開授業一覧(学部)

所管科目会	公開授業科目または内容	担当教員名	公開日時	教室
声楽	ミュージカル・インプロワークショップ (声楽専修運営会主催)	本島 阿佐子	6月26日(水)、27日(木) 18:00~20:00	オペラスタジオ (N-127)
鍵盤楽器	ヤコブ・ロイシュナー先生公開レッスン	金子 恵	10月29日(火) 16:30~	講堂小ホール
弦管打楽器	第141回オーケストラ定期演奏会 公開リハーサル	幸西 秀彦	7月18日(木) 18:00~	講堂大ホール
ジャズ	ジャズアンサンブルⅧ(4年生対象) 小曽根真客員教授による授業	塩谷 哲	12月17日(火) 18:00~19:30	6-110教室
作曲・ コンピュータ音楽	池辺晋一郎先生公開講座	菊池 幸夫	6月19日(水)	オーケストラスタジオ (N-142)
音楽教育・教職	教職実践演習の教材の検討	井上 恵理、 酒井 美恵子	1月15日(月)、 1月~4月	対面/メール
音楽情報	音楽情報研究法 →横田敬さん(日本ショツ社)による講義 「現代の音楽創造を支える音楽出版社の役割」 【大学院と合同】	岡崎 香奈、 中田 朱美	10月14日(月・祝) 14:40~16:10	5-219
音楽療法	音楽療法専門ゼミⅠ (新井英夫氏による特別講義・ワークショップ)	岡崎 香奈	12月19日(木) 16:20~17:50	6-110
幼児音楽教育	サマーミュージックセミナーにおけるシンポジウム 「保育の中の音楽実践」	伊藤 仁美	8月24日(土) 12:50~15:30	3-212
外国語	「くにおん外国語教育の現状と課題 -再履修生対策から意欲ある学生のサポートまで-」	末松 淑美	7/1(月) 16:30~17:30	Zoom (対面会場はなし)

2024年度
FD公開授業一覧(大学院)

専攻	科目名、内容等	担当者等	日時	教室
声楽専攻 (オペラ)	特別講座「コメディア・デラルテ」 (光瀬名瑠子先生)	福井 敬	7月20日(土) 14:30~16:10	オペラスタジオ (N-127)
声楽専攻 (歌曲)	特別レッスンおよび公開レッスン (ウィリアム・マッテウツィ先生)	澤畑 恵美	9月30日(月) ~10月5日(土)	講堂第一リハーサル室 小ホール
器楽専攻 (鍵盤・伴奏)	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ、BⅡ (奈良希愛先生)	江澤 聖子、 三木 香代	10月9日(水) 14:40~16:10	6-111
器楽専攻 (弦管打楽器)	管弦楽ABCD/管弦楽特別演習ABCD (準・メルクル招聘教授)	幸西 秀彦	7月18日(木) 18:00~	講堂大ホール
作曲専攻	公開講座「作曲特別レッスン」 (細川俊夫招聘教授)	今村 央子	7月10日(水) 18:30~	合唱スタジオ (N-128)
音楽学専攻	音楽学研究法 →横田敬さん(日本ショツ社)による講義 「現代の音楽創造を支える音楽出版社の役割」 【学部と合同】	岡崎 香奈、 中田 朱美	10月14日(月・祝) 14:40~16:10	5-219
音楽教育学専攻	音楽教育学研究、研究指導 博士課程・修士課程中間発表会	津田 正之、 伊藤 仁美	9月27日(金) 14:00~	3-114

3. 授業改善計画書 (学部)

授業改善計画書（学部）

担当者	青柳 素晴		
科目名	専門実技（声楽）Ⅳ/Ⅵ 声楽表現Ⅱ/Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ、 声楽実技 A Ⅳ		
受講者数	35	成績評価した学生数	35
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	32

1、授業の概要

主に声楽を行うための、発声の技術の習得を目標とした。
呼吸のコントロール、身体の使い方などを、発声練習や、曲を使うことによって例を示しながら（歌って聞かせたりしながら）できるだけ分かりやすく指導した。
特に身体の使い方については、プロのトレーナーのアドバイスも受けつつ、日頃の姿勢や歩き方にも気を配るように促した。

2、成果

個人差はあるが、ほとんどの学生に上達が見られ、ある程度こちらの意図やテクニックは伝わったと自負する。
副科の学生には歌に対する興味を持たせることが大切なので、内容、ポイントの分かりやすさや意欲的に取り組んだなどの項目で良い結果が出ているのは良いことだと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

準備の面で不十分であったと答えている学生が比較的多く、これは反省点だと思われる。
発声のテクニックの面から言えば、むやみに家で練習をして方向性を間違えると、修正に莫大な時間がかかるため、あまり多く家で歌わないよう指導してきた。
しかし、譜読みや歌詞の読みなどは積極的に行うように改めて指導していきたい。

4、授業改善のための取り組み

発声は見えない筋肉を使うため、非常に説明が難しい。
あらゆる表現を使い、例を示してやっているつもりだが、人の受け取り方はそれぞれなのでさらに色々な伝え方や表現を考えていきたい。
また、引き続きトレーナーに協力をしてもらい、筋肉の使い方の面からも指導していきたいと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	青山 貴		
科目名	声楽表現ⅡⅣ、声楽特別演習Ⅱ		
受講者数	27人	成績評価した学生数	27人
アンケート回答者数	3人	単位取得学生数	27人

1、授業の概要

i. e. a. o. uの順番でヴォーカリーズの発声練習を行い、それぞれの学生の声に合うと思われる楽曲を学生と共に選びました。後期からはイタリア歌曲に限らず、学生の意思を尊重し様々な楽曲に取り組みました。歌ってもらう中で、発音、発語、詩の内容などを考えながら、出来るだけ客席を意識し、特に声が遠くまで無理無く届く様な、目線、身体の使い方、発声方法を模索するよう指導しました。

2、成果

担当している大多数の副科学生が2年目となり、年間を通じて声を出すと言う事により自然に取り組んでいたように思えました。 コレペティコースの3年生も受け持ち、オペラの場面を実際に弾いてもらいながら、短い時間ながらも一緒に歌ったりもしました。声楽特別演習として担当した学生は4年生で、2人とも今年で最後となりましたが、同じバリトン同士でしたので、高音の出し方などさらに追求出来たように見え、卒業後もそれぞれの道でさらに頑張るって歩いて欲しいと思っております。

3、解決すべき課題（含、分析）

昨年の課題として、それぞれの曲の内容、歌詞の意味を考える事に深く触れるべく取り組みましたが、多種多様の曲に触れる中で、自分自身の教える側である知識がまだまだ足りないと感じました。声を出すと言う事がメインの時間とはなりますが、より勉強を重ね、もっと色々な曲に対応出来るように頑張りたいです。また、アンケートでは学生の予習をした時間が短かったとありましたので、特に試験の前には、より良い歌を歌えるように準備が必要であると促していきたいと思っております。

4、授業改善のための取り組み

担当させて頂いた副科の学生はほとんど2年生で無事に修了し単位を取得しました。引き続き私のレッスンを続けたいと言う学生も出たので、さらに多くの事を伝えられたらと思っておりますし、新年度は声楽科の新入生を初めて受け持つ事となりました。先生方のアドバイスを頂きながら、4年間無理無く歩めるような技術、主に声の出し方を伝えたいです。それぞれの声を聴いて見極め、今何が必要かを共に慎重に考えたいと思っております。また、幼児教育コースに合格した学生や幼児教育科の新入生を受け持つので、こちらも初めてのことであり、声楽をどのように役立てるべきなのか、共に考え、取り組んで参ります。

授業改善計画書（学部）

担当者	赤石 直哉		
科目名	ソルフェージュⅡ		
受講者数	21	成績評価した学生数	21
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	21

1、授業の概要

ソルフェージュの基礎から発展までをレベルに合わせ学修する。
聴音、視唱、視奏、リズム打ちなどの基本課題のほか、歌曲・コラール、器楽作品等、実際の音楽作品を使った実践的内容を重視した。

2、成果

苦手意識のある学生にも課題に取り組みやすいよう様々な教材を使いアプローチすることができた。教材の数が多かったが各課題のポイントを分かりやすく説明し、適切な学習法を示すことができた。（アンケート6の評価5が100%）

3、解決すべき課題（含、分析）

聴音が極端に苦手な学生に対し、十分に基礎力を向上させることができなかった。経験の少なさも問題点の一つと考えられるので自宅学習など授業時間以外の取り組みも重要になってくるが、アンケート11の結果からも1週間あたりの予習復習時間の少なさ（1と2合わせて30%）が窺える。

4、授業改善のための取り組み

自習の際、オンラインで積極的に予習復習しやすいようにGoogle Classroom内の課題を充実させたい。授業内では課題を通じてより豊かな音楽体験ができるようさらに内容を吟味していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	油井 誠志		
科目名	音楽の仕事（音楽産業論）		
受講者数	66	成績評価した学生数	66
アンケート回答者数	11	単位取得学生数	55

1、授業の概要

音楽産業の“歴史”と“今”、さまざまな具体事例、キャリアの考え方、ビジネスの仕組み、社会の動きなどを学び、履修者が自分自身の“未来”を具体的に描けるような授業を目指しました。

3日間の集中講義は、プロジェクター投影によるスライドを中心に進行、グループワーク。課題などを織り混ぜながら行いました。

2、成果

学生たちは具体的なキャリア体験談、音楽を軸に社会全体を捉える視点、事例などのインプットでの学びはもちろん、成長に不可欠な課題を通してのアウトプットに重きをおくことにより「自分で考える」、「自分で答えを導く」術に触れました。

個別で任意提出してもらったアンケート及び、今回のアンケート結果の数値も満足度が高く、学生のコメントからも有意義な授業を提供できたと思います。

3、解決すべき課題（含、分析）

グループワークでのコミュニケーションでさまざまな人のアイデアや考え方を聴く時間をもっと欲しいという意見には対応できたと思います。今回は、フィードバックが欲しいという意見もありましたので、本年度は意識してみます。また集中講義のため、予習、復習などはなかなか難しいですが、事前に資料配布かオンラインでのオリエンなどを用意しています。

4、授業改善のための取り組み

毎年のことですが、集中講義のため予習時間、復習時間の確保は物理的に難しいポイントではありますが、事前のインプット参照資料の周知を徹底します。

また、時間配分や私自身のファシリテート向上でコミュニケーション量を増やすグループワーク／発表の精度、フィードバックの増加で充実度をあげたいと考えております。

授業改善計画書

担当者	荒巻 恵子		
科目名	教育方法論		
受講者数	164	成績評価した学生数	164
アンケート回答者数	11	単位取得学生数	163

1、授業の概要

対面とオンラインを併用した教育方法学ならではの授業の目標を設定しました。

- (1) オンライン授業と対面授業のそれぞれのメリットデメリットを考えることができる。
- (2) 音楽科のデジタルコンテンツを考えることができる。
- (3) ICTを活用した授業に積極的に参加することができる。
- (4) レポート課題をオンラインを通して提出することができる。

を学習目標にして進めました。

2、成果

授業アンケート回収率と結果が 1%に満たないため真正な評価はできないが、頂いた 11名の回答からは、授業内容に満足か否かの質問項目において、2 クラス平均 3.75(昨年比-0.98)ポイント、また、理解できたか否かの質問項目において、2 クラス平均 4.34(昨年比-0.09)ポイントの結果であった。入職以降、初めて一番低い結果となった。また、自由記述では、改善を訴える学生がいて、反省をするところである。今年度もインクルーシブ教育についての教材を使ったが、視野が広がったかの質問項目は、4.00 ポイントだった。

3、解決すべき課題（含、分析）と 4、授業改善のための取組み

授業アンケートで、これほど酷評をとったことがなかった。これまでと、特段、特徴的な授業をしたことはなかったため、今年度の学生評価の特性なのか、改めて、検討する必要がある。従前と大きく異なるのは、講義クラスが、2 クラスから 3 クラスになったことである。またアンケート結果は、担当クラス 3 クラスのうち、2 クラスから返却があり、2 クラスの結果の格差（3 限クラス平均 4.16、5 限クラス平均 3.93）が大きかった。特にアンケート評価結果の 2 クラスの格差に注目して、アンケート調査の実態に迫る。特に格差のあった質問項目では、シラバス通りに進められていたかという問いでは、3 限クラスは、4.2 であったが、5 限クラスは 5.0 と 0.8 の違いがある。一方で、オンラインなど学内外の設備の使い方の質問項目において、3 限クラスは 4.17 と高く、5 限クラスは 3.50 と低かった。また、授業内容は理解したという質問項目は、3 限クラスは 4.00 と低く、5 限クラスは 4.70 と高かった。今回のアンケート結果からは、2 つのクラスに分だけであるが、クラス間に格差があることが分かった。

改善策を考えると、2025 年度も 3 コマ連続で進めるため、クラスごとの実態を把握し、時に同時進行ではなく、クラスごとに課題を設定したり、学生の実態に合わせた指導をしたい。またオンライン回数や内容、時期の見直しも検討する。特にデジタルコンテンツの開発などもっと積極的に学生が参加できるような活動内容を検討したい。

授業改善計画書（学部）

担当者	新谷 祥子		
科目名	音楽教育演習（合奏・打楽器）Ⅱ		
受講者数	7	成績評価した学生数	7
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	7

1、授業の概要

幼児音楽教育の指導に必要な打楽器の扱い、応用、創作

2、成果

少人数での授業なので、それぞれに指導ができることから個人レベルは上がっている

3、解決すべき課題（含、分析）

グループワークへの積極的な取り組みへの促し

4、授業改善のための取り組み

リアクションペーパーの活用

音の素材を聴いてもらえる、動画紹介などの活用

授業改善計画書（学部）

担当者	安藤 禎央		
科目名	専門実技（電子オルガン）Ⅱ／Ⅳ／Ⅵ／Ⅷ 器楽表現（電子オルガン）Ⅱ／Ⅳ		
受講者数	13名	成績評価した学生数	13名
アンケート回答者数	4名	単位取得学生数	13名

1、授業の概要

電子オルガンの演奏法、音色の作り方や、電子オルガンをとおして作編曲の方法などの指導を行った。

2、成果

アンケートに答えた4人全員が「この授業（レッスン）科目を後輩・知人に勧める。」と回答したところから、概ねレッスンについて満足であったと見られる。

3、解決すべき課題（含、分析）

『一週間あたりの予習（復習）の時間』（3点が1人、4点が1人）や『レッスンへの取り組み方』（4点が1人）といったように、レッスンへの取り組みには少しばらつきが見られる。

4、授業改善のための取り組み

それぞれの学習環境などが違うため全員に対し「もっと練習（復習）してくるよう」とは言えない。

自然と「この勉強（楽器）にもっと取り組みたい」という意識が学生の中に芽生えるような新鮮なレッスンを心がけたい。そのために、わかりやすい言葉でのわかりやすい説明や明確な演奏例など、こちらの意識で変わって来るであろうことはしっかりと取り組んでいきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	石上 朋美		
科目名	イタリア歌曲演習 I・II		
受講者数	14	成績評価した学生数	12
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	12

1、授業の概要

イタリアのベルカント時代以降の作曲家から近代の作曲家までの作品を取り上げ、各作曲家の歴史的背景、形式、音楽的な表現方法を学ぶ。イタリア歌曲はイタリアオペラ同様、イタリア語に添った音楽が流れており、発音、イントネーションも演奏する上で大切な技術になる。歌詞の分析、ディクショから始め、メロディーに乗せた時に音楽と言葉の一体化を体感し、それが表現に繋がるよう指導する。イタリア語ディクショから学んだことを実践化し、さらに作曲家それぞれの音楽の『型』を学び、それがオペリアの歌唱にも大きなヒントになるようにしたい。

2、成果

イタリア語の発音が『知識』としては理解しているが、実際歌唱でできるかどうかは、まだまだなところがあり、授業中の指導としては、主に発音に注視していたが、各フレーズの大切な言葉に向かっている音楽などを指導した。個人レッスンで解決できていないこと、各担当教員にいつも言われることなど聴取しながら、発音や音楽の解釈によって解決できることがあれば、アドバイスを重ねた。
また、アンケートには、「授業への準備不足」というのが目についた。

3、解決すべき課題（含、分析）

1年通して8人の作曲家の作品を題材に上げて、レッスン形式で授業を進める。昨年度は、半期で4人の作曲家から10曲提示し、その中から各自1曲選曲、それともう1曲、課題曲として全員同じ曲を学ぶ、という方式を取ったが、全員が全ての作曲家の作品に触れられるような形にしてもよかったと考えている。他の生徒の歌唱を同じ楽譜をみながら聴き学ぶということもよかったとは思いますが、実際演奏してみて、それぞれの作曲家の違いを体感すべきであった。「授業への準備不足」に関しても改善が必要と思われる。

4、授業改善のための取り組み

前期・後期、4人ずつ作曲家を取り上げ、各作曲家4曲ずつ提示、全員で全曲の歌詞のディクショ指導をしたあと、その4曲の中から各自1曲選曲、半期で4人の作曲家の作品を演奏しながら触れる、という形をとる。
「授業への準備不足」という部分については、一人当たりの授業内で歌唱する時間を長く取った為に、回ってくる回数が少なかったように思うので、今年度は、選曲する曲数を増やし、歌唱できる回数を増やして、準備をこまめにさせるように務める。

授業改善計画書（学部）

担当者	石田 寛子		
科目名	西洋宗教史 B		
受講者数	32	成績評価した学生数	27
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	27

1、授業の概要

ルネサンスから現代までの西洋宗教史の流れ、とくにキリスト教にかかわる思想、文化および社会的特徴を取り上げた。具体的には、ルネサンスと宗教改革、対抗宗教改革とバロック文化、ロマン主義と無神論、カクレキリシタン、黒人霊歌、スピリチュアリティなど、広い意味での宗教の領域を含め、その背景にある神と人とのドラマを描き出すよう努めた。また、学生が宗教の領域と芸術（音楽・建築・絵画等）との深いかかわりに気づき、自らの専門領域のさらなる理解と発展に生かせるよう、授業を工夫した。

2、成果

毎回の授業後のコメントシートと学期末レポートから、学生の学習状況、授業の理解度を査定した。コメントシートには問題意識をもち学生独自の意見を積極的に発信するものが多く見受けられ、それはアンケート結果にも表れている（9番：平均 5.00 等）。レポートには発展的な視点から考察を展開し、取り組んでいる作品への深い理解と解釈を示すものが多々提出された。アンケート結果（12番：平均 4.75、14番：平均 4.75、15番：平均 4.75）からも、本授業は上述の目標を達成したと考えられる。

3、解決すべき課題（含、分析）

上述の「成果」の他方で、特にレポートに関して、よいテーマであるのに十分に考察ができていないため学生独自の見解がないものや、他者の意見と自分の考察とを混同しているもの、日本語の表現上の問題などが見受けられた。またアンケート（10番：平均 4.25、11番：平均 2.50 等）にもみられるように、授業への取り組みの姿勢や、授業外の復習の時間が圧倒的に少ないことが問題と考えられる。どのようにしたら学生が主体となって意欲的に授業に取り組むことができるのか、その具体的な対応策が検討されるべきである。

4、授業改善のための取り組み

上述の「解決すべき課題」で言及した一つ目の課題に対しては、授業のなかでの問題を自らの問題意識とからめて考察するように普段より促し、学生独自の問いに結実することをめざす。また二つ目の課題に対しては、コメントシートでの学生独自の意見を授業内でフィードバックすることで、よりいっそう関心をもって授業に臨めるように気を配りたい。また、学生がどのような関心をもっているのか、取り組んでいる課題がどのようなものであるのか把握し、それらのテーマを可能な限りにおいて授業計画にも取り入れることで、他の授業での課題との連携や、時間外の予習・復習時間の向上などにつながるよう、意識して授業運営をはかりたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	出久根 美由樹		
科目名	専門実技、器楽表現、ピアノ実技		
受講者数	19	成績評価した学生数	19
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	18

1、授業の概要

専門実技は、試験課題を中心にエチュードやバッハの平均律やシンフォニア等。器楽表現は、今年度は特に最高学年の履修者が多く様々な工夫が求められたが、古典派の作品を取り上げて奏法や楽曲の構成を改めて見直した。教員採用試験を控えた学生とは2次試験対策（弾き歌い）、介護関係の就職を希望した学生とは実践を見据えての伴奏付けなども授業内で取り上げた。また、発表会への参加を希望した学生たちは、各自が演奏したい楽曲を一緒に選び、作品や作曲家についてなどを調べたりしながら準備を進めた。

2、成果

（ここでは主に最高学年の器楽表現について記述する）教員採用試験の弾き歌い課題は曲数が多いこともあり合同で行なってみたが、お互いに客観的に聴くことにより自分の課題を見つけることもでき、回数を重ねる毎に歌声も良くなっていった（声楽専攻の学生ではなく、人前で歌う機会はなかった様子）。古典派の楽曲を勉強した際には、和声の話などに触れると新しい気づきもあったようで「入学当時とは楽譜の読み方が変わった」という声が多かった。また、発表会では個性が活かされた演奏を聴かせてくれた。

3、解決すべき課題（含、分析）

年度末に実技試験がなくてもモチベーションを保てるかに、個人差が生じてしまう。これは毎年感じているが、各自の目標を年度初めに話し合ってから授業を進めていても、様々な状況の変化により十分な時間をかけられなくなるなどの理由で達成しきれないケースもあるのは残念だが、そのような中でも学生たちが一生懸命課題と向き合ったことを大切にしたい。

4、授業改善のための取り組み

アンケートの回答数がこれまで以上に少なかったので学生たちが授業（レッスン）をどのように受け止めたかわからない事も多いが、一人一人が何を求めているかを学生に寄り添って一緒に考え続けていきたい。

専攻学生の試演会では演奏するだけでなく、曲目解説や無記名でお互いの演奏の感想を書いてきたが、今後も変わらず取り組んでいきたいと思う。

授業改善計画書（大学院）

担当者	市川 景之		
科目名	フーガ実習		
受講者数	6	成績評価した学生数	4
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	4

1、授業の概要

実習形式で「学習フーガ」を作成する。

転調を含む調性の展開、主題・素材の操作、音楽のエネルギーの作成。

2、成果

学生各自の進捗で学習フーガを複数曲作成できた。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート結果によれば、私サイドの問題点というよりは、多忙な学生が準備の時間が思うように取れないことが問題があると思う。

4、授業改善のための取り組み

これ以上平易な課題を課すことは不可能であるが、と思案するほかない。

授業改善計画書（学部）

担当者	伊藤 わか奈		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅱ／Ⅳ／Ⅵ／Ⅷ		
受講者数	7	成績評価した学生数	7
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	7

1、授業の概要

各学生のレベルに合わせて、前後期共に試験課題曲を中心として個人レッスンを行いました。今年度は、技術面・音楽面の両面に於いて試験課題を完遂する事が困難な学生が多かったため、細やかな指導を心掛け、自宅での学習にも役立つ練習方法などを丁寧に指導しました。レベルの高い一部の学生とは、更なるテクニックの向上を目指したり、楽曲や作曲家の時代背景を話し合ったりしながら作品や作曲家の知見を深め、更に音楽的な表現の幅や技術を高めていく事を目指しました。

2、成果

これまで学生本人が気付いていなかったテクニックの弱点に気付いたことで、多くの学生がレベルアップできたと感じました。それと同時に、各学生が知見を広められた事により音楽を勉強する事への意欲が増し、レッスンや練習に積極的に取り組むようになった事こそ最大の成果だと感じています。技量の向上は意欲の向上にも繋がり、より難しい曲に挑戦したい！という気持ちや、更に知見を深めたい！という気持ちが芽生えるのだと改めて実感しました。

3、解決すべき課題（含、分析）

大学全体でも言える事ですが、クラス内でもレベルの差や意識・意欲の差が非常に広がっているように感じました。アンケート結果から見てもそれらは顕著に出ており、「レッスンに意欲的に取り組んだ」や「レッスンのための1週間辺りの予習・復習時間は」や「自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった」の設問に於いてはその他に比べて回答にもばらつきが出ていました。私自身がレッスン内で感じただけでなく、数字としても学生の個人差がある結果となりました。

4、授業改善のための取り組み

個人のレベルに合わせる事はもちろんですが、第一に長所を伸ばすことを考えながら授業を進めていきたいと思えます。各学生の興味関心がどこに（何に）あるのかをよく観察し、ポテンシャルを引き出していく努力をしていきます。また、学生の質も年々変化していることから、私の中にある「常識」や「一般論」に拘り過ぎることなく、柔軟に各々の個性や考え方を理解する事をこれまで以上に心掛けていこうと思えます。その結果、一人でも多くの学生がレッスンや自宅での学習に自発的に取り組むようになる事を目指して、来年度も前向きに授業を進めていきます。

授業改善計画書（学部）

担当者	稲積 亜紀子		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅶ 器楽表現（ピアノ）Ⅱ／Ⅳ／Ⅵ／Ⅷ		
受講者数	29	成績評価した学生数	27
アンケート回答者数	8	単位取得学生数	27

1、授業の概要

専門実技においては、試験曲への取り組みを丁寧に行うとともに、バッハの平均律やショパンのエチュードを用いながら、基礎的な演奏能力の向上を目指した。他の授業で課題となっていた協奏曲などにも適宜取り組み、作曲家の理解に繋がるように心掛けた。

器楽表現は、各々の学生に適する曲を学生の希望を聞きながら選び、ピアノ演奏の向上や主科の学びに関係すると思われる点にも留意しながら取り組んだ。

年度末には、広い教室で試演会を行った。

2、成果

予習・復習時間などについての学生自身の評価に関する設問以外は、ほとんどの回答者から5が得られた。自由記述でも、レッスンにより、表現するためのテクニックが向上し、より自由に演奏できるようになったとの回答があった。

多くの学生が意欲的に準備をし、集中して授業を受けていたと考えられる。ピアノ演奏に関してのレベルは様々だが、選曲に気を付けることを心掛けた結果、モチベーションを保つことに繋がられたと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問11（レッスンのための予習・復習時間）の個人平均は、3.50という数値であった。器楽表現の学生は主科が別にあるため、時間を十分にかけることはなかなか難しいことが関係していると思われる。設問9のレッスンの出席に関しては、4.57という数値であった。レッスン内でも技能を最大限向上させることを心掛け、楽しみながら練習するきっかけとなるような助言を行いたい。

4、授業改善のための取り組み

様々なレベルの学生がいるため、個々の学生としっかりと向き合うことが何よりも大切だと感じている。特に選曲がその後の意欲に大きく関わってくることを実感しているので、学生の特性を正しく捉えて、選択肢を多く提示できるようにしていきたいと思う。

音楽を楽しみながら学ぶ、ということをいつも心掛け、どのようなアドバイスがその学生に適切であるかを考えながら接し、音楽への学びがより積極的になるようなレッスンを目指したい。

授業改善計画書（学部）

担当者	稲村 真実		
科目名	フランス語文法初級 B / フランス語初級（文法） B		
受講者数	15 名	成績評価した学生数	15 名
アンケート回答者数	4 名	単位取得学生数	11 名

1、授業の概要

フランス語の基礎である初級文法を学ぶために、テキストと CD による音源を用いて、対面で授業を行った。はじめに文法のポイントを説明し、次に練習問題を分担して行い、その後、それを全体で検討し、最後に学生同士組んで、発音練習を行った。

2、成果

2024 年度のアンケートの回答から、理解については 4.25 で、ほぼ初級フランス語の基礎は定着したと思われる。使用した教材については、回答者からは 4.75 ということで、適切であったと考えられる。

3、解決すべき課題（含、分析）

課題としては、例年の傾向であるが、授業における CD の利用と実際のペア練習のバランスをよくすることと、1 週間あたりの予習、復習時間が 3.00 という結果なので、なるべくフランス語に触れる時間を増やせればと思う。

4、授業改善のための取り組み

例年行ってはいるが、動詞の活用などの小テストを増やして、上記の課題を改善するためにも、学生の予習、復習時間を増やすようにしたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	今藤 長龍郎		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅱ		
受講者数	26名	成績評価した学生数	26名
アンケート回答者数	6名	単位取得学生数	26名

1、授業の概要

日本の伝統音楽である三味線の技術習得、そして西洋音楽との比較を行う。

2、成果

今年4月から初めて三味線に触れた学生が大半であったが、楽しく弾ける程度までレベルアップしたと思われる。

3、解決すべき課題（含、分析）

音大生は自分の専攻・専修で忙しいのはもちろん、学ぶべき様々な事があるので、三味線を練習する時間を確保するのは難しいと思われる。

到達レベル設定も、毎年の事ながらどのくらいに設定すべきか悩む。

4、授業改善のための取り組み

指導法にある程度のマニュアルはあるが、履修学生のレベルや人間性で変える事が大事であるし、それを見抜く力が指導者には必要である。

授業内でいかに集中させる事ができるか、再度検討したい。

教えながら学生から教わっている事も多くある。

今年度の経験を、来年度に活かしたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	岩松 優		
科目名	器楽表現（ヴィオラ）		
受講者数	9	成績評価した学生数	9
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	8

1、授業の概要

初めて「ヴィオラ」という楽器に触れる人がほとんどのため、楽器の各部の名称や構造から説明。ヴィオラと弓の持ち方、構え方、音を出してみる。ヴィオラの教本や曲を用いて演奏の仕方を学んだ。

2、成果

アンケート 12 番の「自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった」の平均が 3.00、14 番の「相互的に判断して授業に満足している。」の平均が 3.00 などを考慮すると、「ヴィオラ」の扱い方や奏法などを理解してくれたと思う。中には他の授業で演奏する生徒もいれば、楽器を購入して学びたいという生徒もいた。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート 6 番「授業の内容・ポイントは分かりやすかった」、13 番「授業の内容は十分に理解し、習得出来た。」の回答に 1 をつけた生徒がいる。この 2 つは早急に解決すべきであろうと思う。授業では、構え方がうまくいかない、曲になると左指の抑える場所が分からなくなる等もあった。

4、授業改善のための取り組み

構え方は体型、腕や指の長さなどが一人ひとり違うため、より一層注意深く観察しながら構え方を見つけていく。曲になると左指の抑える場所が分からなくなるのを改善するには、エクササイズ（左指や腕に関する）の教本をもう少し時間をとって行おうと思う。また、「授業の内容・ポイント」に関しては資料などを用いていたが、更に分かりやすいものを用意しようと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	臼木 あい		
科目名	専門実技／演奏実習（声楽）／声楽表現Ⅳ		
受講者数	20	成績評価した学生数	20
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	18

1、授業の概要

それぞれの段階に合わせた週 1 回の声楽実技レッスンを行う。専門実技と演奏実習は個人レッスンのため、基本的には個々に合わせた独・仏・伊・日の楽曲を行うが、必要に応じてコンコーネを取り入れている。楽曲については、1, 2 年生はほぼ歌曲のみ、3 年生以上は歌曲とアリア（オペラ・オラトリオ）の両方に取り組んでいる。グループレッスンでは伊歌曲が中心だが、今年度は皆履修 2 年目だった為、日本語とドイツ語の歌曲も 3~4 曲ずつ取り入れた。

2、成果

表現のグループレッスンでは、ドイツ語を履修している学生にとっては独歌曲を学べる事が意義深かったようである（授業内での反応）。またグループレッスンの特性を活かし、他の学生の演奏に対して互いに意見を述べることを課題とした。良かった所・改善点など様々な意見を述べることで自分自身へのフィードバックにも繋がったようである。何回もレッスンを重ねていくと、それぞれの癖などから注意すべきポイントが固定化されてしまうのだが、それが「12 自分の知識・技術・考え方などの視点が広がった」における「3」の評価が 25%（4 人中 1 人）という結果につながったと考えられる。この点については今後、教師側の言い方の工夫で対応していきたいと考えている。

3、解決すべき課題（含、分析）

「11 レッソンのための予習・復習時間」の項目は毎年低い評価をつける学生が一定数いるのだが、今年度は半数が 3 の評価をつけており、それが結果として如実に表れた。譜読みをきちんとして来ない、いつまでに暗譜をするように、と言っても全くできていない学生が例年に比べ非常に多く、「宿題」として課題を与えてもそれが予習・復習時間に繋がらないのは非常に残念である。来年度以降は、個々が課題を 1 週間かけてしっかりと自学するように、「自学無くして成長なし」というメッセージを発信して参りたい。

4、授業改善のための取り組み

近年、ミュージカルを目指す声楽専攻の学生が多く、私の学生もほぼミュージカル志望である。一般的にミュージカルとクラシックを分けて考える風潮があるのだが、私は学生に対し、クラシックの技術を完全に根本に置いてミュージカルにも取り組むよう指導している。場合によってはミュージカルの楽曲をレッスンで歌わせることもある。日本のミュージカルの傾向として奥を開けずに歌う歌手が非常に多く、それでは技術的に行き詰ることは目に見えており、ミュージカルを歌う時もクラシック同様、奥をしっかり開けたまま空気の流れて歌うことが基本である。両者を分けるのではなく、声楽のレッスンを通じてその共通性を伝えていきたいと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	内田 有一		
科目名	音楽科教育法Ⅲ		
受講者数	79	成績評価した学生数	79
アンケート回答者数	61	単位取得学生数	79

1、授業の概要

音科法Ⅱの経験から獲得した学習指導案の作成の力と模擬授業の力を深化することを目標とした。学習指導案作成においては、題材の目標と評価規準の定型を提示して作成させ、個別指導を行った。模擬授業においては、基本的な発問、指示、評価の言葉の具体を示すとともに、その根拠を説明することで、指導言の原理の獲得を図った。

2、成果

学習指導案作成においては、題材の目標、評価規準は90%の学生が正確に記述することができ、個別指導の成果が確認できた。
模擬授業においては、指導言の基本が身に付いた学生が多く、教育実習に向けての基本は習得できた。

3、解決すべき課題（含、分析）

学習指導案においては、展開における詳細な記述が不十分な学生が多い。
模擬授業においては、問いによる思考活動を促す方略の面で理解が不足している。

4、授業改善のための取り組み

学習指導案においては、展開の書き方を次年度の授業にて扱うこととする。
模擬授業においては、思考を促す問いのモデルを提示し、活用させる。

授業改善計画書（学部）

担当者	越後 眞美		
科目名	日本伝統音楽表現（雅楽）Ⅱ		
受講者数	5名	成績評価した学生数	5名
アンケート回答者数	4名	単位取得学生数	5名

1、授業の概要

前期に引き続き、日本伝統音楽「雅楽」の中から、「唐楽(古代中国印度音楽)」の管楽器を履修する。「笙・箏・龍笛」から一つを選択して履修するが、そのうち龍笛を担当した。前期に履修した入門的な曲「越殿楽」「五常楽急」の復習と並行して、より難度の高い「陪臚」「酒胡子」を学んだ。また笙・箏との合奏実習を数回行い、絃楽器「琵琶・箏」、打楽器「鞀鼓・太鼓・鉦鼓」の演奏も体験する等、唐楽を全体的に捉えられるよう授業を行った。また朗詠「嘉辰」催馬楽「更衣」など、雅楽における歌謡を学んだ。

2、成果

龍笛の履修生は5名であったが、授業中も積極的に質問するなど意欲的に取り組む姿勢が見られた。皆芸術祭に参加するなど雅楽に対する興味を深めながら上達していったように感じられた。アンケートでは概ね授業に関する評価は5であり、理解度習得度も4.75と教員・履修生相互に良好な授業であったと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

雅楽は触れる機会が少なく、捉えどころのないイメージがあるので、音律やリズムを西洋音楽に置き換えた説明を用いるなど分かり易く理解できるように心掛けたい。その上で違いも理解できるよう、伝統的な履修方法も重視した授業を行うようにしたい。また基本的な楽器の音出し練習により時間を割きたいと思う。アンケートで「予習・復習」が2.50と十分に行わなかったとの意識があるようなので、唱歌(旋律を歌う学習法)の重要性、練習を推奨してゆきたい。

4、授業改善のための取り組み

授業の進め方が教員からの一方向とならないように、履修生の感想や意見を聞きながら、雅楽の面白さが伝わるように授業を進めていきたい。都度関連した資料や情報を提供し、鑑賞の機会を増やし、理解が深まるようにしていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	遠藤 志葉		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅱ／Ⅳ 演奏実習（ピアノ）Ⅳ 器楽表現（ピアノ）Ⅱ／Ⅳ／Ⅵ／Ⅷ		
受講者数	22	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	21

<p>1、授業の概要　　ピアノを使つての音楽演奏の技能を磨く個人レッスン。専攻学生は年2回、その他の履修者は年度末に1回の実技試験をいかにクリアするかが主な目標となっている。特に器楽表現の履修者は教育実習に必要な歌曲や合唱の伴奏譜を教材としたり、初見力克服の教材を使用したり、いわゆる「身の丈」をはるかに超える憧れの曲に挑戦するなど、それぞれの学生が必要だと思うものが明確であれば、それに沿った課題を出来る限りこなすことに尽力した。</p>
<p>2、成果　　まず、授業の内容そのものにかかわる項目はほぼ満点ということで、少なくともアンケートに答えてくれた学生には満足して貰えたと感じている。幸い今年度は履修者の半数位の試験演奏にも立ち会うことが出来て、それぞれが良い集中で演奏しきっていた。一部の学生は好き放題やりすぎて試験曲への取り組みが遅れ、ひどい目にあつたと思つているかもしれない。しかしそうした失敗の経験も学生時代にしておくべきで、今後「あれは良い経験だった」と思えるような人生を歩んで欲しいと考えている。</p>
<p>3、解決すべき課題（含、分析） まず22名中、6名しかアンケートに協力しなかつたということには驚いた。筆者の授業が授業と認識されていないのかもしれない。以前のように用紙を配る業務を依頼されていないので電子化されているのだろうが、ライブキャンパスによる試験曲目の連絡なども見落としている学生が多いので、アンケートの存在自体が認識されていない可能性もある。 また今年度は学生が明らかに練習不十分の場合、レッスンではなく正に「一緒に練習」し、練習不足をヒシヒシと実感してもらつたように努めた。どの学生にもそうした時間は複数回あつたので、「学生自身の予習時間」が目立って低いポイントとなつたのだろう。</p>
<p>4、授業改善のための取り組み 常日頃、「有意義な授業を作るために、教員の努力は勿論、学生が教員から何を引き出せるか試行錯誤することが必要不可欠である」と説いている。これは学校そのものの活気にも繋がることと考える。我々がより良い授業を行うため、学生たちがより良い教育サービスを受けるための一手段としての授業アンケートについて、個々の学生と考えてみたい。 また音楽に限らず、1つのことを極めるためには多くの時間と労力を注ぎ込む必要がある。時間と労力が有限である限り、本当に何かを掴もうとするときには、それ以外の何かを諦めねばならない。練習不十分の学生はピアノ以外の何かに打ち込んでいるかもしれないので、そうした学生に対しては単なる怠慢でないことを丁寧に問いかけながら、応援していこうと考えている。</p>

授業改善計画書

担当者 大浦 智弘	
科目名 音楽教育演習（指揮法）Ⅱ	
受講者数 木曜2限：27名	
成績評価した学生数 25名 (体調不良により1名は9回、もう1名は14回欠席にて失格)	
アンケート回答者数 7名	単位取得学生数 25名

1、授業の概要	<p>今年度後期は吹奏楽や器楽合奏の指導現場を想定して、ポップス・アレンジ作品とオリジナル吹奏楽作品の2作品を課題曲として選定した。スコアの読譜法、扱う指揮法の技術と注意点等の作品の概説を行ったのち、1名が指揮し、他の受講生は副科で履修している楽器や過去に経験のある楽器、いずれもない学生はピアノ連弾にて演奏を行うところで、指揮する学生への「指揮・指導する側の立場」を踏まえた個人レッスンを軸に、演奏参加の学生には「指揮を見る側／指導を受ける側の立場」に立ってもらい、実際の指導現場を想定した形での授業を実施した。</p>
2、成果	<p>指揮法は指揮棒の振り方＝型を習うものと思われがちだが、それだけではなく、「指揮者・指導者は相手の立場に立って指導を受ける側に寄り添っていかう」というスタンスを理解し、教育現場で求められる指揮法の実際として、演奏者側／指導を受ける相手や子供達に必要な音楽的情報をどのように伝え、より良い演奏や音楽体験へ導いていくかの方法であるということ、そしてその実践には自身の音楽経験や知識が大切であることを主軸に指導した。実際の合奏を通して、型を振るだけではアンサンブルがうまく纏まらず、インザツツやテンポの乱れが生じるなど音楽的な問題点も経験することができ、その解決策としての指揮法へと展開できた。楽器初心者に対し、学生同士で基本的な奏法を教え合ったりする様子も見られた。実技試験では、課題曲に対し適切なテンポを最後まで示していくことや、変拍子を含め、拍子を正しく指揮すること、その上で音楽的な表現をしていくことのいずれの点も成果が得られた。</p>
3、解決すべき課題（含、分析）	<p>アンケートの指摘については、項目5,6における使用教材・配布資料とその内容について、いくつもの要素が盛り込まれている比較的規模の大きい（ページ数の多い）ものを扱ったため、その回の要点が複数になり、レッスンでの指摘事項も多岐に渡ったため、要点が捉えにくかったものと推察される。また、項目14,15の授業の理解度、満足度、後輩・知人への勧めについては全回答者数7名中5名が1ポイントの評価であったが、器楽合奏にチャレンジしたことで準備や後片付けに時間を要し、一人当たりのレッスン時間を十分に確保できなかったことや指揮の振り方以外の音楽的な指摘事項が受講生の想定していた「指揮法」の範囲を超えた点もあったのではないかと考えられ、結果「授業運営に問題あり」と捉えられたと考察する。</p>
4、授業改善のための取り組み	<p>前述の成果と反省を踏まえ、新年度は各回の要点のみに特化した小規模の課題曲を作成し、より学生の実情と理解度に合わせたものにし、受講生同士の相互チェックや提出課題を実施して予習・復習・フィードバックを実感して取り組めるような構成を取りたい。</p>

授業改善計画書（学部）

担当者	大沼 徹		
科目名	専門実技（声楽）Ⅱ 声楽表現Ⅱ/Ⅳ		
受講者数	38名	成績評価した学生数	38名
アンケート回答者数	7名	単位取得学生数	38名

1、授業の概要

ハミング（喉頭を意識しない鼻腔共鳴）から始まる発声練習、練習曲の音取りの補助、母音唱、原語の発音指導を経て、歌唱指導に入るという過程を採る。グループレッスンという性質上、ある程度の段階までは受講生複数人同時に進行するも、練習曲の同意や当日の出席状況を考慮し、個人レッスンの形態をとる場面もあるが、その場合は学生各々に確認を取ってから一人で歌わせることにしている。学生の個人差、モチベーションの高低により、指導内容を柔軟に変えることに腐心している事は言うまでもない。

2、成果

アンケートの回答によればレッスンが概ね好意的に受け止められているようではあるので、一定の効果はあったように思う。「予習に割く時間」がやや少ないが、自身の専攻科目の練習や学修を優先するだろうことは容易に考えられ、また私自身もそれを前提として課題を多く与えることを控えたため、ある程度妥当な回答と考える。但し、声楽専攻生については全くこの範疇にはなく、習熟度、モチベーションに合わせた課題を適宜与えた。実技試験でも一定の評価を得ているようなので、引き続き注意深く指導していきたい。

3、解決すべき課題（含、分析）

極々少数の例（無論専攻外の学生）ではあるが、授業態度も芳しくなく、あたかも休み時間の喫茶店のような体をなすグループもある。無理に授業に目を向けさせようとすればおのずから遠のき、迎合すれば猶更収集が覚束なくなる。このような学生たちをどの様に指導するかが課題である。

ただ、このような傾向にある学生ほど実技試験でのパフォーマンスが決して見劣りしないという点は興味深い。

4、授業改善のための取り組み

昨年に比べ本年度は履修者も増え、より一人ひとりに対する細やかな配慮が求められた。新年度もこの姿勢を保つことは当然であるが、「1対38」ではなく、「1対1」が38組あるということに常に留意し、自らの思考、指導法をマニュアル化せず、柔軟な指導を心掛けたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	大浜 陽子		
科目名	ドイツ語文法初級B / ドイツ語初級（文法）B		
受講者数	7	成績評価した学生数	7
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	4

1、授業の概要

- 1) 前回の授業の復習：小テストの後、宿題の答え合わせを行う。前回の授業を欠席した者は、出席者から概要を聞く。
- 2) 新しい単元の紹介：日本語や英語、中国語（留学生がいたため）で同じ現象があるかを話し合う。
- 3) 教科書を中心とした解説：辞書を引いたり発音練習したりしながら、ペアやグループでの作業を行う。
- 4) 教科書や問題集に取り組む：話し合う時間を大切にしたい。
アルファベットから現在完了形まで完了した。

2、成果

- ・アルファベットや数字に反応し、オーケストラ譜の該当箇所を開けるようになった。
- ・自分について紹介したり、相手に質問したりできた。
- ・自然な和訳を心掛けることができた。
- ・ドイツ語の構造を理解できた。

3、解決すべき課題（含、分析）

- ・理解が早い学生は時間を持て余し、時間のかかる学生は出遅れてしまった。
- ・受講生の予習・復習時間が確保できていなかった。

4、授業改善のための取り組み

- ・理解が早い学生には教科書とは別の練習プリントを用意することで、実践練習を促す。

授業改善計画書（学部）

担当者	大類 朋美		
科目名	演奏実習VI/VII 器楽表現Ⅱ/Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ ピアノ実技AⅡ		
受講者数	23	成績評価した学生数	19
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	19

1、授業の概要

学生の専攻、音楽的知識量・技術力、ピアノの経験年数、やる気などに応じて内容はそれぞれであるが、前後期の学期初めに学生と話し合いの上、学習計画及び学習曲や内容を決める。

レッスンでは、学生が取り組んだ曲における課題箇所をピックアップし、演奏技術と作曲理論の両面から作品の理解を深める指導をする。学生自身が課題解決できる力を身につけ、他の音楽学習にも応用できるように学びのサポートをする。学期末には受講生を集めた試演会を実施し、通年を通じた成果が実感できるようにすると共に、新たな課題を明確にすることを目標としている。

2、成果

アンケート項目 1-8 は全て個人平均 5.00 という結果から、一定数の学生からの評価があったのではないかと思う。しかしアンケートの回答者数は5名のみで、アンケート未回答の学生の意見が反映されておらず、限定的な意見だと言わざるを得ない。むしろアンケート自由記述（「技術的な点は勿論、メロディーの歌い方や和声感の捉え方もレッスンを通して学ぶことができ、曲の魅力をさらに感じながら弾くことができました。」「個々に合わせたレッスンをしてくださった。」）の方が学生の意見や感想がわかり、今後の指導に活かせると感じた。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケートからは見えてこない課題ではあるが、今年度の課題として挙げたいことは2点。
1) 器楽表現Ⅷ（4年生）のレッスンについてである。特に後期は、就職活動の説明会及び面接、内定が決まった後の研修会などが重なり、欠席する学生が多かった。間隔が開く中で一人15分のレッスンでは、十分な学習サポートができなかった。学期最後に実施した試演会にも最終的に3名が欠席してしまい、中途半端な終わり方となってしまった。

2) もう一つは、学生に連絡をメールでする際（欠席確認、レッスン時間調整、新しい曲目のお知らせなど）に、返事がなかなか来ない学生がいる。Gmail以外の他のアプリを使った連絡方法が必要か検討したい。

4、授業改善のための取り組み

上記3に挙げた課題の解決策は簡単には見つからないが、例えば学生が欠席してレッスンの間隔が開いてしまう時などには、学生の演奏録音をメールで送ってもらうことも考えられるだろうか。練習成果を確認したり、モチベーションを上げることができるかもしれない。今後、就活を優先的に捉えている学生には、もう少し細かく対応をしていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	岡本 知也		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅱ／器楽表現（ピアノ）ⅡⅣⅥ		
受講者数	26	成績評価した学生数	26
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	25

1、授業の概要

専門実技では、期末の実技試験の課題曲を中心としながら、他の異なるスタイルの曲や、エチュードなど、演奏技術の向上と、偏りなくレパートリーを拡大していくことを念頭にレッスンを展開した。

器楽表現でも、期末の試験課題を当面の達成課題として、様々な学生のレベルに応じてレッスンをしてきた。

2、成果

器楽表現は2年目の学生が多く、学生それぞれの気質や能力を踏まえて進めることができた。全体的に意欲的な取り組みをしてくれたこともあり、総じて演奏技術の習得や向上に寄与できたのではと思う。試験曲を選択する際に、学生自身の強い希望で、難しい挑戦になった学生もいたが、想像以上に演奏を仕上げることができたのは、嬉しい驚きであった。アンケートの結果を見ても、12, 13, 14の項目において良い回答が得られているが、アンケート回答数があまりに少なく、そのままこの結果が授業をはかるものとして受け止めるには疑問が残る。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート結果を踏まえると、一週間あたりの予習復習時間が十分でないという結果があり、それをどういう観点において感じるのか、見極めて対応していきたい。

器楽表現では、スケールやアルペジオはもとより、終止定式を流暢に弾けるようになってもらいたいと考えているが、不十分であると感じている。幸い、ほとんどの学生が継続して履修してくれるようなので、終止定式の習熟にはさらなる手間をかけたいと考えている。

4、授業改善のための取り組み

昨年度は、レッスン時間が伸びてしまい、各コマの順番が後ろの学生の時間が足りなくなる問題があり、これについては、各コマに設定するレッスン枠を少なめにして、調整可能余地を含めた時間割を組むことでほぼ解決できたと思う。

予習復習時間を十分にとることについては、練習の仕方をさらに具体的に伝えていくことに気をつけながら、それと同時に、レッスン中に学生が受け身になりすぎないように、学生自身の思考を促すような伝え方ができるよう、気をつけていきたい。

授業改善計画書

担当者	奥定 美和		
科目名	ハーモニーⅡ		
受講者数	20	成績評価した学生数	20
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	20

1、授業の概要

四声体和声の訓練を中心として、和声の役割や響きのバランスを理解し、書く技術と譜面の分析力を高めた。

2、成果

附属高校出身者で中級の上の方に位置するクラスだが、それでも個々の学生の理解度にかなり差があったため、添削を毎回丁寧に行うことで対応に努めた。オンライン授業時に作成した動画も活用し、自分の取り組む課題に関する内容を授業内でも視聴できるようにしている。その結果、「一人一人に寄り添った授業だった」「習った内容が定着した」という反応を得た。アンケート結果では5の解答が多く、一定の成果は出せたと思う。動画は概ね好評である。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート項目11の「予習復習が十分だったかどうか」について、回答数の約半分が不十分だったと答えている。自分で視聴できる解説動画も配信し、独習方法も提示してきたつもりだが、自分でどうすればいいのかわからない学生も一定数いるようだ。あるいは授業外でも取り組むものだと思われていないのかもしれない。自分の専攻にどのように結びつけられるか、まだ繋がっていないのだと思う。課題の実施に多くの時間を割いてきたが、演奏とリンクするような内容も増やしていきたい。

4、授業改善のための取り組み

個々に与える課題としては、高校で習った内容の精度を高める基礎問題から、より難易度の高い応用問題までレベルの異なるものを用意し、学生自身にも選択させることで能力差に対応してきた。実作品の分析については、ぜひ取り上げたいと思うものをいくつか用意していたが、学生からは「四声体和声のレベルを上げたい」「添削してほしい」という要求が多く、当初の予定より大分少なくなってしまった。2年目は、自立を促すためにも、曲の分析や創作に近い内容をもっと取り入れていきたいと思うが、課題の添削との時間的バランスをどうするかが大きな課題である。

授業改善計画書（学部）

担当者	奥村 友美		
科目名	専門実技、器楽表現（ピアノ）		
受講者数	19人	成績評価した学生数	18人
アンケート回答者数	7人	単位取得学生数	17人

1、授業の概要

※ここでは器楽表現について述べたいと思います。

週1回の実技指導の中でシラバスに沿った課題を与え、ピアノの基本的な演奏技術と、専攻実技にも生かせるような音楽表現の方法を学ばせました。

3年生以上の選択の学生には専攻楽器の伴奏を勉強したり、連弾や2台ピアノの経験もしたりと幅広い楽曲に触れる機会も増やしました。

2、成果

中にはピアノ学習の経験が少ない学生もいることから、それぞれのレベルに合わせて選曲をし、短いレッスン時間の中で浮かび上がった問題点に時間をかけて丁寧に取り組むよう努力した結果、「熱心に指導してくださったので表現方法も学ぶことができた」という回答やアンケート設問6に対しては回答者全員が教師の説明やアドバイスは分かりやすかった、そして設問8に対しても回答者全員がレッスンに対する教員の創意工夫があったという答えになったことは嬉しく思います。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問3の予習復習にかける時間の平均が3.86という数値にとどまり約半数の学生が週1~5時間とやや低いところが課題。

器楽表現の学生はなかなかピアノの練習にかけられる時間は限られていると思うので、毎週のレッスンの中で課題を明確に与える的確なアドバイスをすることで一步一步でも階段を上がって進んでいけるよう指導したいと思います。

4、授業改善のための取り組み

各自で目標を持って達成していくことができるよう前期後期の中で計画を立て、また学生それぞれでどういう問題点を抱えているのかを明確に見極めて毎回のレッスンで改善すべき課題を与えていきたいと思います。

併せてそれぞれの進路や希望に応じて教育実習への準備や、教員採用試験の対策などピアノを使った幅広いレッスンができるよう対応していきたいです。

授業改善計画書（学部）

担当者	小澤 慎吾		
科目名	イタリア語ディクシオン		
受講者数	21	成績評価した学生数	20
アンケート回答者数	12	単位取得学生数	20

1、授業の概要

音楽用語、歌曲、オペラを題材に7つの母音と子音のヴァリエーション、シラブル、アクセントを学び、テキストの朗読及び舞台発音法を用いた朗読を実践し、アナリーゼと共に歌唱法を研究し発音の質を高める。Iセメで学んだ基礎を踏まえ、更に苦手な母音及び子音を徹底的に訓練する。また、声楽教本であるヴァッカイのほかにもステイ、ベリーニ、ドナウディ、ロッシーニの歌曲の歌詞の意味を捉えながら朗読し、イタリア声楽曲の基礎を学ぶ。

2、成果

日本語とイタリア語の発音は類似点が多いだけでなく小学生時にローマ字を習得しているため、イタリア語の読み方及び発音は他の言語と比較して分かりやすい傾向である。

日本語の母音数は5つであり、イタリア語もそのように思われがちであるが、実際には7つである。その7種類の母音を使い分けられることができるだけでなく、イタリア語の特有な子音との融合も習得できた。

またシラブルを学ぶことで単語の構造を学びアクセントとの関連性を把握しつつ声楽教本のヴァッカイを歌唱することでより理解を深めることができた。

更に歌曲の歌詞の発音に注視し、意味を把握して身体の奥深くから朗々と朗読することでイタリア語ディクシオンの基礎を固めることができた。

3、解決すべき課題（含、分析）

2024年度のアンケートの結果から回答率が一番高い授業のものを選出した。

アンケート項目は15個あり、5点満点で採点されている。15項目の平均値は、4.70であり、おおむね良い結果である。昨年度の平均は4.68だったので僅かに上昇している。

5点満点は1番と2番の項目で、予定通りに授業を進められたことを意味している。この中で11番の項目だけが3.42と低い数値になっている。授業のための予習及び復習が十分でなかった生徒が12人中4名いたことになる。IIセメで選出した歌曲の歌詞の分量が増しており、単語を調べ、日本語に訳すための時間を充分にとることができなかったことが起因であると考えられる。

4、授業改善のための取り組み

毎年、このアンケートを行っているが結果として11番の項目がいつも低い数値であり、改善されていないことが分かる。

単語の意味を調べることは、歌詞の意味を捕えるために最低限の予習であり、これを成すためには30分以上の時間を要する。

歌詞を訳すのは非常に難しいので、授業内で訳すための多くのヒントを教示しているが今後は更に訳すための資料を提供することが必要であると考えられる。

また、最近はネットで単語の意味や訳詞が掲載されていてそれを見て予習を終了する生徒を見かけるので、できる限り各自で辞書を駆使して進めてもらえるよう指導して参ります。

授業改善計画書（学部）

担当者	小山田 静枝		
科目名	医療と健康 B/医学一般 B		
受講者数	58	成績評価した学生数	61
アンケート回答者数	14	単位取得学生数	52

1、授業の概要

医療は多職種が協働して一人の患者の治療に携わっている。医療の発展とともに役割は分担化され、さらに新しい医療職が生まれており、近年、これらに音楽療法士も加わるようになってきている。また、音楽大学の学生にとって身近な存在である音楽療法や絵画療法に代表される芸術療法の適応疾患は広く、今後、医療のなかで期待が大きい分野だが、一方で一部の患者においては慎重に行わないといけない場合があり、医学の基礎知識が必要になる。本講義では、これからの展望なども含めて、広く医学の基礎知識が身につくよう、最近のトピックスなども織り交ぜながら説明をする。また、音楽療法が対象となる疾患について精神疾患を中心に適宜触れ、専門家レベルの医学の基礎的知識について理解を深め、今後の活動に生かしていくことを目標にする。

2、成果

アンケート結果によれば概ね好意的に受け止められ、一定の評価はあったと考える。「予習に割く時間」が少ないが、専攻科目の学習や練習を優先するだろうことは十分に考えられ、また、それを前提として課題を多く与えることを控えたため、ある程度妥当な回答だったと考える。

2、解決すべき課題（含、分析）

予習復習時間を十分行ったという回答が 7.1%と極めて低かったので、課題の内容や量を工夫し、専攻科目の学習や練習に支障をきたさない範囲で、学生が進んで予習復習をするようになる働きかけが必要だと考える。また、理解を深めるための説明・資料作成を工夫し講義内容のブラッシュアップを図る必要がある。

4、授業改善のための取り組み

画像や動画なども使い、学生が理解を深め興味・関心を持てるよう講義内容を工夫する。

今年度、本講義を 6 年ぶりで担当したが、自身の出席数を把握できていない者や遅刻者が増え、授業内容以外の質問・相談が多かったり、講義に出席しているのに受験しない者がいたり、以前とは異なる対応が必要になっているように感じた。

今年度を振り返り、学生の意見や感想を聞く機会を増やし、もっと意識してコミュニケーションを図ることが必要だと思った。日常的にコミュニケーションを増やすことによって、学生の興味や傾向をより具体的に知ることができれば、授業内容の改善につながるのではないかと考える。

授業改善計画書（学部）

担当者	加藤 真一郎		
科目名	専門実技、器楽表現、ピアノ実技、ピアノ特別演習		
受講者数	28	成績評価した学生数	28
アンケート回答者数	9	単位取得学生数	26

1、授業の概要

ピアノの個人レッスン。ピアノ専攻生、作曲・コンピュータ専攻生の創作系ピアノほか

2、成果

設問 1～8、13～15 は平均 4.89～5.00 と全体にレッスンに満足していることがアンケートからもわかる。様々なレベルの学生それぞれに対応したレッスンができたのではないかと思っている。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問 11 の予習・復習（つまり練習時間）が平均 4.00 となっており、個人練習をする意味を伝えきれていない可能性がある。

4、授業改善のための取り組み

練習の必要性を高める試み、例えば毎週新規の課題を課す、なども試みていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	金子 健		
科目名	ジャズ入門 / ジャズ入門B		
受講者数	33	成績評価した学生数	26
アンケート回答者数	33	単位取得学生数	20

1、授業の概要

後期はジャズ 理論と実習 ということで、コード、コード・スケール、ジャズリック等の基礎トレーニングの方法、そして、実践としては、ブルース、スタンダードソングなどに応用をして、インプロビゼーションの基礎を学んだ。

2、成果

実践形式では、まだトレーニングが必要だが、ジャズ・イディオムを多くの学生が理解してくれた。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業の最終には、作曲としてのジャズ・イディオムを用いたインプロビゼーションを提出してもらったが、そこからいくつかピックアップして、発表の機会を設ける時間を作りたかった。実際には全員参加型、ジャズセッションの実施を行ったので、体験型授業としては成果を上げたが、個々人の課題評価が更なる向上には必要かと思い、課題として残った。

アンケート内での予習・復習時間が少ないことが懸念材料となった。

4、授業改善のための取り組み

前期授業での理論復習と、新たな実践理論の実施の時間配分を考慮し、より個々人の理解と向上に関与できればと思う。その上で、個々人の予習、復習も授業内で促す方向で授業改善に取り組みたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	神本 真理		
科目名	ハーモニーⅡ		
受講者数	19名	成績評価した学生数	19名
アンケート回答者数	10名	単位取得学生数	19名

1、授業の概要

4声体和声の書法の解説と演習、および学習範囲内の和音記号を含む実作品を用いた和音分析、という2つの柱の中での授業を進めていきました。

私の授業では、分析において、なるべく毎回、別の実作品を提示して、扱う和音の種類は限られていても、異なる楽曲に触れる新鮮さと共に、「あの和音がこの曲にも用いられている」、「転回形が、ここで用いられている」という小さな発見を積み重ねていくことを意識して行いました。また、書法においては、教科書とハンドブックを中心として、ある単元が終わると、「まとめ」と称したチャート式のプリント資料を配布して、復習も並行して行う形を取りました。

2、成果

学生からの授業中の質問や、宿題についての疑問点への対応は、極力丁寧に応じつつ、理解に時間のかかる学生と、自力で先へ進んでいける学生との進捗状況の開きを埋めるように努めていきました。結果として、アンケート回答においても「授業に意欲的に取り組んだ。」という回答を比較的多く得ることができたように思います。

3、解決すべき課題（含、分析）

ソルフェージュ同様、ハーモニーは、全ての専修の学生たちの必修授業であり、音楽家として不可欠であるからこそ、学生への対応を満遍なく行うことは大切と感じています。

しかしながら、集団授業において、理解の個人差を的確に見極めて応じていく難しさも常々感じている次第です。

より一層、最大公約数の水準の授業内容を意識しながら授業を進めていきたいものです。

4、授業改善のための取り組み

演奏実技では楽器を用いて、自ら実際に音を出すことで演奏表現することが主眼となっている一方で、ハーモニー学習は、どうしても「机上の学習」という、一見、現場とはかけ離れた学びと捉えられがちですが、大抵の音楽家たちにとってアンサンブルは不可欠です。つまり、「他人の音を聴く」「縦／横のバランスを聴きながら演奏する（作曲する）」という行為を、より表現豊かなものとするためにも、ハーモニーの授業内容を通して、「音楽のバランス感覚を育てること」の一助となるように努めていきたいと考えています。

授業改善計画書（学部）

担当者	神山 久美		
科目名	お金とくらし（生涯生活設計）		
受講者数	38	成績評価した学生数	31
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	31

1、授業の概要

共通科目（教養科目）の集中講義である。

生涯にわたる日常生活のお金に関する基本的知識を修得させ、経済社会のしくみや消費生活の現状を理解させるようにした。消費生活の現状や生活設計に関する基本的な事項について説明を行い、現在発生している消費者問題を踏まえて、私たちはどのように消費生活をしていけばよいか、具体的に考えていくことを目標として授業を行った。

2、成果

「授業に関するアンケートの結果について」の回答数が例年と比べてかなり少なかったが、「授業（レッスン）の内容は講義要目（シラバス）に沿って行われた」「学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった」「教員は学生に誠実に接していた」「使用された教材（配布資料等）は適切であった」「授業（レッスン）の内容・ポイントは分かりやすかった」の平均が、4.80 と高い結果となっていた。これらの授業評価により、本授業は学生にとって適切な授業であり、成果があったと考えられた。

3、解決すべき課題（含、分析）

「授業に関するアンケートの結果について」では、「授業（レッスン）のための1週間あたりの予習・復習時間は」の平均が最も低い結果であった。課題として挙げた「予習・復習時間」の確保については、3日間の集中講義であるが、さらに工夫をしながら授業を行っていききたい。

4、授業改善のための取り組み

授業内容に関して、さらに具体的に学生が理解できるようにしながら話をしていきたい。集中講義であるが、なるべく学生参加型の授業となるように、グループ討議などを増やしていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	神山 直子		
科目名	道徳指導論		
受講者数	53	成績評価した学生数	53
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	48

1、授業の概要

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる「特別の教科 道徳」の目標や内容、指導計画等についての理解を深めた。実践的な指導力を身に付けるために、「特別の教科 道徳」の教材研究や授業動画等の視聴、範読の演習に取り組んだ。

2、成果

いじめが社会問題として取り上げられ、道徳教育並びに道徳教育の要である「特別の教科 道徳」に対する社会の期待は一層大きなものになっている。そのような社会背景を踏まえ、本科目の実践的な学びを通して、心の教育の重要性、道徳科の授業内容や指導方法の基礎・基本について理解を深めることができた。

3、解決すべき課題（含、分析）

No.11 の設問が例年と同様、大きな課題である。No.11 については、教育実習等における授業実践に直結する学修機会を設定し、主体的に学ぶ意欲と態度の育成を図っていきたい。

4、授業改善のための取り組み

11 回～13 回の授業において、グループを単位とする学修活動を設定する。学修課題の設定及びそれらを探究する活動の機会と場を保障し、主体的に学ぶ意欲が内面から高まるよう工夫する。

受講生の実態に応じて教材を取り扱い、学修に対する興味・関心を外面から高めていく。

授業改善計画書（学部）

担当者	川崎 瑞穂		
科目名	音楽文化論 B (2 クラス分)		
受講者数	148 名	成績評価した学生数	146 名
アンケート回答者数	18 名	単位取得学生数	124 名

1、授業の概要：本講義では、世界の音楽とその研究の歴史を理解し、音楽を「文化」として考える方法を講じた。各回、様々なトピックから、音楽とはどのような文化であるのかを考察することで、様々な時代・地域の音楽文化を理解し、異文化や他者の音楽・文化を尊重し、受け止める感性を育むことを目指した。講義は教室にてパワーポイントを使用して行なった（第 5・10 回はゲスト講師による合同授業を小ホールで行なった）。スライドについては、ペーパーレス化のため紙媒体では配布しなかったが、必要であればクラスルームにアップロードされている PDF のデータを講義中にタブレットやスマホ等の端末で見ながらの受講も可とした。

2、成果：学生の感想（受講票の裏に記入されている内容）から、日本をはじめ、世界各国のあらゆる音楽に触れる経験となったことがわかる。また、受講生の中には、講義内容について積極的に意見・質問等を述べていた学生もいたことから、学生に様々な形で資する講義ができたのではないかと考える。様々な音楽を取り上げるだけでなく、身近な具体例（楽曲）等も用いて授業を行なったことの成果が表れているといえる。

3、解決すべき課題（含、分析）：履修上の注意として、5 回以上欠席（5 回も含む）した場合は失格になるが、4 回まで休んで良いということではない、と初回に注意していたものの、結果的には失格者がいた。加えて私語を慎むこと、講義への遅刻・途中退出等を慎むことも初回に注意しておいたが、受講生が多いこともあり、完全には防ぐことができなかった。また、課題を提出しないことで点数が上がらなかったケースもあったため、今後も引き続き、課された課題を必ず提出するよう、講義の中でより多く注意喚起する必要がある。また、例年に比べ、講義内容に関する質問や意見が（もちろん積極的な提示もあったものの、全体としては）減少していたため、来年度は気付いたことなどがあつたら積極的に述べるように促す予定である。その他、設備上致し方ないことではあるものの、エアコンの操作パネルが講師側とは正反対の位置にあるため、柔軟な（こまめな）対応をすることが難しかった。今後は、例えば寒い場合に上着を準備する等、促すことも検討する。

4、授業改善のための取り組み：本講義では、毎回最初に、前回の受講票に記入されていた意見や質問等を紹介し、それについて補足する時間を設けた。これにより、人数が比較的多い当該講義でも、ある程度の双方向性を保つことができた。講義の内容としては、受講生が受講票で提示していた例（好きな楽曲など）をなるべく多く取り上げてそこから解説していくことで、より内容を身近に感じられるよう、工夫した。授業評価の結果は、設問 11 以外は全て 4 点台であった。授業外学習としては、レジュメの復習ほか、毎回、少しだけ難しい文章（多くは哲学者や音楽学者等の文章）をクラスルームに提示し、次の講義までに熟読するよう、指示した。ただ、設問 11 から、授業外学習の時間が短い学生がいることがわかったため、来年度からは別の方法で授業外学習を行う予定である。

授業改善計画書（学部）

担当者	河原 啓子		
科目名	アーツ・マネジメント概論Ⅱ		
受講者数	19	成績評価した学生数	16
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	15

1、授業の概要

アーツマネジメント概論Ⅰに引き続き、音楽マネジメントにフォーカスを当て実践的な活動を視野に入れた内容。音楽と社会をつなげるためのプロモーションやファンドレイジング、ブランディングなどケーススタディを交えながら解説。プレスリリースの作成やプレス対応、チラシの効果的な作成方法などについても行った。クラスルームのフォームを利用して学生たちのコメントをチェックし授業でフィードバックしながら双方向的なコミュニケーションを取った。

2、成果

音楽を社会で提示し波及させるためには何が必要かについて、各自が自分の活動を鑑みながら考えることができた。学問や表現としての音楽の捉え方とともに他者との共有の対象としての音楽のありようを認識してもらった。音楽が社会とともにあり、経済や異文化理解など多様な可能性を秘めていることを理解してもらった。

3、解決すべき課題（含、分析）

普段の学習時間をさらに拡張してもらおう（「11 授業のための1週間あたりの予習復習時間」を増大してもらおう）。自分の活動や鑑賞したコンサートなど日常的にマネジメントの視点で捉える視点を持ってもらう。

4、授業改善のための取り組み

参考サイトや文献の紹介。これまで同様リアルタイムに変化する音楽ビジネスの現場の事例などを取り上げながら解説を続けてゆく。

授業改善計画書（学部）

担当者	菊地 真美		
科目名	専門実技 器楽表現		
受講者数	25	成績評価した学生数	25
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	24

1、授業の概要

主に前期後期の試験に向けての課題曲や基礎練習(スケールメイト、ハノン等)の実技指導。
各自が抱えている問題点を改善していくための具体的な練習方法を伝える。

2、成果

アンケート、3、4、6、8、9、10、12、14、15 な回答が高評価であったか事から成果は上がったと思われる。
試験成績も各自向上し、結果にも繋がった。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート 11 の 1 週間あたりの予習復習時間についての問題だが、予習復習は練習時間の確保と考えるが、十分な練習時間については各自の自主性において行なって頂きたく、近年、アルバイト等生活と学業の両立で微妙な事も多々あるかと思うのでこちらからは言及を避けていた。しかし本人達も感じている様に練習時間が足りていない学生も少なく無い。

4、授業改善のための取り組み

練習時間の改善については学生各自と時間を確保出来ない原因についてコミュニケーションを取る事が大切だと思う。それぞれの状況を理解しながら可能な策を学生と共に探していきたいと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	木島 タロー		
科目名	合唱Ⅱ		
受講者数	108	成績評価した学生数	108
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	101

1、授業の概要

クラシック、バロック、ポピュラー音楽、黒人霊歌、ゴスペル、童謡、など多様な楽曲の合唱、また、各音楽ジャンルごとに必要とされる知見についての解説。

曲種によって異なる発声についての解説。

宗教曲の指導に必要と考えられるキリスト教概論。

指揮および指導法について、特に希望する学生に実践させ、フィードバックする形で指導。

指導現場で実用的な伴奏法について、特に希望する学生に実践させ、フィードバックする形で指導。

2、成果

授業アンケートは108名中10名のみが提出をしているようだが、授業に強い批判意識をもつ学生がアンケートを出し損ねることは考えにくいことを考慮すると、提出者10名中8名の学生がほぼ満足を感じていることは、108名の多様な個性に満足ゆく学習をさせようとする授業の成果としては芳しいと言える成果と考えている。今後100%とは言えないまでも、90%以上の満足率を目標としたい。授業にて提出させた最終レポート（原則全員提出）からは、まず楽しく合唱を学ぶことを体験し、最新の学習指導要領を踏まえた新たな合唱の見方を身につけたことが見て取れる（必要に応じ、資料提出可能）。

3、解決すべき課題（含、分析）

a. 典礼曲 Gloria In Excelsis Deo やゴスペル曲の合唱にあたってキリスト教の概論について語った際に、キリスト教以外の宗教を批判したと解釈した学生がいたようである。

b. 指揮や伴奏や授業準備について、それを希望したり積極的にいたりする学生のみに行わせていたが、それを「最良」と捉えた学生がいたようである。

4、授業改善のための取り組み

a. 宗教に優劣や貴賤はないことを知ることは音楽家にとって重要である旨を常々念押ししているが、より一層、そのアナウンスを捉え損ねる受講者がいないように強調してゆく。

b. 積極的な学生にはよりやらせる、消極的な学生に無理にやらせることはない、というスタンスを本授業ではとっているが、その旨を聞き損ねる者があると、好き嫌いで登用していると考える者が出る可能性がある。そのようなことのないよう、最初2回程度の授業で繰り返し、スタンスについてアナウンスをする。

授業改善計画書（学部）

担当者	北爪 裕道		
科目名	コンピュータ音楽講義Ⅱ		
受講者数	12	成績評価した学生数	9
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	8

1、授業の概要

コンピュータ音楽講義Ⅰ～Ⅳの一連の授業の中で、1年目後期にあたるこの授業では、歴史的な楽曲を分析することから論理的な楽曲構築原理や書法を学び、その成果としての器楽による室内楽曲を作曲し発表することを目標とする。

半期にわたる授業は次の段階からなる。

- 1.1 講師による楽曲分析講義。歴史的な楽曲構成原理、作曲法を学習・理解する。
- 1.2 各履修生が、任意の楽曲(または数曲の課題曲選択肢から選択)の分析に自ら取り組み提出。さらに講師とともに検討・分析し深め、自らの作曲への応用を考える。
- 2.1 自作品の作曲に取り組む。講師のレッスンや助言を受けながら曲を完成させる。
- 2.2 学期末に作品発表会を開催。各自演奏者とリハーサル・準備を行い作品を発表する。
- 2.3 作品発表会後に講師とともに各自の成果を総括・講評。

2、成果

受講生全員が各自の興味に応じた楽曲の分析と、それを生かした作曲実践としての学期末の作品を完成、楽譜を提出することができた。

各自が演奏者とのコミュニケーションとリハーサルを通して作品発表できた。また作品発表会を履修生全員が分担・協力して運営。演奏会の運営を実習することができた。作品発表会後には講師と履修生参加の講評会および、お互いの作品に関する積極的なディスカッションを行い、よかった点や今後の課題などを確認することができた。

3、解決すべき課題（含、分析）

本授業では、全員合同の講義をまずは多く行うが、授業内容の性質上、後半の時期には各自学年末の自作品を作曲し、講師は個々の学生に対して個別にレッスン形式で指導する方法が最も有用かつ効率的と思われる。この時期には元の授業時間に相当する分のレッスンを受講する機会を各履修生に確保することができ、全体的に良い数値が出ているのは喜ばしいことといえる。

4、授業改善のための取り組み

受講中の履修生たちの反応や理解度、興味を見聞きしながら、楽曲分析の研究題目や課題曲などは適宜調整している。課題が進んでいない場合でも、その場ごとに最も有用と思われる助言や手ほどきをするよう心がけており、結果として各履修生の分析対象の楽曲や、作曲する楽曲のスタイルも各自の興味に応じて様々なものとなっている。この方針は、来年度も継続し状況を注視しながらうまくバランスを取っていく必要があると思われる。

授業改善計画書（学部）

担当者	鯨井 正子		
科目名	音楽教育講義 A		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	9	単位取得学生数	23

1、授業の概要

音楽教育講義 A は音楽教育専修 1 年生を対象に津田正之先生が前期の前半を、自身は後半を担当している。私の授業では明治時代以降の日本の子どものうたの歴史を扱い、学校教育、家庭、メディア（レコード、ラジオ、テレビ）の変遷にも触れている。学生には、毎回、講義内容を整理する復習や次回講義で取り上げる言葉を調べる予習などの課題を Google Classroom を介して提出させている。この提出に対して学生個々へのフィードバックを行ない、授業にも反映させている。

2、成果

アンケート 1 から 5、9、12 から 14 と、設問の半数以上で概ね良い回答を得られた。中でも「3 学生からの質問や相談・提出物に対して、教員の対応は適切であった」、「4 教員は学生に誠実に接していた」、「5 使用された教材（配布資料等）は、適切であった」の 3 つは教員の評価を尋ねる設問であり、5 段階評価の 5 の回答が多いことが可視化できたことにより報われたような気持ちになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

残念だったのは、「6 授業（レッスン）の内容・ポイントは分かりやすかった」では 2 名が 5 段階評価の 3 に、「15 この授業（レッスン）科目を後輩・知人に勧める」では 1 名ずつが 5 段階評価の 2 と 3 に回答したことである。おそらく、授業が分かりにくいためにこの授業を勧めないのではないか。また、「10 授業（レッスン）に意欲的に取り組んだ」では 3、「11 授業（レッスン）のための 1 週間あたりの予習、復習時間は」では 1、2、3 といった芳しくない回答も見られ、意欲が低いことと予習復習を行わなかったこともつながると思われる。

4、授業改善のための取り組み

学生が音楽や音楽教育の何らかに興味や関心を持ち、知を探究するきっかけになって欲しい、音楽教育講義 A はその材料を提供している一つの機会であると思っている。そのためには教員も学び続け、学生にその姿勢を示していかなければならない。また、講義という形式の中でも学生が受け身にならないように、学生自らが読んだり、書いたり、思考したりするような学習の提供も心掛けたい。そして、授業が少しでも上手くなりたいと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	楠山 敏行		
科目名	声の科学 B		
受講者数	33	成績評価した学生数	33
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	23

1、授業の概要

声に関わる解剖，生理，疾患から，発声と音楽に関連する諸問題までを医学的，専門的に解説する．理解を容易にするため動画を多用している．

2、成果

自身の知識技術考え方などの視野が広がったかどうかの平均 4.50 より一定の成果があったと判断する．

3、解決すべき課題（含、分析）

授業の予習あるいは復習が行われない点（2.07）については今後検討したい．

4、授業改善のための取り組み

最新，最良のデータ，概念を提供するため演奏芸術医学，音声言語医学，喉頭科学，口腔咽頭科学，日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学各医学会，音声外科研究会，および日々の診療を通して常に研究，検証を行っている．

授業改善計画書（学部）

担当者	工藤 俊幸		
科目名	合唱VI・VIII		
受講者数	77	成績評価した学生数	70
アンケート回答者数	20	単位取得学生数	68

1、授業の概要

11月の声楽専攻合唱演奏会での演奏曲、モーツァルト「ハ短調ミサ」発表に向けての取り組み。

11月演奏会以降はベートーヴェン第九交響曲第四楽章の譜読み。

2、成果

難曲を歌いこなす技術を身につけた。

宗教音楽に対する知識が深まった。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業時間外での予習、復習の習慣づけ。

欠席が多めの学生へのフォロー。

4、授業改善のための取り組み

学生のモチベーションを上げるため、実技、楽曲解釈の両面から授業内容の向上を図りたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	久保田 早紀		
科目名	器楽表現 II / IV / VIII		
受講者数	36	成績評価した学生数	33
アンケート回答者数	12	単位取得学生数	33

1、授業の概要

新1年生、2年生、4年生の学生を担当し、主にシラバスに沿った内容を中心に授業を進めた。各学年・専攻に沿った試験課題曲を選定し、ピアノ演奏における技術・音楽面での向上を促すとともに、学生が授業内での学びを通して達成感と満足感を得られるよう工夫をしながらレッスンをを行った。

また、学生一人ひとりの個性を尊重し、伸ばしながら、それぞれのレベルに合わせた内容でレッスンを進めた。学生が自身のペースで学びを深めつつ、試験前のおさらい会などを通じて人前で演奏できるようになることを目標とした。

2、成果

設問2と7が5.00、設問3, 5, 6が4.92であることから、授業がしっかりと進められていたこと、そして設問10でも数値が高いことから、学生が意欲的にレッスンに取り組んでいたことがわかる。また設問8でも4.92という点から、授業中の工夫も学生たちの役に立ったことが見受けられる。

自由記述欄の「最初の頃に比べて表現の仕方や弾き方が上達しているのがわかって嬉しかった」、「先生がお手本で弾いてくれたり、身近なものでわかりやすい例えをしてくださったので演奏する時のイメージがしやすかったです」などからもわかるように、授業での学びが効果的であったこと、そして学生がピアノ演奏に意欲的になってきたことが伺える。

3、決すべき課題（含、分析）

設問11の「レッスンのための1週間あたりの予習・復習時間」は4.08と、全設問の中で最も低い数値となっている。しかし、この数値は昨年よりも上昇しており、予習・復習に取り組む学生が増えてきていると考えられる。来年度は、この数値をさらに向上させるためにも、レッスン中に「学生がいかに自主的に練習したくなるか」という点での工夫が課題となる。

4、授業改善のための取り組み

試験前やおさらい会の前になると、多くの学生が練習時間を増やしていた。これを踏まえ、希望者を募って弾き合い会を数回実施することで、人前での演奏に過度な緊張を感じる学生には少しでも慣れてもらい、達成感を味わう機会を提供したい。これにより、学生の学習意欲向上につなげていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	越川 徹郎		
科目名	教育メディア論		
受講者数	38	成績評価した学生数	38
アンケート回答者数	15	単位取得学生数	37

1、授業の概要

音楽科教育実践を想定して、

- ① 基本的なドキュメント作成、表計算ツールの活用法、プレゼンテーションツールの活用法に関する実践
- ② 情報モラルとセキュリティに関するケーススタディ
- ③ デジタル活用における著作権の諸課題
- ④ 研究発表を想定したドキュメント作成等の実践
- ⑤ 音楽科教育における ICT ツールの活用法

等を中心に実践的に学習した。またこれらの演習を通して学んだ内容を、音楽教育実践の中でどのように活かしていくか、事例を交えながらレクチャーを行った。

2、成果

アンケート回答数が少ないので明白な結果とはいえないが、集まった回答の範囲では概ね5が得られ、安堵している。設問3,4,5,7,8の数値が高く、授業実践への取り組みが評価されたのではないかと理解している。

3、解決すべき課題（含、分析）

全体として同科目に対して様々な理解度、進度の学生の学習を同時に進めるにあたり難しさを感じている。アンケート結果にもこのずれが反映されやすいと考えている。概ね理解を得られているが、引き続き方法を模索すべきと考えている。また予習復習の時間が取れていないことが顕著であることは昨年度に引き続き課題である。

4、授業改善のための取り組み

コンピューターの演習というと学生にとって面倒なものになりがちであるため、気軽に取り組める内容とする努力や、雰囲気作りを、次のように行った。

- ① 手順や方法にこだわりすぎず、学生個別の能力や学習速度に沿って、自由に学習できるよう、時間に幅を設けた
- ② 質問には丁寧に個別対応し、誰でも質問しやすいよう努めた
- ③ 話し方や話す内容、速度等工夫し、アイスブレイクに努めた
- ④ なるべく多く、実践の場につながる事例を提示し、実務を想定した演習課題等の検討を行った。
- ⑤ 画面提示の種類を増やし、ポイントの伝わりやすさを意識した。

授業改善計画書（学部）

担当者	小林 菜美		
科目名	専門実技（声楽）ⅡⅥⅧ 演奏実習（声楽）ⅥⅧ 声楽表現ⅡⅣ 声楽特別演習Ⅱ		
受講者数	20	成績評価した学生数	10
アンケート回答者数	9	単位取得学生数	19

1、授業の概要

声楽実技、声楽表現ともに、呼吸法と身体を十分に使う無理のない発声練習から始め、コンコーネ 50 番、25 番、15 番と各自のレベルに合わせて、母音歌唱により声でラインをつくるベルカント唱法の基本を指導した。シラバスに沿い、イタリア歌曲、ドイツ・フランス歌曲を歌詞の発音を含め、各自に即した曲に取り組み、表現技術を会得させた。三・四年生には上記に加えて、オペラアリアや日本歌曲、オラトリオと幅広く選曲した。また、学内外の施設を利用して研究会を行った。

2、成果

「熱意・工夫が感じられた」「内容が分かりやすい」の両項目で高い評価を得た。これは各自に技術を会得させるために、音楽に関する様々な知識向上を図り演習曲にまつわる音楽史（その時代の文化背景）についても説明し、レポートを適宜提出させたからであろう。講師自身が歌唱し、ともに歌うことも行った。「理解し、授業に満足している」も高評価であり、全学生が学年末に声域が広がり演奏が向上したことは大変うれしい。音楽療法の分野においても、歌唱の訓練は必須であり、声楽表現において将来指導者・教育者として技術向上とその過程が役に立つと実感してくれた。音楽教育幼児教育専攻者には、実際に現場で扱う教材の弾き語りをさせ、各自が自信をもって歌唱を行うようになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

一週間あたりの予習・復習時間が短いと回答した学生が半数近くあり、十分に準備されておらず、前回の復習から始めなければならない学生が見られた。

授業時間の延長や曲を仕上げるための補講を重ねるなど、時間をとりすぎることがあったため、授業時間内での成果を上げられるよう十分気を付けたい。オペラなどの映像を見て演奏の全体像を把握させようと思ったが、大学の AV 機器の活用を増やすことで時間の効率を上げるべきであった。

4、授業改善のための取り組み

学生それぞれの個性を見極め、自身で能動的なアプローチが取れるよう、よりの確な課題や助言を与えていきたい。一方的に曲を与えるだけでなく、自らが選曲するために様々な分野に興味を持たせ、各自の習熟レベルだけでなくそれ以上の作品に触れるよう、課題以前に声楽作品の知識を与えておきたい。

レッスン時間の延長がないよう、時間内に効果をあげるよう曲数も考慮したい。

声楽表現の各専攻（幼児教育・音楽療法・音楽教育）で、学生が将来必須となる弾き歌いも行っているが、さらに曲数の充実とアンサンブルもできるよう、課題を夏季休暇・冬期休暇等に準備できるよう工夫する。

授業改善計画書（学部）

担当者	小山 和彦		
科目名	ソルフェージュⅡ		
受講者数	13	成績評価した学生数	13
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	12

1、授業の概要

基本的には、ソルフェージュ共通教材のテキストの中で、「リズム」、「視唱」を主に使用して、2:3 などのリズムの組み合わせ、基本的な音程を取る練習を行なった。テキストの「聴音」については、クラスのレベルにできるだけ合致した自作の教材を使用した。なお、全般的には、名曲など既存の作品を教材として多めに使用することとし、訓練だけでなく、音楽への関心、素養を高めることにも配慮した。

2、成果

アンケート回答者は全体の 1/3 程度であるが、その結果からは意欲的な取り組み、自身の知識・技術・考え方の視野が広がったという点に関して、全ての回答者は、肯定的な 4 と 5 の評価をしており、今後の音楽学習が意欲的につながることが期待できる。

3、解決すべき課題（含、分析）

ソルフェージュのクラスは、入学の段階でクラス分けテストを実施しており、ある程度履修者の学習歴や能力に合ったクラスに振り分けられている。しかし、音楽的な能力は多岐に渡り、そういった意味では全員に合った指導、教材の選択に難しさを感じる。

授業内容の理解、満足度について否定的である 2 の評価をした回答が 1 つずつあるが、全ての学生に沿った指導、言葉がけに特に近年は難しくなっていると感じる。

4、授業改善のための取り組み

ソルフェージュの授業内容は多岐に渡り、それぞれの課題をレベルアップしてゆく必要がある。上述の通り、各項目の能力、修得度はバラバラなので、そのような状況に対応した教材の選択と指導法についてさらに検討、実践してゆく必要がある。

近年の若年層の傾向として、自己承認欲求が強いと言われている。他者からの否定的な言動に弱い場合があるので、常に発言について配慮すると共に、指導に関することについては自身の中でフィードバックしてゆく必要があるだろう。

授業改善計画書（学部）

担当者	斉木 由美		
科目名	ハーモニーⅡ		
受講者数	21名	成績評価した学生数	21名
アンケート回答者数	21名	単位取得学生数	21名

1、授業の概要

ハーモニー（和音や和声）に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」がある。生演奏を用いて行われる授業によって、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する。

2、成果

前期で行った三和音の基礎の発展として、新しい和音や和声を教材と様々な楽曲や範例から学び、声楽科クラスに見合った楽曲を選び、その和声分析や、詩と和声の関係などを考察しながら演奏することを通して、音楽の豊かさを体験することができた。

3、解決すべき課題（含、分析）

この授業は、後期は進展が早いため、理解度を確認しつつ進めるが、ついてこられない学生が少なからずいるため、担当クラスに相応しい教材選びや授業で用いる資料などに工夫をする必要があると感じた。ついてこられない学生については復習や個別指導がやや不足していたかもしれない。

4、授業改善のための取り組み

担当クラスに適した教材・資料作りをする。ソルフェージュや楽典といった基礎力の強化も合わせて指導する。

授業改善計画書（学部）

担当者	笹川 浩		
科目名	外国語コミュニケーション（英語）Ⅳ		
受講者数	36名	成績評価した学生数	21名
アンケート回答者数	4名	単位取得学生数	21名

1、授業の概要

このクラスは再履修者を中心としたクラスで英語が苦手な学生が多かったため、基礎的な英語力を着実に身に付けさせることを目指した。テキストはNew Connection (Book 1)を用いた。まず授業の前半で、前回学習した内容を復習し、さらにその日に扱う文法内容をできる限りわかりやすく、基本に立ち返って説明し、授業後半で練習問題をみんなで解くという手順を進めた。そして特に対話部分についてはペア・ワークで練習させ定着させた。最後にその日扱った文法事項を再度確認した。また教室での授業を補うために、随時課題を出し、自分で辞書を引いて調べることを促した。

2、成果

授業アンケートの自由記述欄には特にコメントはなかったが、毎回授業終了後に提出してもらっている「振り返りノート」には「英語を基礎から理解できてよかった」「わかりやすい内容だった」「説明が丁寧でとてもわかりやすかった」「英語に興味を持てるようになった」「単語の成り立ちの説明がとても面白かった」「解説が実にわかりやすかった」等の感想が書かれていて、英語が苦手だった学生にも興味を持ってもらえたのではないかと自負している。その一方で、このクラスでは精神的な問題を抱えている学生も複数いて、勉強する以前に、対面の授業になかなか出席できない学生がいて、対応に苦慮した。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業アンケートで数値が低く出ているのは、第11項目の「授業のための予習・復習」に関連した点である。この傾向は昨年と同様であったが、これらの数値を改善するためには、やはりもっと学生の興味を引く授業をする必要があるということであろう。どうしたら学生に、もっと熱心に授業に取り組んでもらえるか、欠席を減らせるか、この点を改善するために、引き続き学生に英語学習の重要性を強調するとともに、英語の魅力を分かりやすく説明したいと思う。

4、授業改善のための取り組み

学生にもっと授業に熱心に取り組んでもらうために、今後も学生の興味を引くようなプリントを補助教材で使うことも考えたい。テキストが、かなりの分量なので、なかなか時間的な余裕はないかもしれないが、より効果的に授業を進めることで、補助教材を使う時間を工面したいと思う。またその説明の際に、あまり細かいことには立ち入らず、要点をかなり絞って説明するように心がけようと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	佐々木 優		
科目名	博物館資料保存論		
受講者数	5	成績評価した学生数	5
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	5

1、授業の概要

本講義では、博物館学のカリキュラム理念をふまえた上で、博物館での資料保存および保存環境に関することを科学的にとらえ、博物館資料を良好な状態で保存していくための基礎知識の習得を目指し、講義は、資料保存への理解と基本的な対応策、各館の事例を確認しながら展開した。学生がさまざまな事例に対し、自分の意見を述べられるようになることを最終目標としたため、授業の最後には必ず自分の意見を短い文章でまとめたりアクションペーパーを提出してもらった。教材には、教科書として使える文献のほか、最新の文化財ニュース等も紹介し、理論と現場をつなぐ知識の獲得を意図した。

2、成果

本講義では、授業概要に沿って博物館の資料保存に関する基礎的事項の理解と、各自が資料保存の意義について自分なりの意見を持つことを重視して授業を進行した。

授業は、講師が作成したプリントとパワーポイントを中心に展開し、一般的に教科書や概説書には記載されにくい実践的な事例や、文化財に関するニュースも適宜盛り込むことで、より実践的な視点からの学びを提供した。なお、基本に立ち戻りたい時に参照すべき、教科書的な文献については適宜紹介した。学生からはタイムリーなニュースや具体例を示した内容が好評で、資料保存への関心や理解の深まりが見られたように感じた。

3、解決すべき課題（含、分析）

本講義を実施するにあたり、教員側の課題として以下の点を認識した。まず、教室内機器の操作に不慣れな場面があり、授業進行中の一部対応に時間を要することがあった。円滑な授業運営のために次年度以降は改善したい。また、多くの受講生にとって、講義内で使用する用語や前提知識に馴染みのないものが多く含まれていたようだった。これにより、一部の内容が十分に伝わりづらいと感じる場面もあり、概念の導入や用語の説明に一層の工夫が求められると考えている。

4、授業改善のための取り組み

来年度の授業においては、毎回の授業冒頭に当日の学習目標と要点を明示し、学生が授業の全体像を把握したうえで受講できるように配慮する。これにより学習への集中度と内容理解の向上を図る。あわせて、図版・写真・映像などの視覚資料をより効果的に活用し、実物資料との関係性を可視化することで、学生に理解しやすい授業構成を目指す。

また、学生アンケートにおいて、予習・復習時間の確保が課題として示された点を受け、授業末に実施するコメントシートやミニ課題については、単なる振り返りにとどまらず、次回の授業との接続を意識しながら記述してもらい、継続的な学習サイクルの定着を促す仕組みのひとつとして活用していきたいと考えている。

授業改善計画書（学部）

担当者	佐藤 温子		
科目名	リトミックⅡ		
受講者数	14	成績評価した学生数	14
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	14

1、授業の概要

ダルクローズ教育の3本柱である「リズム運動」「ソルフエージュ」「即興演奏」を各活動の中にバランスよく取り入れながら、毎授業一つのサブジェクトに対して学習を進めていく。活動に応じて個、ペア、グループ、全体など学習形態を変えながら行った。また、1年間の学習のまとめとして、与えられた音楽の諸要素やイメージなどを楽譜や録音音源から分析し、身体を使って表現する「プラスチックアニメ」をグループで行った。

2、成果

学年や専攻が異なる学生で構成される授業のため、双方が積極的にコミュニケーションをとる活動を多く取り入れた。結果として早い段階で受講生同士の良いチームワークが生まれ、朗らかな雰囲気のもと、各活動がテンポよく行えた。そのため、関わり合いの中で自然に音を聴いて反応したり、互いに意見を出し合ってリズムや響きを形づくることのできた。

ダルクローズ教育は、音楽能力を高めるだけでなく、活動をする中で他者と関わり合い、精神と身体の調和をはかることも大きな目的の一つとされている。アンケートの自由記述にも「他学年、他学科の人と関わって楽しかった」という意見があり、単に音楽能力を高めることにとどまらず、音楽活動すること自体に意義を感じてもらえたことが大変喜ばしい。

3、解決すべき課題（含、分析）

前回に引き続き、「授業のための1週間あたりの予習・復習時間」にあてた時間が十分に行われていないと回答する学生が多かった。

授業の特性上自宅でできることが限られてはいるが、ダルクローズメソッドの文献学習や、即興演奏に関する課題を増やすなど、さらに学びが深められる工夫をしていきたい。

4、授業改善のための取り組み

各項目の回答は概ね良好ではあったが、学生にとってさらに豊かな学習時間となるように、個に即した指導方法を工夫し到達点を見極め、学習意欲や表現力を引き出せるよう努めていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	佐野 隆哉		
科目名	器楽表現（ピアノ）Ⅱ/Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ		
受講者数	28	成績評価した学生数	26
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	26

1、授業の概要

器楽表現Ⅱ及びⅣを受講した学生は、試験の課題となるバロック・古典派及びロマン派・近現代のピアノ作品に取り組み、同時にスケールメイトのスケール及びアルペジオも同時に学習した。

器楽表現Ⅵ及びⅧを受講した学生には、自由課題として各々の興味のある作品、そしてそれぞれの専攻に関わる作曲家の作品や、教職を希望する学生には初見の授業など、幅広く対応した。

2、成果

アンケートの設問2から7までは、概ね高い評価を得た。大学入学までにピアノに取り組んだ経験の差が大きく、レベルも様々な学生が多い中で、個人の技量や資質、意欲を鑑みた選曲、グレード選び（スケール及びアルペジオ）に一定の成果が現れたように感じる。

特にスケール、アルペジオは毎回のレッスンの課題として取り組んだ結果、殆どの生徒が全調に近い調性を弾きこなすことが出来るようになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケートの設問9から12は、主に生徒側の自身に対する評価の項目に当たるが、こちらの数値は大きくバラけた印象を持った。技術の個人差が多い中で、技量だけでなく、取り組む意欲も生徒によって大きな差が生まれているように感じた。技量のある生徒の意欲が比較的高い傾向にはあると思うが、技量があっても意欲の低い生徒が居たり、逆に技量はなくても熱心に取り組む生徒がいるように、現状はより複雑化しているように思う。

4、授業改善のための取り組み

上記の取り組みから、各個人のレベルに合わせたレッスンを試みているが、年々技術の差だけではなく、意欲の差も大きくなっているように感じている。全入学時代、そして情報も飽和状態の現代において、一つの芸術を極めるという視点を持つこと自体が難しい時代だからこそ、専攻、器楽表現にかかわらず幅広い対応を心がけていきたい。

その中でも資質を感じる生徒には、自身の経験から言えることや、より自由な提案など、その生徒に合わせた積極的な働きかけをしていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	品田 昭子		
科目名	歌曲演習Ⅱ（日本語）		
受講者数	12	成績評価した学生数	12
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	10

1、授業の概要

歌曲演習Ⅰでは、瀧廉太郎、山田耕筰から始まり橋本國彦、信時潔、平井康三郎、高田三郎、成田為三、大中寅二作品を取り上げ、各々作詩者と作曲者及び作品について調べて発表。詩の朗読、歌唱する。

歌曲演習Ⅱでは、中田喜直、團伊玖磨、小林秀雄、大中恩、別宮貞雄、木下牧子などの作品を取り上げた。最後の授業後には大学院生と合同で発表会をした。

2、成果

今年の学生は日本歌曲を初めて勉強する人も多く、色々な曲にまず触れてもらうことを第一として、日本歌曲に慣れ親しんでもらうことにし重きを置いた。

アンケート回答者が少なく、中でも積極的に授業に参加しない生徒が少数いて、予習時間が足りないと感じる学生が多かった。

3、解決すべき課題（含、分析）

今後の課題として、どれだけ日本歌曲に対して興味を持ってもらうかが大切かと思った。

4、授業改善のための取り組み

半数の学生が予習時間が足りないと感じている。なるべくたくさん曲を紹介して、興味を持ってもらえるよう、そして、日本人としてたくさん日本歌曲を演奏してもらいたい。色々な新しい曲も紹介していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	篠田 昌伸		
科目名	器楽表現(創作系ピアノⅡ/Ⅳ)		
受講者数	29	成績評価した学生数	29
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	29

1、授業の概要

20世紀以降に作曲された様々なピアノ曲を、学生のレベルに合わせて適宜選曲し、演奏実技のレッスンを個々に行う。通常のピアノ曲以外にも、ピアノの内部奏法やプリパレーションを使った楽曲も必ず習得する。

2、成果

学生各々が、それぞれのレベルに応じた現代のピアノ曲に触れることができ、その知識経験が、実際の創作に役立っているようであった。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生によっては出席が芳しくないことや、また与えた楽曲が学生のレベルに合わなかったことが、少々あった。またアンケートでは、しっかり予習（練習）ができていない学生もいた。

4、授業改善のための取り組み

出席については、厳しく指導、またメール等で連絡していく。個々の選曲に関しては、学生のレベルをさらに適格にはかるようにし、曲のストックも増やしていきたい。練習においては、学生にあった練習の方法を模索していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	澁川 ナタリ		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
受講者数	21名	成績評価した学生数	3名
アンケート回答者数	5名	単位取得学生数	20名

1、授業の概要

器楽・声楽・音楽教育専攻の学生を対象にピアノの実技指導を行っています。
テキスト(「スケールメイト」)と試験の課題曲範囲を中心に、個人に合わせて補教材や参考楽曲を取り入れながら授業を行いました。

2、成果

学生の習熟度に違いはあるものの、皆熱心に取り組み、音楽への理解・技術の修得の両面において個々人の成長が感じられました。
今回のアンケートでは、15項目中11項目で「5」、2項目で「4.80」、各1項目で「4.40」「3.40」、平均で「4.82」という数値となりました。とりわけ、適切な教材使用、教員の授業への熱意・工夫、誠実な対応といった点で5の評価となったことは、個人的にも心がけていた点でしたため嬉しく感じました。「初めての作曲家に会えた」「体の使い方を学べて充実した学びを得た」「学んだことが自分の専攻楽器にもいきた」との感想もありました。

3、解決すべき課題（含、分析）

今回のアンケートでは、学生自身の意欲や出席、理解度を評価する項目の数値が低い傾向にありました。1週間あたりの予習・復習時間の項目は「3.40」と最も低い数値となりましたが、これについては3が1～5時間、4が6～10時間、5が11時間以上との設問であったため、他の授業や専攻レッスンとの兼ね合いのなかではおおむね妥当な時間と考えています。
学生自身の意欲(4.80)と理解度(4.80)、出席(4.40)については、学生自身の自己評価の低さも含まれていると考えています。主体性を引き出し自信も高めることが課題と考えています。

4、授業改善のための取り組み

他の授業や専攻の練習を優先し、ピアノの練習時間が少なくなるのはやむを得ないところもありますが、ピアノの学習は専攻の演奏や音楽全般の理解にもつながる基礎力になります。そのことへの理解を促すとともにピアノ演奏の楽しさを伝え、おのずと練習時間が増えるように導けたらと思います。授業の予習・復習ポイントとともに、必要な練習時間についても伝えていきます。
また、学生の自己評価が低いという問題はレッスン内でも感じていたところですが、それぞれのレベルに合わせた教材や目標の設定、小さな上達を発見してほめる等の声掛けの工夫を通して、学生の苦手意識を軽減し、学ぶ意欲が増すよう意識して指導して参ります。

授業改善計画書（学部）

担当者	清水 あずみ		
科目名	リトミックⅡ		
受講者数	14名	成績評価した学生数	14名
アンケート回答者数	3名	単位取得学生数	13名

1、授業の概要

リトミックは音楽と動きを融合した音楽教育であるため、授業では実際に積極的に動きながら音楽の様々な課題にアプローチしていった。授業では、聴覚と筋肉運動感覚を一体化させ、身体を楽器のように使いながら、全身の筋肉や神経を通して身体の中に音楽的リズムを覚醒させ、心と身体の調和を目指した。この教育法の3本柱であるリズム運動、ソルフェージュ、即興をリンクさせたリトミックの体験を通して、音楽的なセンスを培っていき、演奏家、音楽教育者としての感性を深めていくことを目標として授業を行った。音楽的な課題としては、フレーズ、補足リズム、アナクルーシス・クルーシス・メタクルーシス、カノン等を取り上げた。また、学期末にはグループ創作にも取り組み、作品を発表する機会を設け、お互いに感想を交換し合った。

2、成果

音楽的課題にアプローチする際、まず身体的、感覚的に体験し、それから理論へとつなげていったため、学生は学習内容に興味を持ち、積極的に活動に参加していた。体験的な授業から多くのことを学んでいったと思われる。また、なるべく実践的な内容になるよう心がけたこともあり、授業中はポジティブな空気に包まれていた。それらが、アンケートの「授業に意欲的に取り組んだ：5.00」という結果につながったと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

リトミックの授業は、体験的・実践的な授業であり、実際の授業を通して、音楽を聴き、感じ、動き、歌い、考え、分析するというプロセスをたどるため、自習するという事はかなり困難である。そのため、アンケートの「授業のための1週間あたりの予習・復習時間は：3.00」のとおり予習・復習をあまりしていないと答えた学生もいた。今後は、授業内での経験を大切にしつつ、自分で取り組める課題を提示するなどして予習・復習にも積極的に取り組めるような体制づくりに努めたい。

4、授業改善のための取り組み

リトミックの授業は、授業内での個人の体験・経験を重視し、各々の音楽的感性を伸ばしていく。なるべくわかりやすい指導を心がけ、各々の反応を見ながら必要と思われる時はアドバイスをしよう努めた。それが、「授業に対する教員の熱意・工夫が感じられた：5.00」「授業の内容は十分に理解し、習得できた：5.00」という結果につながったと思われる。

授業改善計画書（学部）

担当者	白水 芳枝		
科目名	ピアノデュオ演習 B/D		
受講者数	16	成績評価した学生数	16
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	16

1、授業の概要

1台4手連弾と2台ピアノというピアノデュオという、最少人数でのアンサンブルを学びます。

他楽器とのアンサンブルとは違い、1台の楽器をシェアしたり、同じ音の出るピアノを使って演奏することは、相手の音をよく聴いて、呼吸や間、打鍵のタイミングまで見て感じて、合わせていくという難しさと楽しさがあります。

授業では、ペアを組んで曲を選び、それぞれが練習し、2人で合わせてきたものを、学生全員で聴いて意見し合い、更によくするためのアドバイスをしながら、切磋琢磨して高め合うという時間を持っています。

2、成果

今年度は8組16名を通年で授業しました。

それぞれ目的を持って、ピアノデュオと向き合ってくれたと思います。

始めからペアで授業を申し込んでくれた学生がほとんどで、パートナーと相談して、連弾と2台ピアノの作品をどのように選ぶかも含めて、よく考えて授業に臨んでくれました。合わせの時間を作って積極的に練習したり、曲のバックグラウンドや作品が作られた頃の世界情勢など、いろいろと調べてくるように伝えたことで、学生の専科でも応用できる勉強の仕方を学べたのではないかと思います。

3、解決すべき課題（含、分析）

2台のピアノだけでの授業ですので、授業で音源や図書館に行くことはないのですが、楽譜は図書館で探すように伝えていきますので、図書館での過ごし方、音源や動画を利用するなど、アドバイスしてあげたら良いかもしれません。

専科をピアノ以外に持つ学生は特に、練習時間を毎日1時間以上持つことはかなり大変かと思っておりますので、週に1～5時間持てれば良いのかな、と思っております。

4、授業改善のための取り組み

音楽に対して積極的になり、共にアンサンブルをする仲間を大切に想って、2人で一つの作品を作り上げる過程を楽しめる、そんな授業を通して、ピアノデュオを長く続けてくれたら良いな、と思っております。

授業改善計画書（学部）

担当者	杉山 雅宏		
科目名	教育相談		
受講者数	40	成績評価した学生数	40
アンケート回答者数	21	単位取得学生数	38

1、授業の概要

学校教育相談の基礎基本を学ぶため、いじめ、不登校、学級崩壊、虐待、自殺予防などホットな事例を取り上げ、教師が問題を抱える子どもにどう向き合うかをわかりやすく説明することを心がけた。

2、成果

事例は複数事例を組み合わせ、学生が現場で役立つような事例をたくさん紹介した。皆さん意見を積極的に書いてくれた。

3、解決すべき課題（含、分析）

他人事とは思わないようにする工夫が難しかった。

4、授業改善のための取り組み

あなたはその立場だったらどうしますか？という問いを投げかけるようにしたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	スタービレ ダニエーラ・エリカ ロッシ		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）I・II a		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	24	単位取得学生数	24

担当者	スタービレ ダニエーラ・エリカ ロッシ		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）I・II e		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	24	単位取得学生数	24

1、授業の概要

学生は1年間かけてイタリア語とイタリアの文化の基礎を築きました。授業では、学生はワークシート、ビデオ、歌、他の教科書のコピー、カードゲームなど、さまざまな教材を使用しました。教材は教科書で求められるスキルの理解と発達を助けるために教師によって選択され、作成されています。授業ではアクティブラーニングを採用しており、教師が用意したアクティビティに基づいて、学生はペアまたは小グループで積極的に協力しながら、イタリア語の使用とイタリア文化の理解を深めました。

2、成果

日常生活の簡単な会話ができるようになりました。
 どちらのクラスでも学生全員が優秀な成績を達成することができました。彼らはコースの試験に合格して学習コースに必要な単位を取得しているだけでなく、実際にイタリア語で自己紹介をしたり、人を招待したり、挨拶、日付、時計など日常生活で使用されるいくつかの表現を身につけることができました。

3、解決すべき課題（含、分析）

採用されている教科書は学生のニーズに適していない部分もあるため、変更を検討する必要があります。とっております。

4、授業改善のための取り組み

3の教材以外特にありません。

授業改善計画書（学部）

担当者	住友 郁治		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅵ・Ⅷ 器楽表現（ピアノ）Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅷ ピアノ実技AⅡ		
受講者数	28	成績評価した学生数	28
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	28

1、授業の概要

一般的にもよく聞かれる作品を、学生の状態に合わせ、演奏することにより詳しくなるだけでなく、その時代背景、作品のアナリゼなどを通して、理解を深めていくよう努めた。内容を理解することで見聞を広め、演奏体験することで、作品の理解を深めた。

2、成果

学生の評価は概ね良好であるが、曲や作品に対しての見聞が広がり、演奏を通して、新たな問題点、事柄等、提示することができ、学生もそれを認識して、経験を増やすことができたと考えている。

3、解決すべき課題（含、分析）

レッスン時間が守られていないと回答した生徒が一名いたことは残念である。地方レッスンのため、従来のレッスン日時にできないことに対する評価と思う。年度の最初の打ち合わせ時に、その曜日は、補講になる可能性が高いからと説明し、全て補講をするし、実際全て補講したのだが、学生側のやりくりも大変だったのだろう。今後、変更は少なくなるようにしたいと考える。

4、授業改善のための取り組み

音楽大学で音楽を4年間学び、卒業していく学生にとって、もちろん音楽的視野が広がることは当然の成果であると考えている。が、音楽を使ってどれだけ自分が成長できたか。音楽を表現し理解され、また周囲を理解できるか？自分がどれだけ苦しんだか？そのことが人を作り、国立音楽大学に学んで良かったと思うようになるのではないか。演奏とは自分だけで練習や研究を計画し、実行、反省しなければならない。簡単にできる How to はないし、自分だけでやらねばならない。その先に周りとの対話があることに、気づき、身につくよう指導していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	瀬上 和典		
科目名	外国語コミュニケーション（英語）Ⅱ		
受講者数	15	成績評価した学生数	15
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	15

1、授業の概要

教科書及び担当教員が作成した教材を用いて、文法を復習しながら英語を正確にインプット・アウトプットできるスキルの定着を目指した。

2、成果

アンケートに回答してくれた学生の理解度（設問 13）と満足度（設問 14）の平均が「5.00」で、授業の目標をある程度達成できたと感じられる。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生の予習・復習の時間（設問 11）の平均が「3.33」となっており、授業外学習についての活動や指示が不十分であったと考えられる。

4、授業改善のための取り組み

学生の授業外学習時間を増やすために、LMS も活用し学生が授業外でも積極的に勉強に取り組むことができる活動を増やしていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	相馬 杏奈		
科目名	シアターダンスⅡ		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	21

1、授業の概要

シアターダンスは、作品の世界観やストーリーを表現する総合ダンスです。
バレエ、ジャズダンスの基礎、ショーダンスに必要な柔軟性、筋力を養い、基礎ステップを習得しました。

2、成果

ダンスを通して全身を使って表現することで、自己アピール力、協調性、想像力が育まれたことと思います。
様々なミュージカル曲から、新たな音楽知識、リズム感も得られたと思います。
楽しそうに踊って下さる学生の皆さんから「心と体を一体として捉える」というダンス意義を改めて実感いたしました。

3、解決すべき課題（含、分析）

ダンス経験に大きな差がありました。

4、授業改善のための取り組み

ダンス未経験の学生にもより分かりやすく進行するため、細かくグループ分けをし、学生同士で練習し合う時間を設けたいと思います。

授業改善計画書（学部）

担当者	菌部 正人		
科目名	スポーツC【バドミントン】		
受講者数	28	成績評価した学生数	28
アンケート回答者数	22	単位取得学生数	24

1、授業の概要

本授業は、スポーツ種目（バドミントン）を教材とし、対面形式にてバドミンントンの基礎（道具、ルール、基礎技術、ゲームの実践的進行方法、等）と応用（ゲームに対する楽しみ方）を学んだ。加えて、自らの身体・運動・体力・健康の大切さを実感し、現状の体力の認識および今後の体力維持、生涯スポーツに対しての良いイメージの定着を目指した。授業中の教員や学生同士とのコミュニケーションの中から、良い人間関係構築への気づきを与え、円滑な社会生活の実践に役立てるなど、幅広い目標の達成も目指した。

2、成果

運動を実践することで自分の体力の無さを実感する学生がいたように感じた。また、バドミンントンの基礎知識等において、授業終了時には、多くの学生がルールやゲームの実践的進行方法を理解し、ゲームを楽しみながら実施することができたと思われる。このことは、授業の分かりやすさ（95.5%が分かりやすいと回答）、授業に対する教員の熱意・工夫（100.0%）、学生への誠実さ（100.0%）、授業への満足度（95.5%）などの多くのアンケート項目において、学生が高い評価を示していることから、ある程度の教育成果があったと考えている。今後もこの評価の継続が必要であると考えられた。

3、解決すべき課題（含、分析）

本授業において、授業開始時に健康に関する情報と授業への積極的参加度を高めるようなレクチャーやスポーツに関する時事的話題の提供を毎回実施している。スポーツ種目（バドミントン）の実践を主題として実施される特性上、予習および復習の要素の回答数がばらついていて、十分に予習・復習を行っていない者が22名中8名（36.4%）もいたことは、授業内での働きかけが欠けていたと考えられる。より徹底した日常生活に関わる予習・復習への学生意識の改善に努めていきたい。更に、授業内でも本アンケートに回答するよう伝えが実施されていない状況から、より多くの実施時間を設ける取り組みが必要である。

4、授業改善のための取り組み

スポーツの授業であるため、全体的なアンケート項目に対して高い評価を頂いたと考えている。また、アンケート項目3に対し、少しずつではあるが、授業内での工夫が成果として現れたと考えている。しかし、授業内における課題等の明確化、健康および体力・技術の獲得のため、今まで以上の予習・復習に勤めさせるよう授業内で工夫していきたい。毎回目標として掲げてはいるが、今後、この授業がただスポーツを実施する「楽しい」だけの授業にならないよう、規律の徹底、指導者としての態度、社会に出てからの実践的態度などを積極的に指導するようになりたい。最後に、健康を主題とする授業内容でありながら、本年の体育館内は暑さが厳しく、学生から「健康を害する環境」であったと報告された。

授業改善計画書（学部）

担当者	台信 遼		
科目名	ハーモニーⅣ		
受講者数	14	成績評価した学生数	14
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	14

1、授業の概要

前期ハーモニーⅢの内容をふまえて、四声体書法の学習を進めるとともに、借用和音をはじめとする多様な和音の特徴とその魅力について紹介した。また、学習した内容を実際の音楽と結びつけられるよう様々な楽譜の分析を行い、その結果をピアノ演奏や録音で確かめることで、聴覚上の理解を促した。

学期末の授業では、クラシック以外の音楽の和声的な特徴についても触れ、幅広いハーモニーの可能性を学生に伝えることを目指した。

2、成果

前年度からの持ち上がりという利点を生かし、クラスの特徴に合わせた指導によって、二年間の授業の根幹となる内容を十分に理解させることができたと考えている。学生へのアンケートにおいても、提出物への対応、授業のポイントや工夫、満足度等への高い評価からも、それらがある程度裏付けられた。

3、解決すべき課題（含、分析）

オンライン上での授業アンケートの実施を促す案内が不足していたために、アンケートの回答数がこれまでより大幅に少なくなったことが反省点である。適切に授業を改善していくために、学生からのフィードバックは欠かせない。

4、授業改善のための取り組み

「学内外施設・設備の使用」という項目はこれまであまり意識していなかったが、多角的なハーモニー学習のために、映像の活用や学生自身による実演などの新たな方法も検討してみたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	高荒 真采		
科目名	鍵盤楽器講義(楽曲分析概論)02		
受講者数	22	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	1	単位取得学生数	22

1、授業の概要

鍵盤楽器専修の1年生を対象に、半期の授業を行った。

楽器を演奏するときの解釈のよりどころとなるように、重要なレパートリーである古典派やロマン派の鍵盤楽器のための作品を中心に、和声や形式の初歩を学んだ。

また、学んだ知識を単に暗記で終わらせるのではなく、能動的に知識を使うきっかけを作るために、授業で学んだ内容を使って作曲する課題を課した。

2、成果

ある音楽を語るうえで、表面的な雰囲気語るだけでなく、根拠に基づいた分析や説明ができるようになった。

音楽を説明するための語彙が身についた。

専攻の性質上、自分自身の演奏について考える時間が多いなか、授業では、音楽や演奏に耳を澄まし、考えながら音楽を聴くという経験ができた。

3、解決すべき課題（含、分析）

楽曲分析を「難しく、ピアノに関係ないもの」ととらえ苦手意識を示す学生が見られた。教科書が分厚くて重いと相談を受けた。クラス内で既習と未習の学生が両方いたので、一つのクラスの中でも習熟度や興味関心に差があった。

普段から楽器の練習に多くの時間をさく学生にとって、音楽を机の上で学問のようにして学ぶことに抵抗を持つのも、自然な反応である。楽曲分析にかかわる知識がどのように役立ち、いかに必要であるのかを、学生と一緒に位置づけることが重要である。

4、授業改善のための取り組み

楽曲分析が、演奏につながる知識であることを意識させるために、授業内でピアノを使ったり、演奏で発表させたりする時間をとった。

それぞれの習熟度に合わせて学習が進められるよう、幅広いレベルの課題を用意した。

宿題が負担になりすぎないように、授業内で個人的に課題を実施する時間を取った。

この授業が、新しい知識を得るきっかけになれば良いし、「音楽について考えてみる」入門になるよう、今後も学生の様子をよく見ながら進めていこうと考えている。

授業改善計画書（学部）

担当者	高尾 郁江		
科目名	専門実技（ピアノ）ⅣⅥ 器楽表現ⅡⅣⅥⅧ		
受講者数	23	成績評価した学生数	23
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	21

1、授業の概要

専門実技においては、前期及び後期の試験曲を中心にレッスンをを行った。
器楽表現Ⅱ～Ⅵにおいては後期の実技試験にむけて、試験曲になり得る楽曲を複数取り上げ、レパートリーの選択肢を増やした。
器楽表現Ⅵ～Ⅷにおいては、個々の目的に合った課題、例えば教職課程に必要な伴奏付けや、歌唱の伴奏、専攻のピアノ伴奏パートも課題として取り組んだ。

2、成果

専門実技、とりわけベートーヴェンのピアノソナタについては、各楽章の特徴や調性の選択、様々な作曲法を他のソナタと比較しながら例に出し、理解を深めて演奏のイメージへ繋げることができたのではないかと考える。
器楽表現においては、演奏技術および表現力において、苦勞しながらも成長が見られた学生がいた。回答率が5/23のため、数値で全体像を図ることができないが、「10. 意欲的に取り組んだ」は「3」が平均値であった。

3、解決すべき課題（含、分析）

専門実技においては、指の故障と付き合いながら取り組む学生がおり、今後も慎重に向き合う必要がある。
教職課程履修者の器楽表現は、読譜力や演奏技術をさらに養わなければならないと痛感すると共に、音楽を表現に対する喜びや心からの感動を実感してもらいたい。
試験に向けて、暗譜への苦手意識を持つ学生に対してのレッスンを、さらに工夫する必要がある。

4、授業改善のための取り組み

学生一人一人のピアノに対する経験値は様々で、それぞれに合った選曲及び学習方法を引き続き模索していきたい。
読譜力向上のためには、今一度楽譜への書き込みの仕方、音名ではなく記号化して見やすい楽譜にする工夫を促す必要がある。メロディーライン、バスの進行を実際に声に出して歌わせるという訓練を実施し、やがて視覚的な情報を離れ、手の動きと耳、そして脳内で流れる歌が合致し暗譜に繋がるように工夫したい。何となくぼんやりとした楽曲のイメージを、具体例とともに「言語化」し、教員と学生が対話し共有することで表現力の幅を広げていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	高尾 隆		
科目名	演劇の世界B		
受講者数	34	成績評価した学生数	34
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	22

1、授業の概要

表現の準備となるストレッチやマッサージなどによる身体の緊張緩和と柔軟性の向上、身体的コミュニケーションや協力をとまなうゲームやアクティビティ、物語の構造について学ぶ集団創作実習、演技の基礎を学ぶインプロヴィゼーション実習、戯曲を用いたモノログ実習、戯曲を用いた演技実習などをおこなった。

2、成果

オペラやミュージカルのために演技の知識や技術を身につける必要がある学生達に、さまざまな演技論を紹介し、自分の演技を深め広げるやり方を実際に身体を動かしながら探ってもらえたように思う。また、演劇や演技についてほとんど知識や経験のない学生にも、演劇の創り手が何をどのように考えて創作をしているのか、その一端を知ってもらうことができ、観客の視点だけでなく演劇を見る新たな視点を得てもらえたと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

予習・復習に十分な時間をかけられていないことに課題がある。実習の内容について、授業の前後に自分一人で何ができるのかがよくわからず、時間と労力をじっくりかけて予習・復習できなかった学生もいるように思う。

4、授業改善のための取り組み

自分でも興味を持って進んで学んでいきたいと思ってもらえるように授業の内容をより充実したものに加えて、予習・復習にふさわしい課題を出すこと、演劇公演、映画、文献を紹介すること、実習のフィードバックを復習につなげられるような形でおこなうことをさらに積極的に進めていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	田中 悠一郎		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅵ 器楽表現（ピアノ）Ⅱ		
受講者数	19	成績評価した学生数	18
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	18

1、授業の概要

専門実技（ピアノ）Ⅵは学部のピアノ専攻3年次の個人レッスン（週あたり1回60分）
器楽表現（ピアノ）Ⅱは学部の副科ピアノ1年次の個人レッスン（週あたり1回15分・音楽教育専攻は週あたり1回30分）

2、成果

それぞれの学生のレベルに沿った指導を行い、成果をあげられた。学生も粘り強く課題に取り組んできた。アンケートからも概ね授業に対する評価を得られた（設問3, 4, 6, 8など）。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問11の「予習時間」が少ないということは授業での成果を大きく左右するものであることから、より具体的で分かりやすい課題内容、また動機付けの部分を工夫していきたい。
設問7の「学内外設備の使用」であるが、アンサンブル室など、普段と異なる環境・緊張感の中で演奏出来るよう、試験の前などの試演会などで活用していきたい。

4、授業改善のための取り組み

音楽教育専攻以外の器楽表現は週あたり15分であり、ポイントを絞って効率的にレッスンをすることが必要と思われる。その限られた時間内でより効果を出そう、吸収しようという意欲がある学生ほど、より成果を挙げることが出来たように思われる。次年度はそのように意識させることが出来るよう、働きかけていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	田中 理恵子		
科目名	人間と文化 B		
受講者数	35	成績評価した学生数	34
アンケート回答者数	12	単位取得学生数	34

1、授業の概要

この授業は、「応用人類学」の（経験的な観点から世界各地の文化社会を捉えなおす）議論や手法を土台として、およそ2部構成で実施しました。1部では、現代における文化の衝突や融合をめぐる問題系について、身近な素材（例：マクドナルド化する社会、SNSのつながり、アニメやSFにみる多様な現実など）から、国際問題（格差社会、人間と自然など）まで、幅広いテーマについて学習しました。2部では、それらのテーマに関するテキストを読み、話し合い、考える、という作業を教員とともに取り組んだ。以上を通して、授業で扱った諸テーマに対して、各自が自分なりの視点を獲得することを目指しました。

2、成果

この授業では、身近な課題や多くの映像資料を扱いましたが、これらに対しては学生たちの関心が高く、知らない地域の文化社会を理解するための素材として、大変有効だと感じました。授業内の発表・最終課題・アンケートの結果からは、履修生たちが世界各地のさまざまな文化社会に対して、新たな知見を得ることができたと同時に、異なる社会文化のなかに、自分と共通するテーマを見出すこともできたという印象を受けました。

一方、今年度は新たに「テキストを読む」という作業を試みましたが、テキストに対して苦手意識を持っている学生が多い印象でしたが、だからこそ、皆で少しずつテキストを読んでみる、という作業を行ったことは、有意義であったように思います。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業で扱うテーマや難易度について、検討の余地があると考えます。

昨年度の講義では、問題意識の高い学生が複数いたため、今年度はテーマを広げ、また難易度を少し上げてみました（身近な素材を入り口として、より抽象的で難易度の高い問題までを扱うようにしました）。

ですが、毎授業後に提出する授業コメントなどをみると、学生それぞれの問題関心が異なるためか、テーマによって、学生の取り組み度に温度差が生じたようでした。

4、授業改善のための取り組み

来年度の授業では、初回の授業でアンケートをとり、学生の関心に合わせたテーマ選択などを試みたいと考えます（記述式でのアンケートは、回答がしづらいかと思いますので、授業で扱うキーワードを列挙し、関心のあるものに丸をする、などの方法をとってみます）。

また、テキストを読むことや、グループ発表については、苦手意識を感じる学生もいるようですが、それを克服できるような形で、実施できたらと考えています（今年度も、実際には、教員と対話しながらプレゼンする、という手法をとってはいるのですが、「読む」「プレゼン」と言うだけで、「ムリ！」と拒否反応を示す学生もいました。実際にはしっかり取り組んでいたので、橋渡しができたらと思います）。

授業改善計画書（学部）

担当者	谷口 昭弘		
科目名	音楽情報を読み解く I		
受講者数	9	成績評価した学生数	9
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	9

1、授業の概要

教員または学生の希望で選んだ音楽関連書式を全員で読み、毎回の授業の前に、その内容について「共感できること・できないこと」または「疑問に感じたこと」、「議論したいこと」などを課題として提出させ、その内容をまとめたプリントを作成・配布する。授業では、この「まとめプリント」をもとに、学生が書いた意図を尋ねたり補足説明を行い、その後「議論したいこと」を実際に授業内で議論する。

2、成果

最初はなかなか発言しづらい様子ではあったが、少しずつ打ち解けて、話しやすい環境ができてきた。特に教員対学生だけでなく、学生同士のやり取りも活発になった。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生同士のやり取りも活発ではあったが、その内容が、ややもすると雑談になってしまうところもある。もちろん雑談もできるような環境を与える意義もあるが、もう少し授業内容に即した発言が多くでると理想ではあると感じている。また予習時間に十分時間が少なかったと感じている学生について3と答えている学生が50%になっているが、読書課題をきちんとやっていない可能性はあるだろう。

4、授業改善のための取り組み

できるだけ補足説明を丁寧にしたりと、適切は発問により、よりよい議論の場を提供できるようにしたい。また、読書課題において、何を目的に読むのかを、より明確にしてみたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	中明 佳代		
科目名	ソルフェージュⅣ		
受講者数	20	成績評価した学生数	19
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	17

1、授業の概要

視唱、リズム、読譜、聴音等、個々の練習だけでなく、受講者同士関わり合いながら授業を行った。ダルクロワズメソッドの手法を用いて、音の動きや音程、リズムなどを身体の動きを伴いながら体験し、身体と頭で音楽の要素を学べるよう指導した。

2、成果

アンケート（10）の結果や、授業についての感想からもみられるように、ほとんどの学生が授業に意欲的に、そして能動的に取り組む姿勢が見られた。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート（11）では予習・復習の時間を十分に取らなかった学生が多かった。何度か視唱やリズムの小テストは実施していたものの、宿題など家で必ずやる課題を出していなかったことが原因であると考えられる。

4、授業改善のための取り組み

今後、学生自身が必要に応じて自由に家で取り組めるような課題を用意していこうと考える。

授業改善計画書（学部）

担当者	中村 仁		
科目名	ドイツ語文法初級B／ドイツ語初級（文法）B		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	14

1、授業の概要

ドイツ語を習得する基礎となるドイツ語文法を学ぶ授業である。授業の流れとしては、まず最初に発音練習を行い、次いで文法事項の解説を行った後、教科書の問題練習を行った。答え合わせは個別チェックを行い、間違えた箇所はやり直しをさせ、全問正解となるまで取り組ませた。早く終わった学生にはプリントを配り、さらに多くの問題にあたらせた。

2、成果

答え合わせで個人チェックをされるため、学生は否応なしに全問題に取り組まざるを得ない状況に置かれていた。このことが学習内容の理解に大きく貢献したと思われる（設問6、10）。また学生により解答速度も違うため、各自マイペースで問題に取り組める利点があった。

3、解決すべき課題（含、分析）

自宅での学習の取り組みがあまりなされていないようである（設問11）。これは「学習内容を授業内で理解してもらおう」という方針のもとで授業を進めてきたことにも一因があるが、解決すべき問題である。

4、授業改善のための取り組み

個人指導という方法は効果が認められるため、今後も可能な限り継続していきたい。また、語学の習得には日々の学習が大切なので、自宅での学習はとても重要となる。自宅学習を推進するために、課題や小テストなどを課して、自宅での学習習慣を身につけさせていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	中村 仁美		
科目名	日本伝統音楽表現（雅楽）Ⅱ		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	17

1、授業の概要

世界最古のオーケストラともいわれる合奏音楽雅楽について、前期に管楽器の笙・箏・篳篥・龍笛のいずれかを学んだ学生が、平調・双調の小曲の唱歌、楽器奏法を学んだ。また、打楽器の鞆鼓・太鼓・鉦鼓について、絃楽器の琵琶・箏についても奏法の初歩を学習し、管楽器に打楽器などを入れた合奏経験を踏む機会を増やした。西洋音楽とは異なる雅楽の音楽の成り立ち、時間の流れを演奏を通じて学んだ。

2、成果

笙・箏・龍笛いずれか選択した楽器について、楽器の扱い方に慣れ、長い時間吹き続けるようになる、合竹を覚える、楽譜と実音や指使いの関係を理解するなど、演奏の上達が見られた。合奏経験が増えることにより、他の楽器を聞きながら吹くことも少しずつできるようになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

実技主体の授業のため、雅楽に関する知識を伝える時間が余り取れなかった。また自ら考えて学びを進める自主性を持たせることが難しい。
予習・復習を行わなかった学生の比率が高かった。予習は必要ないが、復習によって楽器に触る時間を増やした方がより上達する。雅楽の管楽器の内、特に龍笛や箏は音が大きくて自宅での練習が難しいことも一つの原因と考えられる。

4、授業改善のための取り組み

楽器練習の合間に、雅楽の構造、音律やリズムなどの音楽性について伝える。また問いかけによりまずは考えさせるように仕向けたい。
自宅では雅楽の管楽器の楽器を吹くことと同時に、歌で学ぶ唱歌を歌うことを勧める。また録音を聞くなどの方法も提示して、復習の大切さを伝える。
達成しやすいような小さな目標を提示する。

授業改善計画書（学部）

担当者	中矢 慎子		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）IV		
受講者数	23	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	21

1、授業の概要

週2回の授業のうち、1回を担当しました。授業では、4技能をバランス良く身につけることを目標としました。聞く練習では「聞く力」を養うことを大切に、それを「話す力」へと結びつけられること、また読む練習では「和訳」ではなく、内容を理解することに重点を置き、理解した内容をイタリア語で表すことができるよう心がけて指導しました。

2、成果

学生たちは概ね意欲的に授業に取り組んでいたと思います。聞く練習では聞き取れない部分にとらわれることなく、聞き取れた内容をグループやペアで意見交換しながら、最終的に理解につなげることができました。読む練習においても、イタリア語の特徴を理解した上で、内容を理解に努めようとする姿が見られました。アンケートの各項目の評価は平均して 4.50 以上であり学生たちの教師や授業に対する満足度は概ね高かったと考えます。

3、解決すべき課題（含、分析）

11「授業のための1週間あたりの予習・復習時間」が2.33ポイント（30-60分）と最低でしたが、専科の授業や活動が忙しい音大生の生活を考えるとやむを得ないと思います。また、2年生で出席が足りずに単位を取得できなかった学生が1名いたのは残念でした。さらに別の2年の学生1名も、昨年度の学習事項がほとんど身につけていなかったため、今年度の学習目標にも遠く及びませんでした。この学生の相談にも何回かのりましたが、結局、学習意欲を持たせることができず、根本的な解決には至らなかったことは残念です。

4、授業改善のための取り組み

意欲的に学習に取り組んでもらえるよう、これからも学生を中心に据え、また学生に寄り添った授業運営を行うよう心がけたいです。そのために学生自身に考えさせるような問いかけをしたり、間違ふことは悪いことではなく、むしろ語学学習においては必要なステップであることを理解してもらい、間違いを恐れることなく、積極的にイタリア語に取り組んでもらえるように努めたいと思っています。

また、基本的な語彙が習得できていない学生は成績も学習意欲も低いことが多いため、なるべく授業内で重要な語彙を反復利用し、学生に覚えてもらえるように工夫したい。

授業改善計画書（学部）

担当者	中安 義雄		
科目名	ハーモニーⅡ		
受講者数	17	成績評価した学生数	15
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	15

1、授業の概要

演奏科、特に管弦楽器の学生たち中心のクラスで、四声体和声の書法や、和声的なアプローチを中心に楽曲分析を学ぶ授業。オーケストラの曲だけでなく歌曲の分析も行い、歌詞と和声進行の関係を見出し、各自の演奏にも活かせるような説明に努めた。初回の授業では例年より丁寧な説明、以降の授業では例年よりも次週に回す課題やその復習時間を設けるなど、知識が積み重なっていくように努めた。

2、成果

毎年質問 11 には復習を十分行っていると答える学生はいなかったが、今年度は 6 人中 1 人が 5 を回答していて、実際に授業進行中でも各自の復習により急な成長を見せる学生が何人かいた。全体的に 4, 5 と回答している学生が多く、今年度は授業に積極的に参加していた学生が多かった。

3、解決すべき課題（含、分析）

前述したように授業の予習・復習の時間を設ける学生がいるとはいえ、少数であることには変わらない。

4、授業改善のための取り組み

宿題を出すときは長い課題 2, 3 個を出しているが、短い課題を複数出すことも考えていいのかもしれない。

授業改善計画書（学部）

担当者	名雪 裕伸		
科目名	専門実技(フルート) II/IV/VI		
受講者数	5名	成績評価した学生数	5名
アンケート回答者数	5名	単位取得学生数	5名

1、授業の概要

フルートの技術の習得（向上）とフルート音楽(音楽全般)の研究。

2、成果

各学生に合った演奏向上のための教則本や楽曲を勧めたことにより、フルートの演奏が向上し、演奏する楽曲の研究に於いて、作曲家の意図を伝える表現力も出せるようになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

アナリーゼの仕方や、高いレベルでの演奏の可能性を意識させて、聴き手の心を掴むには何をすれば良いかを自分で考えられるように導いて行きたい。

4、授業改善のための取り組み

時期によりレッスンのための予習(練習)が十分にできないことがあるので、大学のスケジュールなどを見ながら取り組んで行きたい。また、習ったことをその日のうちに身体に染み込ませる事ができるように指導して行く。

授業改善計画書（学部）

担当者	難波 知希		
科目名	特別活動・総合的な学習の時間指導法		
受講者数	69	成績評価した学生数	68
アンケート回答者数	9	単位取得学生数	61

1、授業の概要

学校で行われる教育活動のなかで、教科外教育に位置を占める「特別活動」と「総合的な学習の時間」について、その理論と指導法の概説を行った。各回の授業では、①視聴覚教材の活用、②（復習として）前回の授業内容に関する発問、③ワークシートを利用した個人ワーク、④リアクションペーパーの出題とフィードバック、⑤教科書への書き込みの指示、⑥プリント中の空欄の穴埋めなど、アクティブ・ラーニングの手法も採り入れつつ、学生の理解が十分に深まるよう配慮した進行を心がけた。

2、成果

アンケート結果における授業内容の理解度を尋ねる項目の最頻値は「5」であった。完璧な理解には及ばなかったとする回答もあったが、多くの学生の理解は十分に深められたと考えてよいだろう。授業を受けて視野が広がったとする回答も多く見られ（最頻値は「5」）、学生の思考を促すことのできる授業を行えたと考えている。各回のリアクションペーパーの回答を見ても、授業内容をもとに自身の考えを深めている学生が多いことが分かり、手ごたえを感じている。とはいえ、さらなる授業の改善も必要である。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート結果において、唯一十分な評価が得られなかった項目は、授業のための予習・復習時間を尋ねる項目である（「3」以下も目立つ）。各回の授業で課しているリアクションペーパーへの回答準備に充てる時間では不足していたようで、別途授業外学習を促す工夫を考案したい。授業外学習を促すためには、教材の提示のみならず、モチベーションを高めるためのインセンティブが必要なように思われる。各回の授業への取り組みの意欲向上と併せて、どのようなことが可能か模索したい。

4、授業改善のための取り組み

授業の改善のために取り組みたいことはいくつかあるが、例えば参考資料の提示の仕方はもう少し工夫したい。単に文献名や Web サイトの URL を提示するだけでなく、その文章の一部を抽出して提示したり、担当者による解題をつけたりして、よりアクセシブルな提示の仕方を考えたい。また、学生の理解をさらに深めるために、配布プリントの仕様も改めたいと考えている。ユニバーサル・デザインを念頭に置いた仕様とすることは既に心がけているが、モチベーションを高められるような工夫を考案するなど、次年度に向け準備を進めていきたい。授業の形態によっても、学生の理解度は変わってくるものと考えられる。最適な授業を提供できるよう、次年度も努めてまいりたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	長谷川 正規		
科目名	教科研究（指揮法）		
受講者数	56	成績評価した学生数	52
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	52

1、授業の概要

この授業は、集中講義として3日間にわたり実施している。

指揮の基本的な技術を修得し演奏表現ができること、また教育現場等において音楽的意図をもって合唱や合奏を指揮できるようになることを目標とする授業である。基本的にはピアノ1台または2台に向かって指揮するが、受講者の合唱を指揮する場面も設けている。

2、成果

授業開始時に行ったアンケートによれば、履修者のうち8割強は指揮を全く経験したことが無い。そのため初歩の理論から始めることになるが、履修者の音楽的知識や経験と指揮が結びつくように配慮することで、効率的に指揮の基礎的な技術を身に付けさせることができた。授業に関するアンケートでは「授業（レッスン）の内容は十分に理解し、習得できた」の評価が3～5の範囲で平均が4.29、「総合的に判断して、この授業（レッスン）に満足している」の評価が4～5の範囲で平均が4.71と概ね高かった。

3、解決すべき課題（含、分析）

3日間のうちに学ぶべき内容が多いため、事前にテキストの楽譜や文章をある程度把握してきてもらう必要がある。学生によってはスコアを読むことに慣れない者や、説明を体の動きに結び付けるのに時間が必要と思われる者がみられた。授業に関するアンケートの結果でも「予習・復習時間」の平均が1.86のため、この点を改善する余地があると思われる。

一部ではあるが指揮台に立つこと自体に抵抗を感じる者もあった。シラバスで周知してある指揮棒やテキストを事前に準備せず、授業が始まって複数名で共有する例があった。

4、授業改善のための取り組み

本授業では連絡や資料共有のために Classroom を設定しているが、今年度は学生への周知が授業開始の直前となっていた。来年度は集中講義が開始する1か月以上前に Classroom を設定し、授業に必要なものとテキストで予習すべき範囲等を告知したい。特に初歩の技術とスコアの読み方に関しては、授業以前に提示しておき、事前学習がスムーズに進む支援を行う。

授業改善計画書

担当者	早坂 牧子		
科目名	外国語コミュニケーションⅡ (1)		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	12	単位取得学生数	21

1、授業の概要

大学生に必要な英語の4技能をバランスよく伸ばすため、火曜はコミュニケーション重視、金曜は文法とプレゼンテーション中心の学習を行う。早坂の金曜クラスでは、毎週簡単な会話の練習から始め、前週の文法項目の復習テストと答え合わせ、新たな文法項目の導入、前週課題に出たプレゼンテーション原稿の読み合い、教科書掲載のリスニングと読解の練習をし、課題として次週までに文法クイズの練習とプレゼンテーション原稿の執筆を課すパターンで毎週の授業を行った。時には簡単な音楽用語を使った音大生ならではの会話練習、マスタークラスやコンクールのインタビュー映像を利用したリスニング練習も取り入れた。

2、成果

毎回週末の予定やその週にあったことなどを英語で話し合う活動を行ったため、限られた語彙や文法でも和気藹々と会話をしている様子が見えかけた。また、音大生に特に英語が苦手な学生が多い理由として、中高までの基礎的英語（特に文法）力を実質問われないまま入学を認められている現実があるが、アンケートで「とても楽しい授業だった（…）文法がとても苦手だったので、重点的にできてとてもよかった」という記述があったことに、一定の手ごたえを感じている。個人的に感想を聞いたところ、動画を使用したエクササイズも好評であった。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業アンケートからは、受講生がおおむね問題なく授業を履修できた様子が見えかけるが、「授業の内容・ポイントはわかりやすかった」に対して「3」を選択している学生が若干数いたことが気にかかる。文法の学習は教員の説明が多くなりがちであるので、アクティブラーニングの手法を取り入れながら、都度学生の理解度を丁寧に確認するようにしたい。

4、授業改善のための取り組み

上記に加え、アプリやオンライン上のリソースなど、自主学習の時間を自然と増やせるような手軽で魅力的な学習コンテンツを紹介していきたい。また、1・2限の英語という心理的ハードルが少しでも下がるよう、授業に来ること自体が楽しくなるようなティーチングを心掛けたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	平井 千絵		
科目名	鍵盤楽器学		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	17

1、授業の概要

鍵盤楽器の歴史と奏法、演奏習慣、楽器の構造、受容史を、4つの楽器に焦点を当てて、自ら調べ、4曲をとりあげて練習（グループワークと個人練習。毎週1回ずつグループ発表）、楽器学資料館で歴史的鍵盤楽器を使つての演奏発表（4種類の楽器での4回の実習と発表）を通して、現代ピアノでの演奏との相違点、類似点を学び、ピアノや電子オルガンという楽器の音楽史上の立ち位置を知り、具体的な演奏法や解釈を歴史的な観点から考え、自分の意見・解釈をまとめて演奏発表した。

2、成果

昨年度までの成果をふまえ、3～4回の授業で1種類の楽器にフォーカスするスタイルに変えた。準備回のもの、楽器学資料館での発表、という構成にしたことで、学生にとって目標が明確になり、授業準備がやりやすくなったことが、発表のクオリティや、学生たちの満足度、習得度が上がっていることを、演奏とレポートの質の向上から実感した。また、コミュニケーションを密にすることを心がけた結果、以下の変化が見られた。授業での発言者と質問者数の増加、演奏準備の質の向上、アンケート回収数の増加。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生たちが最も興味のある、自分の専攻楽器の演奏に活かせる気づきと学びのきっかけを、さらに多く提供できるようにしたい。
グループワークの中から出てきた声（質問になる前の独り言のような声や、つぶやき）を拾って、新しい問いを立てる時間の余裕を持たせ、来学期の授業計画を組む。

4、授業改善のための取り組み

過去3年間で、伝えたいことが多すぎて絞りきれず、学生たちが消化不良に陥っている授業回もあったことを反省し、余裕を持たせた内容で授業を組み、グループワークと発表を多く取り入れたことが、今年度の成果につながったように思う。
昨年度までの成果をふまえ、3～4回の授業で1種類の楽器にフォーカスするスタイルに変えたことで、準備回のもの、楽器学資料館での発表、という構成にしたことで、学生にとって目標が明確になり、授業準備がやりやすくなったことが、発表のクオリティや、学生たちの満足度、習得度が上がっていることを、演奏とレポートの質の向上から実感した。

授業改善計画書（学部）

担当者	福田 千絵		
科目名	日本音楽（近世邦楽）C		
受講者数	5	成績評価した学生数	4
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	4

1、授業の概要

箏曲を中心とした三曲（地歌・箏曲・尺八）の音楽について、それぞれの楽器の特徴、音楽種目の成り立ちと展開、現代における扱われ方を考察した。授業では関連音源を視聴する機会を多く設け、音楽の特徴および変遷を感じ取りながら考察できるように工夫した。

2、成果

授業は、おおむねシラバスに沿って行い、提出物の確認やリアクションペーパーに対するコメントを行ったが、その点については評価が高かった。意欲的に取り組んだ受講生が多かったことも評価に表れており、双方向的な授業が成立していたと考えられる。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業内容について、3の評価があった。これまでの和楽器経験が少ない受講生にとっては、耳慣れない用語が多く、理解が難しかった点があるかもしれない。

4、授業改善のための取り組み

今後は、用語をより丁寧に説明するなど、どの受講生にとっても分かりやすい授業を行っていきたい。音源を視聴して感じ取るだけでは個人差が大きいので、邦楽についての語彙を増やし、受講生が言葉で理解し説明できるように授業を工夫していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	藤井 玲南		
科目名	専門実技（声楽）Ⅱ/Ⅵ/Ⅷ 声楽表現Ⅱ/Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ 声楽特別演習Ⅳ		
受講者数	32	成績評価した学生数	32
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	32

1、授業の概要

主に発声の指導に力を入れ、身体の使い方を根気良く学んでもらった。声楽表現の学生にはイタリア歌曲と、必要に応じてコンコーネも使用した。また、学年末にはクラス発表会を開き、お互いの演奏を聴き合い学ぶ機会を設けた。

2、成果

それぞれ成長は感じられたが、とりわけ翌週のレッスンまでに自主的に学び、練習を重ねる学生からは大きな進歩を感じた。

3、解決すべき課題（含、分析）

予習・復習に関する項目11にて、十分に行われなかったとの結果がでている。特にグループレッスンでは自主性に欠ける場合が多く、グループ内で馴れ合いになってしまった傾向がある。

4、授業改善のための取り組み

レッスンを行う前に、声楽のみならず何事も能動的に学ぶことの大切さを伝える必要性を感じている。学年末に開いた発表会は、学生たちにとって大変良い刺激になったようだ。このような発表の機会を前期、後期と2回に増やすことも効果的かと思われる。

授業改善計画書（学部）

担当者	藤川 泰彰		
科目名	専門実技Ⅳ 声楽表現Ⅱ/Ⅳ 声楽実技 AⅣ		
受講者数	17	成績評価した学生数	15
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	17

1、授業の概要

発達段階に応じた声楽的基礎練習（発声/曲分析/技術向上のためのエクササイズ）など表現の上級生や専門実技生などにはそれぞれの技量に応じた課題を与え技能、知識、曲分析や解釈の深度を深めさせるような課題を継続的に与え、その成果を毎週のレッスンで確認することに努めた

2、成果

学生のそれぞれの個性に合わせた指導を心がけ、本人なりの上達の過程での満足感は得られているように見受けられる場面があったように思う

3、解決すべき課題（含、分析）

毎年のことだが、学生自身の自己育成に対する評価が低いことが気になっている。レッスン内容が強制ではなく自発的な修練や勉強につながる意識づけができる題材選びや指導法が求められると考える

4、授業改善のための取り組み

・興味を引き出す課題の与え方

歌詞の解釈や曲の成り立ち、その生まれた国の文化などを通して身近に捉えさせる

・知識を深め、更なる向上心を求めさせること（ネット・視聴覚教材の利用）

リアルな感覚を求めるためにネット上の映像や音源を積極的に利用するが、その使い方には注意が必要であると考え

授業改善計画書（学部）

担当者	藤原 規生		
科目名	音楽教育演習（合唱）Ⅱ/Ⅳ		
受講者数	57名	成績評価した学生数	57名
アンケート回答者数	16名	単位取得学生数	53名

1、授業の概要

古今東西の素晴らしい合唱作品を、幅広く取り上げ、音楽史の観点からも、また声楽作品の形態（ミサ曲、マドリガーレ、ア・カペラ、ピアノ伴奏つき）意識しながら授業を構築、展開した。演奏者として、教育者として、多くのものに触れるということの素晴らしさを体感してもらいたい想いを込めた。教職に於ける合唱ということも大切にし、「効果的なウォーミングアップ（授業の導入）」「効果的な発声練習」「効果的なパート練習」などの視点も取り入れ、常に考察し工夫すること、その実践を毎週の授業に取り入れた。そして「合唱のタベ」に向かって、全員で努力すること、それは演奏面のみならず、日頃の心構え、お客様を招くということは、など音楽をする上での本質的な取り組みについての共有も心掛けた。

2、成果

学生たちは音楽教育1年生、2年生、幼児教育1年生という専攻や学年を超えた関係を大切にし、大変朗らかにのびやかに授業に参加し、いつも歌声と活気の溢れる授業となった。

「効果的なウォーミングアップ」「効果的な発声練習」のコーナーでも積極的に学生たちに前に出してもらい、それぞれのアイデアを披露し、お互いを見つめ合う時間を設けた。また12月14日には「合唱のタベ」という大きな目標を掲げ、仲間たちとともに豊かな音楽体験をしてほしい、の思いも込め、プログラミング、指揮、ピアノ、プログラムの曲解説などの担当も積極的に多くの学生たちに活躍してもらえるように工夫を施した。とりわけモーツァルト「戴冠ミサ」では教育科の学生たちが本学大ホールでソリストを務め、ピアノ伴奏、指揮など、大曲への挑戦の中で、多くの学びと気づき、楽しみを見出したのは、とその成果を感じている。

3、解決すべき課題（含、分析）

合唱という授業は術科的要素もあり、学科的要素も持っている。それぞれの主科（専攻）ではないので、積極的な予習復習へのアプローチが薄いと感じられる、学生たちのアンケートにもその謙虚で正直な様子が伺える。

合唱を演奏するうえで、もしくは将来指導者として教師として役に立つような、合唱における準備ということ、これからも折に触れて、伝えていきたいと思う。主科ではないが音楽教科としての意識を高めるうえでも予習復習について、私自身も呼びかけていかなければならない、と感じている。一方、指揮、ピアノ伴奏、ソリスト、インペク、パートリーダーなどを務めた学生たちは、予習復習をしっかりと行い、授業全体を力強く支えてくれた、ことも申し添える。

4、授業改善のための取り組み

科、学年を超えた授業形態の中、学生たちの意欲的な参加により、毎週毎週、皆で高め合う授業を展開できたことは望外の喜びであり、学生たちの心に一つでも多く生涯にわたり、残ってくれるのなら嬉しい限りである。

学生たちは数年後には社会に音楽を通して貢献していかなければならない大切な人材である。社会から何が求められているのか、今後も学生たちに、そのことの意味や意義を問いかけながら、私も一層の学びの努力を深めていく所存である。

授業改善計画書（学部）

担当者	ヘンゼル シュテファン		
科目名	外国語コミュニケーション（ドイツ語）IV		
受講者数	10	成績評価した学生数	10
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	10

1、授業の概要

母国語話者との会話を通し基礎的なコミュニケーションに必要な表現を学ぶことで、実践的コミュニケーション能力の習得を目指す。2年生対象。リスニングとスピーキングに重点。

2、成果

シラバス上の計画に沿って授業は遂行。アンケート結果は、教員側の対応（学生からの質問や提出物への対応、誠実度、工夫）と授業進行のための資源（教材等）や活用の適切さ、ならびに、学生側からの反応（出席率、意欲、視野の拡大、理解度）は高評価を示していた。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生が予習と復習に割く時間の少なさが気になる点ではある（一週間の内、二名が1時間未満、一名が5時間未満と回答）。しかしながら、時間量に習得度が必ずしも反映されるとは限らないため、理解に至るまでの個々の学習スタイルが異なる点を鑑み、モチベーションを保てるようにドイツ語に接する機会の増加が望まれる。

4、授業改善のための取り組み

オンラインで取り組める課題に加え、時事問題に絡めて話題を展開する等、自習が定着できるような授業のアプローチを工夫したい。

授業改善計画書（学部）

担当者	堀田 麻子		
科目名	舞台表現技術演習（ボディテクニック）		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	17	単位取得学生数	17

1、授業の概要

フロアーでは足と上半身のストレッチ、腹筋・背筋・プランクの筋力トレーニングを行う。バーレッスンではバレエの動きを元に上半身や腕を動かして、足のステップを音楽に合わせて左右行う。

センターレッスンでは立つ（背伸び）や回転・軽いジャンプ・マイムやワルツなどを行う。

2、成果

全体的に結果は良く、身体や立ち姿勢アライメントもうまく出来ていた。

ただ、足を上げたりジャンプになると手と足だけで動かしたりしてしまうので、上半身を引き上げて背中を使い、呼吸と共に伸びあがることが大切だと伝えた。

3、解決すべき課題（含、分析）

・予習復習の時間

毎日でなくてもいいのでストレッチや筋トレを習慣にすると楽である事を伝えても、なかなかできない様子。

いい立ち姿勢を維持するには必要である。

4、授業改善のための取り組み

身体を動かす事が好きではなかったり、硬い学生だったりするほど取り組みにくいので、課題と称して少しずつ取り組ませるようにする。

授業改善計画書（学部）

担当者	堀田 万友美		
科目名	専門実技（ピアノ）Ⅳ 演奏実習（ピアノ）ⅡⅣⅥⅧ		
受講者数	26	成績評価した学生数	26
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	26

<p>1、授業の概要</p> <p>ここでは器楽表現クラスに限定して述べることにする。 シラバスに沿った課題曲を中心にした15～30分のピアノ個人レッスン。 身体から発する音づくりを意識し、ピアノという楽器をどう響かせるかを問い続けている。</p>
<p>2、成果</p> <p>少ない回答者数ではあるが、「レッスンに意欲的に取り組んだ」項目において4.71、「自身の視野が広がった」項目においては5.00と一定の成果を感じている。 (そのような学生のみがアンケートに回答したとも考えられるが)</p>
<p>3、解決すべき課題（含、分析）</p> <p>「レッスンのための予習・復習時間」に関する項目においては3.71と心もとない結果となった。また、「学内外施設の使用は有効であったか」という質問に対して1（有効でない）と答えた学生がおり、レッスン室外での活動または発表の場を望んでいたのかもしれないと分析している。</p>
<p>4、授業改善のための取り組み</p> <p>互いに切磋琢磨できる環境づくりが「予習復習時間」確保にもつながると考え、小規模グループレッスンを取り入れたい。昨年度末も同じように考えたが、学生たちの都合が合わず合同レッスン時間が思うようにとれなかった。4月初めのレッスン時間割り当て時に合同レッスンを視野に入れた時間割を心掛けたい。また、レッスン室外の活動として、試演会も年度初めに日程を確保し周知するようにしたい。</p>

授業改善計画書（学部）

担当者	前田 健治		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ 演奏実習(ピアノ)Ⅷ 器楽表現(ピアノ)Ⅱ/Ⅳ/Ⅵ/Ⅷ		
受講者数	16	成績評価した学生数	15
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	13

1、授業の概要

器楽表現に関してはスケールメイトで身体の使い方とともに基礎的なテクニック（運指、タッチ、調性感、ハーモニー感など）を養い、シラバスに沿った課題曲などでそれぞれの専攻にピアノの表現が活かされるレッスンを行った。

ピアノ実技レッスンでは、土台となる基礎を大切にしながら、演奏解釈とともに技術と表現がどのように身体と関わっているかを認識させながら、学生の自発的な表現を育てる工夫を図った。

2、成果

全体的に安定した評価を得ることが出来た。学生の自由記述には、「体の使い方、細かな表現、曲の背景、鍵盤のタッチの仕方などをとても丁寧に指導してくださりました。生徒のペースでじっくり、時には引っ張っていただき、とても感謝しても仕切れないほど素晴らしい指導を受けることができました」などの感想が書かれていた。また、講師側が与えること（レッスン内容、対応、熱意、工夫、進め方など）においてはほとんどが4と5の回答で高評価であった。

このような結果から、レベルの差や進度に応じて寄り添いながらレッスンを進めてきた成果が反映されていると実感出来た。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問10、11において、レッスンに意欲を持って取り組むことと、予習復習が関係する内容の回答が3～5に割れてしまったという結果が挙げられる。学生の事情で練習時間の確保が難しいなどの場合もあるが、それでも学生がレッスン受講にもっと意欲を持てるような環境づくりをさらに工夫していかなければならない。

これまで実践していることとしては、こちらが指摘するばかりではなく、学生側に自己観察をさせて（自己との向き合い）、日頃の取り組み方、演奏や表現などについて感じていることや気づきを客観的に伝えられるように施している。また、それぞれのレベルの差、生活環境の中でどのようにこちらが触発していくか、たった一言でも変わる場合もある。その時に何が必要かを慎重に学生と共に探求しながら導いていくことを大切にしたい。

4、授業改善のための取り組み

近年学生達の能力の二極化が進み、さらに多様性が顕著に表れている中で、より一層一人ひとりの目線に寄り添いながら懇切丁寧に指導し、導き続けていくことが最重要である。また、これまでどのように音楽と関わって学んできたのかを踏まえた上で、それぞれの立ち位置を認識させて問題を紐解いていく、最善の方向性を一緒に選択していくことに留意したい。そして、この国立音楽大学で学び得た体験や経験を卒業後にも活かしていけるように引き続き働きかけていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	松本 望		
科目名	鍵盤楽器講義（作品分析概論）		
受講者数	25	成績評価した学生数	23
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	23

1、授業の概要

鍵盤楽器専修の学生が1年次に履修する「鍵盤楽器講義（楽曲分析概論）」で学んだ楽曲形式や和声分析等が、実際の楽曲でどのように用いられているかを見て、検証していく授業である。バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンの鍵盤楽器作品の楽曲分析を中心に扱う。楽曲の形式の理解、和声分析などの基礎的な分析を実施し、そこから作曲家の狙いや演奏のための自分なりの解釈を導き出せるような考察を深めることを目指した。

2、成果

アンケートの結果から見ると、学生の授業に対する意欲や出席状況と、授業内容に対する到達度などの実感は高く（設問 9, 10, 14, 15）、楽曲分析で曲の内容を理解することの必要性とそこから自分なりの解釈を考える面白さはある程度伝わっているという印象を受けた。

その一方で、授業のための予習・復習時間についての回答（設問 11）の評価が良くなく、授業で興味を持った内容を授業外まで広げていくだけのモチベーションにあまり繋がっていないようで、その点に対する取り組みが必要だと感じている。

3、解決すべき課題（含、分析）

「2、成果」でも挙げた通り、授業時間外での予習・復習時間を増やせるような、こちらからの課題の提示が必要である。この点については、以前もアンケート評価が低かった点なので、それを受けて、授業の最後に次回の予習となるような簡単な宿題を適宜課したりはしているものの、授業外の学習時間を安定して増やすにはまだ不十分だと感じている。レポートなどの形で宿題の提出を多少強制させることも、内容の定着と授業外での自学自習の目的から必要ではないかと思う。

4、授業改善のための取り組み

限りある授業時間の中で、沢山の楽曲を部分的に扱っていくのか（その場合、残りの部分を宿題として分析させる）、楽曲の数をかなり絞って各曲について全体を細かく見ていくのかを、学生の能力と興味に合わせてもっと臨機応変に対応していきたい。以前に比べて個々の学生の基礎的な知識や能力の差が大きくなってきているような印象を受けることが多く、履修者が割と多い講義形式の授業では、どのくらいの課題であれば個々のレベルアップが図れるような結果になるのか、課題設定はより重要なものになってきていると感じている。

楽曲の一部を、学生個人個人が考えた解釈に則って分担して弾いてみるなど学生側が能動的に参加する機会を増やし、楽曲分析への興味を深めるとともに、最終的にはそこで考察したような内容を自分たちの実際の演奏に反映してほしいので、その繋がりを常に意識させるような授業内容、課題の出し方を考えていきたいと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	宮川 渉		
科目名	現代音楽研究 A		
受講者数	7	成績評価した学生数	7
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	7

1、授業の概要

この授業は一般的に現代音楽と呼ばれる第 2 次世界大戦後以降の西洋音楽に関する知識を深めることを目標とした。授業内容は二つの部分に分かれており、前半では現代音楽の大きな流れについて学び、後半では武満徹などの日本人作曲家、またスペクトル音楽に焦点を当てて現代音楽を探求した。

2、成果

アンケート回答者全員が、自身の知識・技術・考え方などの視野が広がった、この授業に満足していると回答しており、一定の成果はあったと考えている。同時代の他の音楽や他の芸術分野なども取り上げつつ現代音楽について考察することを意識的に行うことにより、受講者が現代音楽に関してあまり知識がなくても関心が持てる授業を行うことを目指したが、その成果も多少あったのではないかと考えている。

3、解決すべき課題（含、分析）

今回初めて本授業を担当したため、時間の流れの把握がよくできていなかった点が解決すべき課題である。1回の授業で用意した内容が1回で収まることがほとんどなく、計画していた内容から大きく遅れてしまった。

また予習・復習を十分に行わなかったというアンケート結果があり、もっと学生が積極的に学ぶ場を構築する必要があると反省している。

4、授業改善のための取り組み

3に記したように、計画していた授業内容が時間内に収まることをより意識して授業を組み立てていくことが必要であると考えます。

また学生が予習・復習を十分に行うために、レポートのような課題を出すことも考えている。

授業改善計画書（学部）

担当者	村上 千佳		
科目名	専門実技、器楽表現、ピアノ実技 A, B		
受講者数	20	成績評価した学生数	20
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	20

1、授業の概要

シラバスに添いながら、各学生のピアノの経験値、それぞれの希望、必要性に応じて課題を選択し、ピアノ実技の指導を行なった。指導内容としては、作品の時代背景や簡単な楽曲分析を交え、正しい楽譜の読み方を学んでもらい、楽曲の求める表現や意志、背景にあるものへの探究心や想像力を養うことを目的とした。その上で、自分が理解したこと、感じたことを、ピアノを通していかに的確に伝えられるか、そのための技術的指導を行なった。特に、和声をひとりで奏でられるピアノの特性を活かし、響きに対する感性を養うことに重きを置き、タッチと音の発生との結びつきを自覚するように促している。また、一年次器楽表現のクラスでは鍵盤楽器の変遷をテーマに楽器学資料館の見学を行い、学年末試験のない3、4年生には、モチベーション維持を目的に、年度末に試演会を設けた。

2、成果

とくに器楽表現のクラスでは、一人当たりのレッスン時間が短いこともあり、以前は、教師側の焦りから兎角一度にたくさんの情報を与えすぎる傾向があり、学生によっては混乱させてしまうこともあった。その反省から、今年度はできるだけ問題提起を一、二点に絞り、段階を踏むよう努力したつもりだが、アンケート設問3、4、5、6、14において、評価は5と4を得られたことから、こちらの思いは少なからずとも伝わったのではないかと思う。

3、解決すべき課題（含、分析）

受講者数20名にもかかわらず、アンケート回答者数が5名のみというのが気になった。もっとこちらから積極的に促す必要があると痛感している。

また、設問7において、一名から1の評価があったことも見逃してはならない。ただ、近年は学生のスケジュールに合わせるとどうしても皆が集まれる時間がなく、個人レッスンの時間も限られていることから、学内外施設・設備の使用をレッスンに取り入れることは難しい。

4、授業改善のための取り組み

学内外施設・設備の使用に関しては、今までも個々には具体的資料なども紹介しながら図書館の利用などを勧めていたが、引き続きそれを促すとともに、例えば、専攻楽器や学科の垣根を越えて、複数名が集まれる時間を見つけて、鑑賞会を行うなどの取り組みを検討する。

また、年度初めに毎年提出してもらっている学生へのアンケートを参照しつつ、各学生の多種多様な期待、要望の認識に努め、さらにきめ細やかな配慮を心がけていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	森 保憲		
科目名	日本国憲法		
受講者数	174	成績評価した学生数	168
アンケート回答者数	49	単位取得学生数	159

1、授業の概要

日本国憲法の内容の概説、および日本国憲法をめぐって生じる具体的問題（事件）の法律論的解説

2、成果

授業への意識の高い受講者に対しては、憲法や政治に対する個人的関心を満足させる授業が提供できたものとする。

3、解決すべき課題（含、分析）

授業への意識・関心の低い学生が一部に見受けられ、そういった学生には満足できる内容の授業が提供できなかったように思われる。多くの学生に関心をもたせる授業内容が、今後の課題であるとする。

4、授業改善のための取り組み

本年度は、毎回講義レジュメとパワーポイントファイルを事前に配布したが、パワーポイントファイルがあることに安心し、授業を疎かにする学生が多かったように思われるので、来年度以降はパワーポイントファイルの配布をやめ、学生に、授業中にノートをしっかりと採らせるようにしたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	森岡 有裕子		
科目名	専門実技フルート、器楽表現フルート、 弦管打実技B、弦管打特別演習Ⅱ		
受講者数	21	成績評価した学生数	21
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	21

1、授業の概要

・器楽表現

フルート経験年数に合わせている。初めてフルートを始める学生には音の出し方から、ある程度吹ける学生にはその学生のレベルに合ったエチュードや曲を課題にした。

・専門実技 弦管打実技 弦管打特別演習

基本的にはエチュードと曲の課題を出す。エチュードはテクニク的に問題が浮き彫りになれば臨機応変に違う教則本を使ったり、基礎練習を一緒に見直してレッスン時間のほとんどをそれに費やすことが多い。

2、成果

一人一人にあったエチュードや曲を提案し、学生の練習量や熱量に応じて柔軟にテキストを変えたり、練習方法を丁寧に時間をかけて教えることをこころがけたので、なかなか伸び悩んでいた学生に上達がみえたり、学生のフルートに対する意欲を向上することができたと思う。アンケート3、4、5、8などの数値はその成果の表れではないかと感じる。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート1で回数・時間が守られていないと回答している学生がいるが、器楽表現のレッスンは一コマで4人のレッスンをしなければいけないのでとても難しい。経験年数が長くよく吹ける学生は、長い曲や音楽的にも高度な曲を練習してくるので、とても10分ほどのレッスンでは足りない。レッスン回数は守られていると認識している。

4、授業改善のための取り組み

ピアノ伴奏付きのレッスンを増やし、アンサンブルの楽しさや、ピアノパートも学ぶことの重要性を伝えたい。

レッスンを休みがちな生徒や、器楽表現の授業がグループレッスンであるにも関わらず毎回退室する学生がいるので、今後は毅然とした態度で対応していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	森尻 有貴		
科目名	音楽教育講義 C		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	24

1、授業の概要

本授業は主にイギリスの初等音楽教材、中等音楽教材の演習および社会的な音楽教育の様相や学校教育の位置付けを理解することを通して、我が国の音楽教育への批評的な視点を育成し、国際社会におけるより幅広い音楽教育の内容について理解を深めることを目標としている。イギリスの教材の演習やカリキュラムの理解、それらを経て、受講生が自ら、教材の翻訳等、理解等を伴うプレゼンテーションを行い、受講生とともに演習を行うことで、教材の実践を経験する。

2、成果

受講生は、日本の音楽教育では体験できない教材や内容を知ることができ、また演習形式の授業であったことから、受講生同士での学び合いを含めた経験ができたと考える。国外の音楽教育の内容を知ることによって、自国の音楽教育を見直す機会となったことが、学生からのレポート等からも伺うことができる。グループでの発表を課したことで、海外の教材理解や演習、プレゼンテーションなどの機会となり、受講生のプレゼンテーションへのフィードバックを提出することにより、発表への従事を促すことができたと考える。

3、解決すべき課題（含、分析）

英語で書かれた教材に対して、先入観として難しさを感じる受講生がいることが考えられる。グループワークとしたことで、受講生同士の助け合いなどで補填できた部分もあるが、英語力や翻訳アプリケーションの利用には個人差があると考えられる。PC やタブレットではなく、スマートフォンでプレゼンテーションの準備を進める学生もおり、活字資料のオンライン利用の環境に個人差がある。また、パワーポイントへの画像挿入、音声データ貼り付けなどのスキルに課題がある学生も見られた。

4、授業改善のための取り組み

音楽的な用語については、英語およびその翻訳語に関して、事前に一斉講義で伝えた上で、各グループの発表準備へ移行するようにする。準備の時間を授業内で設けているが、各グループの課題や困難さについて把握すると共に、机間指導を丁寧に行い、課題のあるグループやペアの支援を行う。

授業改善計画書（学部）

担当者	盛田 麻央		
科目名	専門実技Ⅱ、Ⅳ、演奏実習Ⅱ、声楽表現Ⅱ、Ⅳ		
受講者数	36	成績評価した学生数	36
アンケート回答者数	10	単位取得学生数	35

1、授業の概要

引き続き副科の学生が多いため、基礎的な発声方法を音階や、コンコーネで確認しつつ、2年目以上の学生には多言語（1年目はイタリア語）に挑戦させ、様々な言葉（ドイツ語、フランス語、日本語など）の使い方や、表現の違いなどを体験できるように指導を行った。そして、1年目でそれぞれが感じた得意分野をのぼし、逆に苦手な部分を少しでも改善できるよう1人1人の特徴を見極め指導することを試みた。

2、成果

始めは慣れない言語に苦戦する様子も多かったが、試験にドイツ語やフランス語を選ぶ学生もあり、少しずつ成果がみえたように感じた。1年間の間に声を出すことの抵抗が少しずつ無くなっていき、やりたいこと（自由な表現、こんな曲をやりたい、こんな声を出したい等）が増えていったと感じた。

3、解決すべき課題（含、分析）

ドイツ語や、フランス語に取り組んだ際にやはり苦手意識が拭えず、意欲が低下してしまう時期があった学生もいたように思う。そのため、多言語に対する意識改善が必要に感じた。

他には、グループレッスンにおいて、グループごとで取り組みスピードが変わってしまうため1年間で学ぶことができる曲数や知識に若干のばらつきができてしまったかもしれない。

4、授業改善のための取り組み

進み具合に関しては、それぞれのスピードを考慮しながら、最終的には同量の知識等が備わるよう、バランスを見ながら指導を行う。

言語に関しては、新しい言葉を始める際、まずはプリント等で言葉の仕組みや概要について簡単に説明し、取りかかりやすいようにサポートを心掛けたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	矢田部 一弘		
科目名	イタリア語ディクシオンⅡ		
受講者数	51	成績評価した学生数	49
アンケート回答者数	13	単位取得学生数	49

1、授業の概要

イタリア語は母音、子音共に日本語の音声とはかなり異なる。声楽では早い時期にその相違が認識できるようになることで発語運動との連携がスムーズにおこなわれるようになる。講師が実践しつつ他者の朗読に耳を傾けるよう呼びかけながら一人一人に課題を朗読させた。

イタリアオペラの映像、映画を解説しながら鑑賞させ劇的表現に必要な要素を感じさせた。

2、成果

他者の発語を聞くことで自身の発語が修正できることに気づいた学生が多かった。故に自身が朗読する順番でなくとも口だけは動かしている学生が増えた。

アンケート結果から意欲を沸かせ理解を進めることが少なからず達成できたと考える。

3、解決すべき課題（含、分析）

一般的に、そして各々にとっても習得が難しい音声がある。本来はそれらを抜き出し、時間をとって練習させたいところだが、個人を集中的に指導することはできない。歌唱への必然性と全体のバランスをより見極めてゆく必要がある。

4、授業改善のための取り組み

映像を用いることは分野への興味をそそること、そして劇的効果の必要性を認識する上で有効と考える。

歴史的な名演、本格派といった映像にはその要素がたぶんに含まれていると思うのだが、授業では「内容が重すぎる」という意見もあがった。導入手段として笑い、そして美的センスを上手く挿入すべきである。

授業改善計画書（学部）

担当者	山口 知恵		
科目名	スポーツC		
受講者数	116	成績評価した学生数	115
アンケート回答者数	16	単位取得学生数	108

1、授業の概要

バドミントンという種目を通して、健康の維持増進、バドミントンスキルの習得、コミュニケーション能力を養うことを目的とした。

授業の前半は、基礎技術（ラケットの扱い方、グリップの握り方、素振り、ステップ）の習得と各ショット（クリア、ドロップ、ロブ、スマッシュ、レシーブ、ドライブ、ヘアピン）の練習を行った。後半は、シングルスゲームやダブルスゲームを中心に、サーブ、レシーブの練習、ポジショニング、ダブルス時におけるペアとの位置関係やコンビネーションについて学んだ。

また、試合中のマナーやルールを理解して、セルフジャッジや審判法を修得した。

2、成果

設問 11 以外のすべての項目で、個人平均が 4.33～5.00 と高い結果となった。

学生は意欲的に授業に取り組み、授業内容に関して満足していることがうかがえる。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問 11 の予習復習時間に関しては、1.88～2.67 と昨年同様、他の項目と比較して低い結果となった。

昨年度に引き続きホワイトボードを活用してルールを図式化して説明を行ったので、学生の理解が早くなり復習の必要が無くなったのではないと思われる。

しかしながら、その説明方法に関して自由記述の内容で「説明が長い」との指摘を受けた。説明が長くなると学生の運動時間は短くなってしまふ。学生の運動時間を確保するためにはできる限り短時間で説明を行う必要があるが、いかに簡潔にまた理解を高める説明を行えるかが今後の課題となった。

4、授業改善のための取り組み

今までは、例えば試合の前にすべてのルールを細かく説明した後にゲームを行っていたが、まずは重要度の高いものから説明し、実際に動いてみて理解が足りていない部分の補足説明を加えるという方法も良いのかもしれない。

様々な方法を試してみて、学生の反応を見てみようと思う。

授業改善計画書（学部）

担当者	山崎 法子		
科目名	ドイツ語ディクシオンⅡ		
受講者数	30	成績評価した学生数	27
アンケート回答者数	8	単位取得学生数	23

1、授業の概要

前期に習得したドイツ語の発音を基礎として、実際の歌曲の詩を取り上げ、その朗読ができるようになることを本授業の目標とした。課題としては 4 曲の歌曲の詩が設定され、単に読めるようになるだけでなく、単語や文章が持つニュアンスを表現しながら朗読できるようになることを目指した。

授業では、単語や対訳を調べる作業にとどまらず、詩の情景を可視化するために絵を描いたり、詩に含まれる感情について考察を深めたりする活動を取り入れた。これらの活動は、ペアやグループワークを通して行われ、詩への理解と表現力の向上に寄与した。

2、成果

授業アンケートの結果では、第 11 項目を除き、概ね「5」の高評価を得ることができ、授業運営に関してはおおむね良好であったことが伺えた。一方で、第 11 項目の「予習・復習の時間確保」に関しては、回答にばらつきが見られ、これは昨年と同様の傾向であった。夏季休暇中に単語の意味調べ等の課題を課すことで一定の充実を図ったが、授業内での予習・復習課題の提示やその方法が明確でなかったことが、ばらつきの一因であると考えている。

3、解決すべき課題（含、分析）

「予習・復習」に関しては、今期も朗読の動画を作成・配布し、自宅や通学途中でも事後学習ができるよう配慮した。実際に多くの学生が動画を視聴しており、一定の効果が見られた。しかし、学習においては「読む・書く・聞く」の 3 要素がバランスよく行われることが重要であり、そのうちの「書く」作業が十分に実施されていないと推測される。

また、昨年度の課題であったアクティブ・ラーニングの実践として、学生同士で読み合い、暗記ができているか、あるいは適切な表現に近づいているかを確認し合う活動を積極的に取り入れた。しかし、授業内では学生間のレベル差が見られる場面もあり、教員としての十分な把握や、学習ポイントへの適切な力点の調整が今後の課題であると考えている。

4、授業改善のための取り組み

「少しずつ、毎日」が最も効果的と考える。短期集中よりも、毎日 10 分でも触れ続けることの方が長期的に大きな力になる。一度覚えても使わなければ忘れるため、定期的な復習も含めて「継続」する方法を楽しく示していきたい。そのために、「書く」機会を増やし、定着度を高める。そして、学習者にとって取り組みやすい形式・頻度・方法で予習・復習課題を提示し、定期的なフィードバックを行う。また個別フォローの機会を設けるほか、活動の難易度やグルーピングの工夫によって、学生全体の学びを支える。継続して朗読動画の内容を精査し、より効果的な自学自習ツールとして活用していく。

授業改善計画書（学部）

担当者	山田 寛		
科目名	日本伝統音楽表現（囃子）Ⅱ		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	5	単位取得学生数	17

1、授業の概要

- ・日本伝統音楽への理解を深めるには、日本音楽固有の様式を知ることが大切である。西洋音楽との違いを体験することが最も近道であると考え、長唄囃子における小鼓、太鼓、篠笛、能管を実習することにより日本伝統音楽の様式を学び、考える。
- ・実演家の演奏で生音を感じ、映像を観賞し伝統音楽を教材として取り上げるこの意味を考える。

2、成果

- ・半期ごとという短期間で伝統音楽に取り組むが、日を重ねる毎に学生それぞれが興味を持って学習できるようになり、伝統的な手法の実習に慣れていくことが出来た。
- ・学生が今まで経験することが希であった日本伝統音楽を間近に経験するため、新たな思いと考えを生むことが出来た。

3、解決すべき課題（含、分析）

- ・打楽器を持ち帰ることができないため、自宅自習が難しい。

4、授業改善のための取り組み

- ・「口唱歌」や手打ちを用いての練習のすすめ。
- ・録音や録画を使い、授業のメモを行う。

授業改善計画書（学部）

担当者	山田 剛史		
科目名	器楽表現（ピアノ）Ⅱ／Ⅳ／Ⅵ／Ⅷ ピアノ実技 AIV		
受講者数	31名	成績評価した学生数	29名
アンケート回答者数	10名	単位取得学生数	26名

1、授業の概要

ピアノの楽器の扱い、楽器の響かせ方といった演奏技術の基礎、ならびにリズムや和声、音の聴き方、音楽の作り方、時代様式といった音楽の基礎を学ぶ。後期の実技試験に向けて、人前で演奏をするための準備と心構えを学ぶと同時に、自分の中の芸術性を高め、それを聴き手と分かち合うことを大切な目標とする。

スケールやアルペジオといった技術の基礎訓練、理にかなった身体の使い方を重視し、自身の音楽的意図を実現できるための身体性を獲得できるよう、手助けをする。

2、成果

長年の試行錯誤の結果、さまざまなレベルの学生に対して、もっとも効果的で効率的な教材を選んで指導できるようになった。その結果、2・3・4・5・15の項目において、5点満点の評価を得ることができ、それについては非常に満足している。

ピアノが不得手な学生に対しても、分け隔てなく、必要な要素を淡々ときめ細かく説いていくことで、学生も満足感を感じながらピアノや音楽を学んでいる様子である。

3、解決すべき課題（含、分析）

項目 11 の予習・復習時間の浅さについて学生の自己評価が低いのは例年通りであるが、教員としては他の授業に差し支えない短時間の学習の中で最大限の効果を引き出す努力をしている。

項目 12・13 の数値が他より低いということは、学生の低い自己評価とは別に、「教員の音楽的要求度が高い」もしくは「要求する内容をうまく理解できていない」のではないかという懸念も、やや感じられる。

4、授業改善のための取り組み

授業における「音楽的な要求度」を妥協して下げることができないとしても、学生の悩みをきめ細かく聞きながら、各学生がよりのびのびと自発的に学習に取り組めるよう、引き続きコミュニケーション能力を磨いていきたい。

また、ピアノを学習する事によって「音楽全体への視野の広がり」を得ることは、最も重要な学習テーマであるので、学生にとって身近な例を取り入れながら、引き続き工夫を積み重ねていきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	山村 薫		
科目名	専門実技（ピアノ） 器楽表現（ピアノ） ピアノ実技 A・B		
受講者数	27	成績評価した学生数	27
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	26

1、授業の概要

各学生の目標、希望、ニーズ、学習歴等に合った内容や選曲でレッスンをを行った。レッスンでは、学生が音楽表現の楽しさを実感し、意欲的に取り組んでいけるよう指導することを心掛けた。器楽表現の学生には、ハーモニー感を身につけるための練習や、専攻楽器や歌の伴奏を取り入れる等、専攻にも役立つ内容になるように努めた。教員採用試験を受験する学生のレッスンでは、早い段階から少しずつ課題曲に取り組み、準備した。また、人前で演奏する練習として、試演会や発表会を実施した。

2、成果

多くの設問において 5.00 という結果であったことから、指導者の思いや意図は伝わっていたと考えられる。作品の分析、フレーズの歌い方、拍感、声部のバランス、その他、様々なテクニック等において、これまでレッスンで話したことを、多くの学生が自発的に考え、改善しようとするようになり、大きな成長を感じることができた。また、常に音をよく聴くように促していった結果、より良い音色や響きを求めて練習・演奏する姿勢が見られた。専攻楽器の曲の伴奏を弾き、実際に楽器と合わせる練習から、ハーモニーの聴き方や、合わせ方等、専攻の勉強に役立ったという声が聞けた。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問 10「レッスンに意欲的に取り組んだ」、設問 13「レッスン内容は理解し、習得できた」は、4.83 であった。全ての学生がレッスンの内容を理解・習得し、意欲的に取り組めるように工夫したい。設問 11「予習・復習時間」において、ピアノの練習に時間を費やすことが難しい学生も多いが、練習へのモチベーションや向上心を高め、練習・復習時間が増えるように努めたい。また、限られたレッスン・練習時間の中で、試験課題曲以外の曲に時間を掛けることが難しく、1年間で学ぶ曲数が予定よりも少なくなってしまった。より多くの曲を学べるようにしっかりと1年間の計画を作っていく必要があると感じた。

4、授業改善のための取り組み

学生自身が自分の目標や達成度を把握し、実感しなければ意欲的な姿勢で学ぶことは難しいだろう。長期的な目標、そしてレッスンごとの目標について学生と確認し合うと同時に、習得できたこと・できなかったこと等のフィードバックを明確に伝えていきたいと思う。レポーターにおいても、年度の始めに学生と話し合い、レッスン・練習計画を作りたい。また、発表会の他に試演会を頻繁に行い、その都度、目標を定め、練習へのモチベーションを高めていきたい。更に、連弾や様々なアンサンブルをもっとレッスンに取り入れていきたいと考える。学生の音楽的成長、そして将来のキャリアに役立つような指導ができるよう工夫し、改善していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	山本 絵理		
科目名	器楽表現ⅡⅣⅥⅧ		
受講者数	32	成績評価した学生数	32
アンケート回答者数	12	単位取得学生数	32

1、授業の概要

- ・演奏におけるテクニックの面は、短いレッスン時間の中では完結しないため、自宅練習がスムーズに進むよう、練習方法を丁寧に教えるようにした。
- ・作曲家や時代により、音質やタッチ、歌い方が違うことを、同じ曲を古典派風やロマン派風で弾き比べて聴かせることで、感じとってもらえるようにした。
- ・ピアノの履修が終了する時に、どのような曲が弾けるようになりたいのかを個々の学生とじっくり話し合い、最終目標の曲を演奏するために必要な技術や触れておくべき曲を、できる限り経験していくようにした。
- ・自身の保育士試験受験の経験をいかし、保育士実技試験対策（楽譜選び含む）を行った。
- ・音符そのものがもつ時間や空間、エネルギー等が理解しやすいよう、2年前よりリトミックの要素を組み込んでいる。

2、成果

- ・リトミックの要素を取り入れていることで、音と体の動きが一致する、自然な呼吸で演奏できる、感覚的なものを呼び覚ます、音の余韻が聴ける、休符や長い音符の扱い方が丁寧になる等、演奏に多くのメリットがみられるようになった。
- ・国立音楽大学で教え始めてからこれまで、その日のレッスン内容を全員分メモし、次のレッスン前には必ずそれを見返し次の目標を定めてレッスンに臨んでいる。今回、項目1と11以外は全て5.00と評価されたのは、真摯にレッスンに臨む姿勢が評価されたのだと思われる。

3、解決すべき課題（含、分析）

- ①「回数・時間は基本的に守られた」の項目で、5段階評価の4と回答した者が1名いた。「もう少し追求したい」「この場で良い感覚をしっかりと掴んで帰ってほしい」という教師の思いから、レッスン時間の延長がしばしばあったことが原因だと考えられる。
- ②「予習・復習時間」の項目が、他の14項目に比べ3.83と低い。

4、授業改善のための取り組み 上記①と②の改善

①指導の焦点を絞り、その中でさらに優先順位をつけ、時間内で計画的に進める指導のテクニックを磨く。②個人平均でみると3.83と低いが、6～10時間、11時間以上練習すると回答したものが今年度は66.7%と、前回（35.7%）や前々回（33.3%）と比べ大幅に増えているのは良い傾向である。よって、数年前に定めた「新しい課題をテンポよく与えて練習意欲を促す」「選曲時の話し合いを大切に（本人の好みに沿ったものを選ぶ）練習のモチベーションをあげる」という方法を継続する。練習量が少ない者には、復習の習慣づけを徹底させる。音楽そのものや音への向き合い方を学生に伝え、自発的に練習に取り組むことができるよう導いていく。

授業改善計画書（学部）

担当者	山本 佳代		
科目名	声楽表現Ⅱ		
受講者数	6	成績評価した学生数	6
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	6

1、授業の概要

発声、コンコーネ50番、イタリア歌曲（全音出版）の1巻から曲を取り上げて学習する。

イタリア語の読み方は、特に前期は共通の曲と一緒に読み、音を付け歌唱した後、一人ずつ歌う。

後期は各自の成長に応じた曲を選び歌えるように指導する。

伴奏も互いに弾いてもらい、ピアノ曲と伴奏の相違点を学ぶ。

2、成果

声楽が全く初めてという学生がいなかったので、進めやすかった。

声楽への興味がある学生も多く、声を出すことがスムーズになると積極的に学ぶ姿や練習をしっかりとしてくる学生もいた。また、互いに伴奏を弾いたこともよい学びだったと感じる。

アンケートの回答者数が3名と低いので学生自体がどのように捉えていたのかはこの数ではなんとも言い難い。

3、解決すべき課題（含、分析）

グループレッスンなので、一人が歌っている時間にほかの学生は楽譜を見てもらいながら聴き、曲を知ってもらい、言葉を確認し、次に自分が歌う時に役立つようにと考えてはいるが、集中力が途切れる学生もいる。慣れないイタリア語での歌唱も理由かも知れない。

上記に書いたように回答者数が3名なので、なんとも言えないが、予習・復習の時間が十分に取れない学生が多いことは一目瞭然である。

4、授業改善のための取り組み

カリキュラムは進めながら、時には日本歌曲等のアンサンブルを取り上げるのはどうかと考えている。各自の練習に沢山の時間をかけることが不可能なときでも慣れ親しんでいる言語で互いのハーモニーを聞き、互いに伴奏もして「声を出し、歌い、学ぶ」ことの喜びを伝えることが出来るのではないかと考える。

授業改善計画書（学部）

担当者	与儀 巧		
科目名	専門実技ⅡⅣⅧ 声乐表現Ⅵ 声乐実技AⅡ AⅣ		
受講者数	18名	成績評価した学生数	5名
アンケート回答者数	5名	単位取得学生数	15名

1、授業の概要

声乐科専攻は、導入としてコンコーネ、ヴァッカイ等の声乐教本を使用し、発声の技術を磨き、イタリア歌曲、日本歌曲、ドイツリート、オペラアリアと段階的に様々な言語、難易度の楽曲に取り組む。

副科声乐は、コンコーネ等を使用し発声の基礎的な知識を身に付け、個々の習熟度に合わせて様々な言語の歌曲、オペラアリアに取り組んでいく

2、成果

専科、副科のどちらもレッスンの回を追うごとに技術の向上が見られ、声域の広がり、歌への関心、そして多くの学生に音楽的知識の向上がみられた。

昨年までの課題であった、アンケートの項目11「1週間当たりの予習・復習時間は」がようやく改善され5段階評価の5の回答を全員から得られた。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生の思考を促すレッスンを心がけ、授業内で解決できなかった問題や課題点は次回までの課題とし、自分なりに取り組むよう促した。その結果、上に述べたアンケートの項目11の評価につながったと思う。

4、授業改善のための取り組み

今回のアンケートは、全項目で5の回答を頂けた。昨年の反省を踏まえ、レッスン方法を工夫した結果と自負している。今後も、この結果に甘んずることなく、学生のレッスンへ対する意欲向上を目指し、様々なツールを活用し、楽しい中にもしっかりと学びのあるレッスンを目指していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	横田 太郎 D. レスタ		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）Ⅱ		
受講者数	22	成績評価した学生数	21
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	20

1、授業の概要

週2回の講義を、2名の担当教員で同一の教材を用いて進める。その際、教員による「文法解説」を中心に据えた従来の語学教育の在り方に縛られることなく、受講生がイタリア語のルールを自主的に理解し実践的に用いる力を身につけることを目標とする。そのため、教員がすべてを解説するのではなく、受講生自身が問題解決を行う場면을重視する。

2、成果

授業内容にかかわる設問6、8、12、13について、回答は5および4であった。従来の語学教育の在り方に慣れている受講生にとっては、帰納的アプローチを用いるこの授業は若干ハードルが高く感じられるかもしれないが、この結果は「実践的なイタリア語力」を身につけてくれた学生、あるいはそれを意識してくれた学生が多くいたことを示していると考えられる。

3、解決すべき課題（含、分析）

設問11について、回答1および2が多い。そもそも予習は不可能な教材および授業の形態であるが、復習はできるかぎりして欲しい。

4、授業改善のための取り組み

今期は定期試験の点数が芳しくなかった受講生に「課題」を複数回課し、その確認を毎回クラス全体で行った。これをうまく応用すれば、クラス全体として復習のきっかけづくりになるかもしれない。

授業改善計画書（学部）

担当者	吉田 真梨		
科目名	厳格対位法Ⅳ		
受講者数	16	成績評価した学生数	16
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	14

1、授業の概要

厳格対位法Ⅰ～Ⅳまで、基本的に二年間のカリキュラムで構成されており、対位法の技術向上を目的とする。

厳格対位法Ⅲでは、長調、短調、教会旋法による定旋律に、全音符、二分音符、四分音符、移勢、華麗対位法、混合類それぞれのリズムによる対旋律を付ける単純対位法を、三声または四声で学習するが、進度は学生により様々である。授業は各自課題の実施を軸に、中世からロマン派における対位法的楽曲の分析も行う。

2、成果

厳格対位法Ⅰから二年間担当したが、殆どの学生に技術的進歩が見られた。

始めは和声との違いにとまどったり、指摘しないと誤りに気付かないことが多かったが、段々と自分自身で気付けるようになり、短い対位法の中にも美やこだわりを見出すことができるようになった。

3、解決すべき課題（含、分析）

やる気のある学生が履修してくれたおかげで特段問題点はなかったように思う。

4、授業改善のための取り組み

学生自身に楽曲分析や演奏、発表の場を作るなど、能動的作業をより多く取り入れたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	吉田 優子		
科目名	専門実技 器楽表現		
受講者数	24	成績評価した学生数	24
アンケート回答者数	8	単位取得学生数	23

1、授業の概要

4年間を通して「①楽譜を正確に読む ②響きに対する感覚を養う ③無理のない合理的な奏法を習得する」の三点を主眼として、実技能力の向上を目指した。さらに奏法と楽曲のイメージを結び付けることにより、演奏表現の構築を自発的に行えるよう指導した。

そのうえで、より深い表現を追求するために、作曲者の情報、曲の解説、演奏上の方針や意見、参考資料などを記入する用紙「楽曲解説リスト」、資料の検索番号、短い感想などを記入する用紙「CD・DVD 検索カード」を各セメの提出課題とした。また、表現に対する多角的視点を養う目的で、2つの音源を聴き比べて感想を記す「CD/DVD 鑑賞レポート」の提出を学生の専門性に応じて導入した。

教員採用試験の準備および卒業後、音楽教育に携わる際の有用なスキルや表現方法の習得も重要であると考え、歌曲伴奏や弾き歌い、初見演奏の学習も取り入れた。

2、成果

昨今の多様な音楽履歴や個々の練習環境を考慮し、学生との積極的なコミュニケーションを図ったことにより、「学生への誠実な接し方(4.75)」が成果として現れた。

また設定した提出課題や、さまざまな進度に対応した教材の選定・選曲も「使用教材の適切さ(4.75)」に繋がり、「理解・習得(4.5)」の成果として現れた。

3、解決すべき課題（含、分析）

「予習・復習時間(3.5)」に対して指導者に求められるのは、学生が計画的な練習により自身の奏法や音楽性向上を実感した結果、自主的な練習や技術習得への意欲を獲得するという好循環を促すことである。「授業への意欲的な取り組み(4.63)」「授業満足度(4.63)」から、学生の授業へ対する充実感は得られているものの、授業外において積極的な学習を展開するためには、指導者側のより一層の工夫や学生への働きかけが効果的と思われる。

4、授業改善のための取り組み

今後も各学生の実力や適性に合わせて、課題の提示、学習方法の説明、資料の紹介などを積極的に行う。学生とのコミュニケーションを維持しながら、個々の進度や実力に合わせた基礎的な技術の習得を積み重ね、さらに応用力を育むために豊かなイメージを想起させるような多角的なアプローチを試みる。また、短期・長期目標を明確に掲げ、演奏発表までの計画性や目標達成への改善を続ける。

「とても分かりやすく楽しいレッスン」、「また教わりたい」という自由記述が示すように、毎回のレッスン内容の充実尽力しながら、さらに継続して個人の成長を促す授業を実施していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	D. レスタ・横田 太郎		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）Ⅱ		
受講者数	22	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	6	単位取得学生数	20

1、授業の概要

イタリア語を母語とする教員と日本語を母語とする教員が、週 1 回ずつ、各々毎週の講義を行う。講義では帰納的アプローチを用い、イタリア語の「聞く・読む・書く・話す」力を総合的にバランスよく習得すると同時に、言語の背景となるイタリア文化に関する理解を深めることを目的とする。様々なコンテストでのコミュニケーションに基づき、教員は学生自身がイタリア語の運用ルールを見つけることを補助する。

2、成果

今年度の授業中に実施したアクティビティ、中間試験、課題、期末試験等の結果から、大半の学生は初級に相当するイタリア語でコミュニケーションするうえで必要な基礎知識を、ある程度、習得することができたと考えられる。また、学生の満足度も、授業に関するアンケートから確認できる。具体的な数字を挙げると、設問 11 を除き、残る設問の平均結果は、4.50 以上である。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケートの設問 11 の平均のみ、3 を下回った。この点は、授業のための 1 週間あたりの予習・復習時間が十分ではなかったと感じた学生が、少数であるが、いたことを示している。こうした学生のモチベーションを向上させることが、今後取り組むべき課題である。

4、授業改善のための取り組み

授業のための 1 週間あたりの予習・復習時間が十分ではなかったと感じた学生が、少数であるが確認されたため、毎回の授業の初めに、前回の講義内容を復習する時間を、少しでも多くとるようにしたい。また、授業中に生じる疑問、学生が難しく感じる点について、その場で話し合う機会を増やす方針が効果的であったため、引き続き実施したい。外国語習得研究の成果を視野に入れつつ、帰納的アプローチを引き続き効果的に用いることで、イタリアの言語と文化の様々な側面について学生自らが発見する授業を提供し、今後も学生にイタリア語を勉強する楽しみを実感してもらいたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	エリカ ロッシ		
科目名	外国語コミュニケーション（イタリア語）Ⅱ		
受講者数	24	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	7	単位取得学生数	22

1、授業の概要

週2回の授業で「聞く・読む・書く・話す」力をバランスよく身につけるとともに、言葉の背景になるイタリア文化の理解を深めることを目標にしています。文化やメンタリティーの理解がなければ、言葉のふさわしい解釈ができないからです。「聞く・話す」力を育てるためには、リスニングをベースにしたシンプルな会話の練習を行います。「読む・書く」力は簡単な文章を読むことから始まり、ふさわしい解釈を目的とし、辞書の正しい引き方の練習をしていきます。リーディングをベースにし、書く力も育てていきます。必修科目の最終目標として、学生がイタリア語を自立的に勉強できるようにすることです。

2、成果

アンケートから見ても授業内容に対して学生の満足度は高い（5.00）です。他の先生と密接に意見交換をしながらクラスのニーズに合わせて随時授業内容の検討・修正を行ったおかげだと思えます。なお、今年は特に学生の一人一人の声に耳を傾ける努力をしました。その結果、4.「教員は学生に誠実に接した」の高い評価に反映されています（5.00）。最後にイタリア語そのものだけでなく、目的していた異文化理解を深めるチャンスになったことは12.「~視野が広がった」質問に対する高い評価に反映されています（5.00）。

3、解決すべき課題（含、分析）

予習・復習時間が不足していたこと、最も参考にするべき指摘です（3.43）。是非共同でクラスを運営している先生たちと話し合いながら学生に授業内に知識を身につけるようにしたいと思います。

4、授業改善のための取り組み

授業では学生に発信を強く求め、インターラクティブなクラス運営に務めました。この方法は音楽大学の生徒に一番相応しいことが分かりましたので他の先生と話し合っ今後、ロールプレーなどの教育方法をより積極的に導入することになりました。また、今後解決すべき課題として自宅で復習・予習をしなくとも授業時間内に知識をしっかり身につけてもらうことにしたいと思います。なお、2024年度にお試しで開いたテスト前の勉強会をより回数を増やして学生とコミュニケーションを図る場を増やしたいと思います。

授業改善計画書（学部）

担当者	Imma Romano		
科目名	外国語コミュニケーション(イタリア語IV02)		
受講者数	23	成績評価した学生数	22
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	21

<p>1、授業の概要</p> <p>本コースは週に 2 回開講され、4 技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング) のバランスの取れたスキルを養うとともに、言語の背景にあるイタリア文化への理解を深めることを目的としています。ある言語を正しく解釈するためには、その文化的・精神的背景を理解することが必須だからです。</p> <p>リスニングとスピーキングのスキルを向上させるために、リスニング練習を基にした簡単な会話演習を取り入れています。リーディングとライティングのスキルについては、シンプルな文章を読むことから始め、適切な解釈に焦点を当て、辞書の正しい使い方を練習します。最終的な目標としては、学生が自律的にイタリア語を学習できる力を身につけることを目指します</p>
<p>2、成果</p> <p>アンケートの結果を見れば学生の質問に対して教員の対応が適切であったこと(5点)や教員が学生に誠実に接したこと(5点)などの成果を達成できたことが分かりました。</p>
<p>3、解決すべき課題（含、分析）</p> <p>アンケートの数値(2.33)から多くの学生が授業と授業の間に予習・復習する時間が十分ではないと思っていることが明らかになりました。</p>
<p>4、授業改善のための取り組み</p> <p>上記の課題に対処するため（この授業では事前準備が不要であることを踏まえ）、ペアの教師と可能な改善策について話し合いたいと考えています。各授業の後、ペアの教師がクラスの進捗状況を報告してくれます。それを基に、次の授業では新しい内容にすぐ進むのではなく、復習専用のセクションを設ける予定です。</p> <p>具体的には、前回の授業の重要なポイントを振り返り、学んだ内容を使って学生同士で質問し合う活動を取り入れます。これにより、学生が内容をしっかりと理解できるようにすることを目指します。</p>

授業改善計画書（学部）

担当者	ロン美香		
科目名	英語初級（会話入門）B		
受講者数	5	成績評価した学生数	5
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	5

1、授業の概要

英語入門者向けのテキスト「English Listening and Speaking Patterns 1」を使用し、英語以外の外国語を専攻していた学生でも会話に参加できるように配慮しつつ、語彙・リスニング・英語表現などを交えながら練習をペアや小グループでさせた。また教師・学生両方で英語の質問をしあうことで発話の機会を作った。学期中に2度教師によるアセスメントを行いアドバイスをした。

2、成果

学期始めは発話を躊躇う学生もいたが、徐々に授業のペース、クラスの雰囲気やクラスメートに慣れていった。教員はなるべくポジティブフィードバックを与えたり学生に平等に接するよう努めたのだが、学生からも高評価を得ていたのが効果的だったようだ。

学期終盤には個人差はあるものの、学期始めと比べると英語がかなりスムーズに出るようになったので、アンケートに記されている通り学生も予習復習をしっかりとしてきたのだろう。

3、解決すべき課題（含、分析）

学生による「授業に関するアンケートの結果」をみると、全項目とも高評価（5）だったので難易度や授業のペースは問題なかったようだ。今後このクラスを担当することになる場合、学生間の英語による発話の機会が更に増やせるようアイデアを出してみたい。

4、授業改善のための取り組み

テキスト内容に加え、ロールプレイや個人的な意見など前週で学んだ内容を復習しながら使える Warm-up exercise を授業に更に加えると内容の定着がより一層図れるかもしれない。

授業改善計画書（学部）

担当者	渡邊 公威		
科目名	専門実技（声楽）Ⅱ/Ⅵ/Ⅷ 声楽表現Ⅱ/Ⅳ/Ⅷ		
受講者数	32	成績評価した学生数	32
アンケート回答者数	9	単位取得学生数	32

1、授業の概要

専門実技（声楽）に関しては、2年生には主にイタリア歌曲、3年生以降は主にイタリア歌曲、フランス歌曲、ドイツ歌曲、モーツァルトのオペラ作品からのアリアなどを課題で与え、それぞれに呼吸法、発声法の指導を土台に、発音、作品解釈を含め指導した。声楽表現での1年生には、呼吸の練習、発声練習を中心に、イタリア古典歌曲からの作品を教材に、2年生にはイタリアバルカント期の歌曲、トスティの歌曲などを教材にグループレッスンを通して指導した。

2、成果

全学生共に、発声における基礎的な面の習得に課題が多く散見され、それぞれの声質、骨格、性格などを踏まえ、イタリア式の発声法を身につけるべく指導した。今現在できるそれぞれの進捗状況としては、アンケート結果を鑑みても学生との関係性は概ね良好であり、お互いの信頼性のもとレッスンに取り組むことができた。結果として、開講時と比べ、発声面、音楽面、語学面共に個人差はあるものの概ね成長を見ることができたと感じる。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート結果1に関して、レッスン回数は完全に守れたので、レッスン時間に不満を持った生徒が「3」を付けたと推測するが、恐らく3人でのグループレッスンが叶わず2人でのグループレッスンになった際に30分強（一人あたり15分換算）に短縮したことに対しての不満かと考える。しかし、これは事前に説明済みで了承済みである。アンケート結果11に関して、評価3以下の学生は副科が多いと思うが、それぞれの専攻の準備も忙しいこともあり予測はできていたが、課外での練習がレベルアップには必須であり何らかの改善が必要と考える。

4、授業改善のための取り組み

アンケート結果1に関しては、特に改善する予定は無い。
アンケート結果9に関しては、学生の自主性に頼る要素が強く、こちらから何らかの改善をする予定は無いが、特にメンタル面での不調により出席が困難な場合は、面談、或いはスクールカウンセラーのご助力を得たいと考える。
アンケート結果11に関しては、特に副科声楽レッスンで「レッスン終了時に次回レッスンまでに個々で取り組むべきこと、改善すべきこと」を具体的に提示するとともに、次回レッスンでは学生個人に「1週間での進捗状況を都度確認させること」をレッスンで盛り込んでいき、レッスンの重要度を増していきたい。

授業改善計画書（学部）

担当者	渡部 晃正		
科目名	教育社会学		
受講者数	41名	成績評価した学生数	36
アンケート回答者数	14名	単位取得学生数	36

1、授業の概要

講義を中心に据えつつ、グループディスカッションや発表を取り入れ、受講生が自らの意見や考えを述べる機会を設けています。毎回課題を用意し、Google Classroom を通じて提出してもらい、次回の授業でフィードバックを行いました。また、事前にプリントや参考資料を配布して予習を促し、授業では各種メディアを活用することで受講生の理解を深める工夫を施しました。授業内容は、文部科学省が示すコアカリキュラムに準拠しています。さらに、受講生の多くが1・2年生であることを踏まえ、教職の魅力を伝えるとともに、採用試験に向けた学修の進め方についても教授しています。

2、成果

アンケート結果を見ると、予習・復習時間を除いた評価では「5」を選択する受講生が多く、概ね良好な成果が得られたと考えています。自由記述では、「色々な社会問題をグループ学習で学べるのが良かった。自分には無い考えを知ることが出来たのが一番学びとなった」など、グループディスカッションに対する肯定的な意見が見られました。また、「教育に関することを多角的な視点から考えることの大切さを、授業、また課題を通して学ぶことができました」といった感想も寄せられました。

3、解決すべき課題（含、分析）

グループディスカッションを取り入れたことで、受講生が主体的に授業に取り組む姿勢が見られました。そのため、次年度も引き続き実施していきます。

なお、今後の課題として、以下の2点が挙げられます。

- 1) 一週間あたりの「予習・復習」時間を十分に確保する必要があること。
- 2) 学生の発表に際し、時間の制約上、発表できる人数が限られてしまうこと。できるだけ多くの学生の意見や考えを取り入れ、授業内でフィードバックを行う仕組みを検討する必要がある。

4、授業改善のための取り組み

「予習・復習」に関する課題については、事前に配布するプリントや授業後に提出する課題の内容を工夫することで、改善を図りたいと考えています。また、授業内ではMentimeterなどのオンラインシステムを活用し、より多くの学生の意見や考えを取り上げる機会を増やしていく方針です。次年度も、受講生が興味・関心を持てるテーマを設定し、一人ひとりが自らの意見を表明しながら、主体的かつ能動的に授業へ取り組めるよう、引き続き工夫を重ねていきたいと考えています。

4. 授業改善計画書 (大学院)

授業改善計画書（大学院）

担当者	市川 景之		
科目名	フーガ実習		
受講者数	6	成績評価した学生数	4
アンケート回答者数	3	単位取得学生数	4

1、授業の概要

実習形式で「学習フーガ」を作成する。

転調を含む調性の展開、主題・素材の操作、音楽のエネルギーの作成。

2、成果

学生各自の進捗で学習フーガを複数曲作成できた。

3、解決すべき課題（含、分析）

アンケート結果によれば、私サイドの問題点というよりは、多忙な学生が準備の時間が思うように取れないことが問題があると思う。

4、授業改善のための取り組み

これ以上平易な課題を課すことは不可能であるが、と思案するほかない。

授業改善計画書（大学院）

担当者	三ヶ尻 正		
科目名	作品研究（声楽）Ⅱ		
受講者数	17	成績評価した学生数	17
アンケート回答者数	4	単位取得学生数	17

1、授業の概要

「作品研究Ⅰ」に引き続き、声楽作品と歌詞について実践的な知識と技能を高める（ドイツ語、ラテン語、英語）。ディクシオンに重点を置くほか、宗教曲など諸ジャンルへの取り組み方も扱う。歌詞・テキストと歌唱表現についてはオペラ演習とも連動する。後期の「作品研究Ⅱ」は特にオペラ演習との連携を深め、ドイツ語声楽作品におけるディクシオンとオペラのDialog部分の実技に重点を置く。また宗教曲やオラトリオについても時間を割く。前期に引き続き、ディクシオン指導は各回数人ずつ実際に歌って指導を行う。

2、成果

後期のこの授業では、ディクシオンについて、また歌詞・テキストと歌唱表現について授業で座学的知識を高めた。またオペラ演習履修者は歌う歌詞全体の翻訳を課し、その添削を通じて作品の理解が格段に深まった。オペラ演習非履修者にも歌曲、オラトリオ等で同等の課題を課し、同様の成果を得た。宗教曲やオラトリオについては、知識の浅い学生も多く、実例に多く触れることで、作品そのものやジャンルへの理解が深まった。

3、解決すべき課題（含、分析）

大学院声楽専攻1年生全員の必修科目で、受講者数は2022年度12名、2023年度22名、2024年度17名と変遷している。2023年度は第13項について「十分に習得できなかった」との声があったが、2024年度は人数も多少絞られたことにも助けられ、個人指導の時間と内容の充実で解消できたと考える。

第11項で予習・復習の時間が少なめと出ているが、実際は「オペラ演習」と連携し「作品研究」の一環として行っている字幕用対訳作成やディクシオン指導のために学生は授業以外に相当の時間を費やしている。この連携の認識が浅いため、作品研究の予習・復習の時間を少な目と回答しているものと推測される。これは例年のことでもある。

4、授業改善のための取り組み

こうした授業時間外の課題や指導が、第11項の予習・復習に相当するものであることの周知を徹底したい。また、すでにこの面でかなり授業時間外に労力を割いている学生諸君にさらに負担をかけることになるが、後期の授業内容については取り上げる作品の予習課題も増やすように配慮する。

発行 国立音楽大学教務委員会
国立音楽大学大学院委員会
東京都立川市柏町5-5-1
発行日 2025年8月29日